



目次

巻頭言

病院長 矢尻 洋一

I 病院の概要

沿革
概況
組織図
委員会・会議一覧
入院・外来患者数の推移
医事統計
疾病統計

II 診療状況

消化器内科	副院長 高村 昌昭
呼吸器内科	副院長 岩島 明
循環器内科	副院長 中村 裕一
腎臓内科	内科部長 渡邊 資夫
糖尿病センター	センター長 八幡 和明
血液内科	内科部長 坪井 康介
腫瘍内科	内科部長 小林 由夏
神経内科	神経内科部長 渡邊 浩之
小児科	
外科	外科部長 北見 智恵

脳神経外科

産婦人科

耳鼻咽喉科

眼科

整形外科

形成外科

皮膚科

泌尿器科

麻酔科

放射線治療科

放射線診断科

血管外科

歯科口腔外科

呼吸器外科

検査科

副院長 加勢 宏明

耳鼻咽喉科部長 岡部 隆一

眼科医長 高田 律子

整形外科部長 浦川 貴朗

形成外科部長 渡辺 玲

皮膚科部長 和泉 純子

泌尿器科部長 高橋 英祐

麻酔科部長 石井 秀明

放射線治療科部長 阿部 英輔

歯科口腔外科部長 山賀 雅裕

編集後記

学術教育委員会委員長 高村 昌昭

病院年報巻頭言

病院長 矢尻 洋一

令和元年（2019年）から令和5年（2023年）までの病院の診療実績を上梓いたします。平成30年の年報から随分時間が過ぎてしまいました。お恥ずかしい限りです。今回もホームページ上に掲載し、多くの方々に情報発信させていただきます。

令和2年（2020年）早々からの新型コロナウイルス感染症により、世の中はすべてが大きく変わりました。当院は新型コロナウイルス感染症に対して、一早く発熱外来を開設し、地域のワクチン接種においても積極的に協力し、多くの入院患者さんを受け入れ、周辺医療機関と連携し地域医療に貢献いたしました。そのようなコロナ禍でも、通常の一般診療もレベルを高めながら継続した当院すべての職員を誇りに思います。

長年、地域医療に貢献し当院の発展の原動力であった富所隆名誉病院長の退職に伴い、令和4年4月から矢尻洋一が病院長職を引き継ぎました。

この5年間の大きなイベントとしては、令和元年5月放射線治療棟完工、令和2年10月入退院支援センター開設、令和3年3月地域医療支援病院承認、令和4年4月頭頸部外科増科、検査科・病理部 ISO15189取得、令和5年2月日本医療機能評価機構 病院機能評価認定取得、同8月紹介受診重点医療機関指定、同12月がんゲノム連携病院承認などです。

長岡中央総合病院は、今後も当院の臨床の柱であるがん治療に注力し、長岡・中越地域の中核病院として救急医療はもちろん、地域医療に職員一同、責任をもって貢献いたします。

当院の診療実績、活動をご覧いただければと思います。今後ともよろしく願いいたします。

長岡中央総合病院の沿革

大正末期から昭和初期における全国的な農民運動の一環として設立運動が始められ、医療に恵まれない農村に協同利用施設「愛と奉仕」「相互扶助の精神」の医療機関として開設された。

昭和	9年	4月	中越医療組合病院設立許可
	10年	7月	中越医療組合病院開設（70床）
	19年	9月	新潟県農業会中央病院（組織変更）
	20年	8月	戦災で全焼～再建
	23年	8月	新潟県生産農業協同組合連合会中央病院（組織変更）
	26年	8月	公的医療機関に指定
	27年	5月	新潟県厚生農業協同組合連合会中央病院（組織変更）
	29年	7月	長岡市委託病棟建設
	32年	8月	新潟県厚生農業協同組合連合会中央総合病院（組織変更）
	41年	6月	本館改築竣工（S38.7着工 RC6F）
	46年	3月	本館中央棟新築竣工
	48年	7月	人工透析施設設置
	49年	2月	整形外科機能訓練（リハビリテーション）承認
	54年	5月	病院近代化大規模改築工事着手
		10月	着工（RC地下1F地上6F）
	56年	4月	脳神経外科増科
		5月	竣工（診療科目14科）
		9月	増改築（本館・中央棟・委託棟）工事着手
		12月	形成外科増科
			福島江上に病院駐車場建設
	57年	7月	竣工（診療科目15科）
	58年	8月	人間ドック増床（531床）
	59年	10月	麻酔科増科（診療科目16科）
	60年	12月	増改築（健診棟RC地下1F地上4F 連絡橋 内部改修）工事着手
	62年	6月	竣工
	63年	7月	放射線科・小児科増改築工事着手
平成	元年	5月	竣工
			核磁気共鳴コンピューター断層装置（MRI）導入
	4年	4月	健康管理課組織変更（附属施設 中央健診センター）

6年12月	健診棟増築工事着工（人工透析センター）
7年4月	呼吸器外科増科（診療科目17科）
5月	健診棟増築工事竣工
6月	人工透析センター稼働
10月	第44回日本農村医学会学術総会 開催（長岡市にて）
8年4月	新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院（名称変更）
	長岡市在宅介護支援センター開所
	旧看護婦寮跡地に病院駐車場建設
9年4月	心臓血管外科増科（診療科目18科）
10年4月	長岡中央訪問看護ステーション開設
	病診連携室開設
11年10月	長岡中央総合病院在宅介護支援事業所開設
平成12年2月 開設	長岡市在宅介護支援センター長岡中央総合病院在宅介護支援事業所 内部改修工事（検査科 栄養科 救急室等）
13年4月	地域保健福祉センター設置
11月	処方オーダーリングシステム稼働
15年4月	開放型病床（オープン病床）5床にて運用開始 臨床研修病院指定の指定を受ける 移転新築工事起工式
5月	開放型病床（オープン病床）10床医療法に基づく申請許可受理
16年10月	病院移転新築工事上棟式 新潟県中越大震災
17年9月	病院移転新築工事竣工式
10月	新病院開院 オーダーリングシステム導入
18年8月	がん診療連携拠点病院指定
19年2月	長岡市都市景観賞表彰
7月	新潟県中越沖大震災
10月	第56回日本農村医学会学術総会開催（長岡市にて）
20年7月	DPC導入
10月	7：1看護基準導入
22年12月	外来化学療法室他増改築工事（化学療法室18床→30床）
23年3月	長岡市在宅介護支援センター廃止

24年	1月	土曜診療の廃止	
24年	4月	消化器内科、消化器外科増科（診療科目23科） DPCⅡ群指定	
24年	5月	中央看護専門学校移転新築工事着工	
25年	5月	中央看護専門学校新校舎開校	
	7月	医局・研修医室拡充工事、事務長室、総務課内部移転	
	9月	病院情報システム更新	
26年	4月	病理診断科増科（診療科目24科）	
	10月	福祉連携センターに名称変更（規程改訂）	
27年	2月	注射・輸血・看護管理オーダリングシステム稼働	
28年	2月	電子カルテ（入院）稼働	
	4月	長岡中央総合病院附属栃尾郷クリニック開所	
	6月	電子カルテ（外来）稼働	
	8月	長岡中央総合病院附属栃尾郷クリニック移転新築	
29年	3月	長岡中央総合病院たんぼぼ保育園開園	
30年	2月	DPCⅡ群指定更新	
30年	10月	放射線治療棟増築及びHCU病棟改修工事起工式	
30年	4月	呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、脊椎脊髄外科、リウマチ科、放射線治療科、臨床検査科、救急科増科（診療科目33科） HCU病棟開設	
令和	元年	5月	放射線治療棟完工
	2年	10月	入退院支援センター開設
	3年	3月	地域医療支援病院 承認
	4年	4月	頭頸部外科増科（診療科目34科） 検査科・病理部 ISO15189 取得
	5年	2月	日本医療機能評価機構 病院機能評価認定取得
		8月	紹介受診重点医療機関指定
		12月	がんゲノム医療連携病院 承認

長岡中央総合病院概況

1. 所在地	新潟県長岡市川崎町2041番地
2. 敷地面積	109,137 m ²
3. 建築面積	18,145 m ²
4. 延床面積	48,605 m ²
5. 駐車場	1,603台
6. 診療科	内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、腫瘍内科、神経内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脊椎脊髄外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、精神科、心療内科、放射線科、放射線治療科、臨床検査科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科 合計 34 科
7. 許可病床数	一般 500床
8. 社会保険等の指定	保険医療機関・労災保険指定・結核予防法指定・生活保護法指定・育成医療指定・更正医療指定・養育医療指定・原爆医療指定・地域周産期母子医療
その他の指定	臨床研修指定(基幹型) H15.4.1 がん診療連携拠点病院 H18.8.24 地域医療支援病院 R3.3.30 病院機能評価3rdG:Ver2.0 R5.2.10 紹介受診重点医療機関 R5.8.1 がんゲノム医療連携病院 R5.12.1
9. 救急病院	救急病院告知 H17.10.1

10. その他

開放型病床導入 H15.5.1

新築移転開院 H17.10.1

外来化学療法室他増改築完工 H22.12.10

長岡市在宅介護支援センター廃止 H23.3.31

たんぽぽ保育園開園 H29.3.1

HCU 病棟改修工事完工・引渡 H31.3.14

放射線治療棟増築工事完工・引渡 R1.5.24

令和5年度 委員会・会議一覧

委員会

運営審議委員会
薬事委員会
治験審査委員会
衛生委員会
防災委員会
病院安全管理委員会
医療安全管理対策委員会
院内感染防止対策委員
放射性同位元素安全委員会
放射線被ばく線量管理委員会
化学療法委員会
臨床検査運営委員会
輸血療法委員会
褥瘡対策委員会
栄養管理委員会
栄養サポートチーム委員会
DPC 委員会
情報システム委員会
診療録管理委員会
がん登録委員会
小児保護委員会
個人情報保護委員会
コンプライアンス委員会
業務適正化委員会
医師の働き方改善委員会
臨床研修管理委員会
看護師特定行為研修管理委員会
地域医療支援病院運営委員会
地域医療支援病院研修管理委員会
倫理委員会
利益相反委員会
救急委員会

委員長

矢尻 洋一
矢尻 洋一
長谷川 潤
矢尻 洋一
矢尻 洋一
河内 保之
河内 保之
岩島 明
矢尻 洋一
矢尻 洋一
加勢 宏明
中野 正明
坪井 康介
和泉 純子
高村 昌昭
高橋 利幸
矢尻 洋一
河内 保之
高村 昌昭
河内 保之
竹内 一夫
矢尻 洋一
矢尻 洋一
矢尻 洋一
矢尻 洋一
岩島 明
岩島 明
矢尻 洋一
矢尻 洋一
長谷川 潤
長谷川 潤
中村 裕一

医療材料検討委員会	谷口 禎規
接遇委員会	高村 昌昭
緩和ケア委員会	外池 祐子
クリニカルパス運用対策委員会	川原 聖佳子
保険診療委員会	高村 昌昭
院内臓器提供委員会	矢尻 洋一
小児心身支援対策委員会	矢尻 洋一
学術教育委員会	高村 昌昭
保健福祉推進会議	矢尻 洋一
病診連携運営委員会	矢尻 洋一
ボランティア委員会	矢尻 洋一
ハラスメント委員会	矢尻 洋一
ワークライフバランス推進委員会	五十嵐 久美子
診療科代表者会議	矢尻 洋一
臨床倫理委員会	中村 裕一
院内救命士業務検討委員会	中村 裕一
せん妄・認知症サポートチーム会	渡邊 浩之

外来患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和元年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	10,173	9,924	9,446	11,271	10,020	10,113	10,931	10,073	10,642	9,654	8,921	10,131	121,299
神経内科	792	717	724	845	768	738	826	761	799	693	705	736	9,104
小児科	1,324	1,266	1,149	1,242	1,219	1,178	1,236	1,201	1,437	1,176	988	1,139	14,555
外科	2,778	2,509	2,529	2,761	2,325	2,594	2,830	2,807	2,812	2,434	2,234	2,541	31,154
呼吸器外科	215	246	198	265	201	210	254	249	243	210	167	251	2,709
心臓血管外科	168	181	176	166	157	194	163	181	167	155	143	187	2,038
脳神経外科	841	747	797	853	710	706	775	720	672	600	565	754	8,740
産婦人科	2,055	1,960	2,004	2,145	1,940	1,889	2,090	2,018	2,151	1,802	1,670	2,052	23,776
耳鼻咽喉科	3,163	2,812	2,794	3,094	2,741	2,471	2,266	1,689	1,340	840	794	805	24,809
眼科	1,468	1,367	1,332	1,486	1,350	1,416	1,455	1,340	1,523	1,353	1,216	1,393	16,699
整形外科	2,715	2,643	2,445	2,715	2,618	2,539	2,822	2,557	2,778	2,510	2,220	2,549	31,111
形成外科	509	498	477	531	480	473	558	499	557	541	532	540	6,195
リハビリテーション科	3,645	3,460	3,295	3,879	3,531	3,455	3,593	3,837	3,743	3,366	3,370	3,791	42,965
皮膚科	1,617	1,671	1,364	1,677	1,593	1,467	1,522	1,539	1,586	1,350	1,342	1,562	18,290
泌尿器科	1,934	1,789	1,749	1,887	1,665	1,794	1,961	1,880	1,943	1,721	1,817	2,161	22,301
麻酔科	31	60	37	27	29	26	33	43	44	42	34	41	447
精神科	42	52	39	60	47	48	51	57	54	54	62	59	625
歯科口腔外科	746	742	711	754	637	681	771	744	711	670	586	673	8,426
栃尾郷クリニック	1,697	1,557	1,466	1,662	1,623	1,537	1,678	1,488	1,838	1,429	1,409	1,539	18,923
合計	35,913	34,201	32,732	37,320	33,654	33,529	35,815	33,683	35,040	30,600	28,775	32,904	404,166

外来患者数（1日当り）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和元年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	484	496	497	512	527	532	521	504	507	508	496	482	505
神経内科	38	36	38	38	40	39	39	38	38	36	39	35	38
小児科	63	63	60	56	64	62	59	60	68	62	55	54	61
外科	132	125	133	126	122	137	135	140	134	128	124	121	130
呼吸器外科	10	12	10	12	11	11	12	12	12	11	9	12	11
心臓血管外科	8	9	9	8	8	10	8	9	8	8	8	9	8
脳神経外科	40	37	42	39	37	37	37	36	32	32	31	36	36
産婦人科	98	98	105	98	102	99	100	101	102	95	93	98	99
耳鼻咽喉科	151	141	147	141	144	130	108	84	64	44	44	38	103
眼科	70	68	70	68	71	75	69	67	73	71	68	66	70
整形外科	129	132	129	123	138	134	134	128	132	132	123	121	130
形成外科	24	25	25	24	25	25	27	25	27	28	30	26	26
リハビリテーション科	174	173	173	176	186	182	171	192	178	177	187	181	179
皮膚科	77	84	72	76	84	77	72	77	76	71	75	74	76
泌尿器科	92	89	92	86	88	94	93	94	93	91	101	103	93
麻酔科	1	3	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2
精神科	2	3	2	3	2	3	2	3	3	3	3	3	3
歯科口腔外科	36	37	37	34	34	36	37	37	34	35	33	32	35
栃尾郷クリニック	81	78	77	76	85	81	80	74	88	75	78	73	79
合計	1,710	1,710	1,723	1,696	1,771	1,765	1,705	1,684	1,669	1,611	1,599	1,567	1,684

入院患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和元年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	6,264	6,520	6,196	6,123	6,914	6,485	6,668	6,593	6,588	6,159	5,981	6,140	76,631
神経内科	280	356	305	456	615	329	359	557	484	405	413	477	5,036
小児科	391	404	350	372	403	309	346	261	330	239	241	317	3,963
外科	1,363	1,287	1,437	1,424	1,240	1,457	1,548	1,600	1,446	1,266	1,349	1,221	16,638
呼吸器外科	187	131	169	161	140	192	175	185	219	224	122	167	2,072
心臓血管外科	103	78	107	112	83	87	83	134	159	87	156	140	1,329
脳神経外科	559	472	593	474	409	329	522	449	481	655	751	512	6,206
産婦人科	887	972	965	1,073	1,013	978	915	845	1,014	966	1,100	915	11,643
耳鼻咽喉科	394	467	315	417	338	201	217	227	218	225	116	31	3,166
眼科	265	275	330	358	225	254	236	329	246	191	244	242	3,195
整形外科	1,756	1,843	1,643	1,701	1,822	1,680	1,812	2,209	2,121	1,799	1,819	2,017	22,222
形成外科	167	139	176	197	228	176	179	156	219	307	242	289	2,475
皮膚科	33	12	24	38	12	34	23	8	0	10	6	8	208
泌尿器科	618	629	664	615	460	642	549	416	397	444	476	518	6,428
合計	13,267	13,585	13,274	13,521	13,902	13,153	13,632	13,969	13,922	12,977	13,016	12,994	161,212

入院患者数（1日当り）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和元年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	209	210	207	198	223	216	215	220	213	199	206	198	209
神経内科	9	11	10	15	20	11	12	19	16	13	14	15	14
小児科	13	13	12	12	13	10	11	9	11	8	8	10	11
外科	45	42	48	46	40	49	50	53	47	41	47	39	45
呼吸器外科	6	4	6	5	5	6	6	6	7	7	4	5	6
心臓血管外科	3	3	4	4	3	3	3	4	5	3	5	5	4
脳神経外科	19	15	20	15	13	11	17	15	16	21	26	17	17
産婦人科	30	31	32	35	33	33	30	28	33	31	38	30	32
耳鼻咽喉科	13	15	11	13	11	7	7	8	7	7	4	1	9
眼科	9	9	11	12	7	8	8	11	8	6	8	8	9
整形外科	59	59	55	55	59	56	58	74	68	58	63	65	61
形成外科	6	4	6	6	7	6	6	5	7	10	8	9	7
皮膚科	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1
泌尿器科	21	20	22	20	15	21	18	14	13	14	16	17	18
合計	442	438	442	436	448	438	440	466	449	419	449	419	440

外来患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和2年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	9,230	8,395	9,648	9,861	9,334	9,643	10,281	9,324	10,524	8,492	8,044	10,466	113,242
神経内科	710	561	702	760	648	664	751	623	725	626	607	751	8,128
小児科	946	805	937	957	1,051	920	1,065	1,021	1,124	847	837	1,142	11,652
外科	2,515	2,192	2,515	2,561	2,319	2,660	2,836	2,487	2,649	2,179	2,134	2,786	29,833
呼吸器外科	171	197	208	168	167	197	207	204	228	174	162	247	2,330
心臓血管外科	149	146	176	152	156	166	166	157	170	140	125	172	1,875
脳神経外科	707	566	733	732	541	677	727	596	686	541	528	721	7,755
産婦人科	1,817	1,647	2,013	1,965	1,703	1,758	1,980	1,734	1,814	1,535	1,613	1,994	21,573
耳鼻咽喉科	346	338	406	417	357	355	434	411	446	320	357	522	4,709
眼科	1,340	1,227	1,377	1,367	1,296	1,336	1,430	1,256	1,301	1,071	1,079	1,424	15,504
整形外科	2,304	2,180	2,548	2,627	2,459	2,661	2,685	2,562	2,654	2,436	2,124	3,028	30,268
形成外科	496	470	499	595	548	565	585	514	598	500	526	583	6,479
リハビリテーション科	3,582	2,879	3,521	3,692	3,271	3,854	4,072	3,587	3,930	3,723	3,433	4,316	43,860
皮膚科	1,400	1,262	1,427	1,491	1,411	1,391	1,504	1,344	1,443	1,117	1,004	1,692	16,486
泌尿器科	1,777	1,748	1,976	1,758	1,668	1,990	2,105	1,900	2,152	1,621	1,442	2,181	22,318
麻酔科	41	28	36	38	36	33	22	39	39	40	36	44	432
精神科	73	63	66	65	63	76	81	58	70	63	54	74	806
歯科口腔外科	588	510	654	666	672	727	723	634	667	620	630	842	7,933
栃尾郷クリニック	1,541	1,336	1,496	1,545	1,494	1,462	1,559	1,409	1,480	1,335	1,303	1,538	17,498
合計	29,733	26,550	30,938	31,417	29,194	31,135	33,213	29,860	32,700	27,380	26,038	34,523	362,681

外来患者数（1日当たり）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和2年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	440	466	439	470	491	482	467	491	478	447	447	455	464
神経内科	34	31	32	36	34	33	34	33	33	33	34	33	33
小児科	45	45	43	46	55	46	48	54	51	45	47	50	48
外科	120	122	114	122	122	133	129	131	120	115	119	121	122
呼吸器外科	8	11	9	8	9	10	9	11	10	9	9	11	10
心臓血管外科	7	8	8	7	8	8	8	8	8	7	7	7	8
脳神経外科	34	31	33	35	28	34	33	31	31	28	29	31	32
産婦人科	87	92	92	94	90	88	90	91	82	81	90	87	88
耳鼻咽喉科	16	19	18	20	19	18	20	22	20	17	20	23	19
眼科	64	68	63	65	68	67	65	66	59	56	60	62	64
整形外科	110	121	116	125	129	133	122	135	121	128	118	132	124
形成外科	24	26	23	28	29	28	27	27	27	26	29	25	27
リハビリテーション科	171	160	160	176	172	193	185	189	179	196	191	188	180
皮膚科	67	70	65	71	74	70	68	71	66	59	56	74	68
泌尿器科	85	97	90	84	88	100	96	100	98	85	80	95	91
麻酔科	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2
精神科	3	4	3	3	3	4	4	3	3	3	3	3	3
歯科口腔外科	28	28	30	32	35	36	33	33	30	33	35	37	33
栃尾郷クリニック	73	74	68	74	79	73	71	74	67	70	72	67	72
合計	1,416	1,475	1,406	1,496	1,537	1,557	1,510	1,572	1,486	1,441	1,447	1,501	1,486

入院患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和2年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	6,136	6,217	5,638	6,469	6,488	6,311	6,048	6,471	6,263	6,143	5,221	6,500	73,905
神経内科	495	373	270	423	470	451	535	308	372	542	448	507	5,194
小児科	182	244	221	293	198	293	197	174	212	313	285	223	2,835
外科	1,354	1,299	1,413	1,428	1,390	1,281	1,273	1,299	1,371	1,329	1,206	1,407	16,050
呼吸器外科	81	84	134	189	168	218	186	187	221	174	155	147	1,944
心臓血管外科	141	106	102	87	59	81	111	130	110	85	125	113	1,250
脳神経外科	467	337	467	496	508	580	751	556	451	611	594	601	6,419
産婦人科	787	800	780	875	880	805	788	694	845	806	607	758	9,425
耳鼻咽喉科	9	118	61	90	90	124	146	192	363	440	377	431	2,441
眼科	234	245	287	285	219	230	331	218	245	194	175	196	2,859
整形外科	1,717	1,832	1,797	1,786	1,585	1,669	1,538	1,903	1,870	1,954	1,603	1,721	20,975
形成外科	227	157	90	113	116	188	216	280	170	115	90	161	1,923
皮膚科	37	16	0	17	30	16	5	5	0	6	0	5	137
泌尿器科	295	313	359	354	369	448	461	423	455	439	319	454	4,689
合計	12,162	12,141	11,619	12,905	12,570	12,695	12,586	12,840	12,948	13,151	11,205	13,224	150,046

入院患者数（1日当り）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和2年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	205	201	188	209	209	210	195	216	202	198	186	210	202
神経内科	17	12	9	14	15	15	17	10	12	17	16	16	14
小児科	6	8	7	9	6	10	6	6	7	10	10	7	8
外科	45	42	47	46	45	43	41	43	44	43	43	45	44
呼吸器外科	3	3	4	6	5	7	6	6	7	6	6	5	5
心臓血管外科	5	3	3	3	2	3	4	4	4	3	4	4	3
脳神経外科	16	11	16	16	16	19	24	19	15	20	21	19	18
産婦人科	26	26	26	28	28	27	25	23	27	26	22	24	26
耳鼻咽喉科	0	4	2	3	3	4	5	6	12	14	13	14	7
眼科	8	8	10	9	7	8	11	7	8	6	6	6	8
整形外科	57	59	60	58	51	56	50	63	60	63	57	56	57
形成外科	8	5	3	4	4	6	7	9	5	4	3	5	5
皮膚科	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	10	10	12	11	12	15	15	14	15	14	11	15	13
合計	405	392	387	416	405	423	406	428	418	424	400	427	411

外来患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和3年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	9,496	8,578	9,829	9,580	9,831	9,946	10,057	9,826	10,620	8,629	8,238	10,168	114,798
神経内科	802	581	695	686	699	644	742	711	744	608	607	753	8,272
小児科	855	866	934	1,066	1,084	886	848	871	990	815	669	872	10,756
外科	2,468	2,231	2,642	2,346	2,400	2,649	2,888	2,755	2,918	2,356	2,236	2,935	30,824
呼吸器外科	180	147	198	169	185	197	193	202	183	160	149	202	2,165
心臓血管外科	167	144	165	144	163	160	179	166	165	140	106	167	1,866
脳神経外科	701	600	698	667	610	657	658	657	690	486	472	664	7,560
産婦人科	1,714	1,603	1,869	1,826	1,758	1,765	1,748	1,786	1,933	1,560	1,546	1,869	20,977
耳鼻咽喉科	559	533	559	569	538	576	518	525	610	484	408	534	6,413
眼科	1,260	1,163	1,383	1,265	1,248	1,284	1,314	1,222	1,272	1,213	1,021	1,407	15,052
整形外科	2,708	2,314	2,683	2,538	2,510	2,698	2,613	2,464	2,652	2,244	2,001	2,705	30,130
形成外科	537	502	486	488	434	422	478	522	527	435	407	483	5,721
リハビリテーション科	3,457	3,212	3,822	3,547	3,501	3,486	4,007	3,487	3,836	3,339	3,022	4,117	42,833
皮膚科	1,364	1,150	1,493	1,467	1,356	1,272	1,318	1,224	1,405	1,073	909	1,378	15,409
泌尿器科	1,903	1,603	1,880	1,743	1,812	2,104	2,104	1,936	2,026	1,677	1,523	2,124	22,435
麻酔科	54	40	40	30	228	262	261	229	258	261	207	242	2,112
精神科	63	67	81	71	68	76	69	75	78	69	64	94	875
歯科口腔外科	734	659	733	636	639	695	775	723	791	659	513	636	8,193
栃尾郷クリニック	1,714	1,562	1,680	1,761	1,759	1,724	1,663	1,764	1,764	1,563	1,474	1,705	20,133
合計	30,736	27,555	31,870	30,599	30,823	31,503	32,433	31,145	33,462	27,771	25,572	33,055	366,524

外来患者数（1日当たり）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和3年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	452	477	447	479	492	497	479	491	483	454	458	462	472
神経内科	38	32	32	34	35	32	35	36	34	32	34	34	34
小児科	41	48	42	53	54	44	40	44	45	43	37	40	44
外科	118	124	120	117	120	132	138	138	133	124	124	133	127
呼吸器外科	9	8	9	8	9	10	9	10	8	8	8	9	9
心臓血管外科	8	8	8	7	8	8	9	8	8	7	6	8	8
脳神経外科	33	33	32	33	31	33	31	33	31	26	26	30	31
産婦人科	82	89	85	91	88	88	83	89	88	82	86	85	86
耳鼻咽喉科	27	30	25	28	27	29	25	26	28	25	23	24	26
眼科	60	65	63	63	62	64	63	61	58	64	57	64	62
整形外科	129	129	122	127	126	135	124	123	121	118	111	123	124
形成外科	26	28	22	24	22	21	23	26	24	23	23	22	24
リハビリテーション科	165	178	174	177	175	174	191	174	174	176	168	187	176
皮膚科	65	64	68	73	68	64	63	61	64	56	51	63	63
泌尿器科	91	89	85	87	91	105	100	97	92	88	85	97	92
麻酔科	3	2	2	2	11	13	12	11	12	14	12	11	9
精神科	3	4	4	4	3	4	3	4	4	4	4	4	4
歯科口腔外科	35	37	33	32	32	35	37	36	36	35	29	29	34
栃尾郷クリニック	82	87	76	88	88	86	79	88	80	82	82	78	83
合計	1,464	1,531	1,449	1,530	1,541	1,575	1,544	1,557	1,521	1,462	1,421	1,503	1,508

入院患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和3年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	5,821	5,827	5,407	5,358	5,478	5,626	6,073	5,510	5,721	6,255	5,153	5,737	67,966
神経内科	417	603	360	448	588	335	428	390	472	282	442	560	5,325
小児科	225	208	243	345	292	275	212	187	203	214	153	172	2,729
外科	1,357	1,377	1,264	1,469	1,457	1,348	1,594	1,502	1,417	1,262	1,236	1,430	16,713
呼吸器外科	98	104	67	119	153	155	181	147	150	99	93	170	1,536
心臓血管外科	99	101	59	54	129	90	95	81	86	92	53	95	1,034
脳神経外科	576	472	516	441	426	379	467	430	514	603	473	758	6,055
産婦人科	674	734	663	770	922	727	760	881	858	781	846	630	9,246
耳鼻咽喉科	444	463	423	424	455	370	425	386	425	618	529	438	5,400
眼科	165	139	228	250	194	154	156	163	145	164	144	207	2,109
整形外科	1,544	1,513	1,708	1,650	1,759	1,595	1,824	1,646	1,816	1,431	1,388	1,564	19,438
形成外科	143	136	162	169	165	220	153	121	135	117	93	137	1,751
皮膚科	22	0	26	27	13	12	17	15	6	10	0	23	171
泌尿器科	393	338	443	451	443	398	446	511	529	317	339	528	5,136
合計	11,978	12,015	11,569	11,975	12,474	11,684	12,831	11,970	12,477	12,245	10,942	12,449	144,609

入院患者数（1日当り）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和3年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	194	188	180	173	177	188	196	184	185	202	184	185	186
神経内科	14	19	12	14	19	11	14	13	15	9	16	18	15
小児科	8	7	8	11	9	9	7	6	7	7	5	6	7
外科	45	44	42	47	47	45	51	50	46	41	44	46	46
呼吸器外科	3	3	2	4	5	5	6	5	5	3	3	5	4
心臓血管外科	3	3	2	2	4	3	3	3	3	3	2	3	3
脳神経外科	19	15	17	14	14	13	15	14	17	19	17	24	17
産婦人科	22	24	22	25	30	24	25	29	28	25	30	20	25
耳鼻咽喉科	15	15	14	14	15	12	14	13	14	20	19	14	15
眼科	6	4	8	8	6	5	5	5	5	5	5	7	6
整形外科	51	49	57	53	57	53	59	55	59	46	50	50	53
形成外科	5	4	5	5	5	7	5	4	4	4	3	4	5
皮膚科	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0
泌尿器科	13	11	15	15	14	13	14	17	17	10	12	17	14
合計	399	388	386	386	402	389	414	399	402	395	391	402	396

外来患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和4年度】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	6,856	6,672	7,113	7,196	7,366	7,254	7,101	7,043	7,202	6,401	5,947	7,250	83,401
循環器内科	1,240	1,300	1,504	1,291	1,457	1,385	1,315	1,503	1,341	1,239	1,289	1,626	16,490
呼吸器内科	1,120	1,073	1,163	1,110	1,140	1,076	1,202	1,115	1,119	967	1,014	1,214	13,313
神経内科	745	691	751	764	807	792	757	744	741	698	667	822	8,979
小児科	734	831	778	914	953	882	800	809	882	662	717	920	9,882
外科	2,556	2,463	2,679	2,563	2,719	2,848	2,853	2,897	2,831	2,400	2,512	2,932	32,253
呼吸器外科	180	158	203	161	158	199	164	189	163	156	160	191	2,082
心臓血管外科	121	136	163	116	133	155	160	162	132	111	117	173	1,679
脳神経外科	584	556	707	613	621	633	601	630	584	474	436	646	7,085
産婦人科	1,647	1,647	1,967	1,793	1,739	1,729	1,666	1,711	1,693	1,548	1,615	1,853	20,608
耳鼻咽喉科	485	490	518	527	521	531	585	530	583	553	517	720	6,560
眼科	1,296	1,210	1,353	1,283	1,256	1,249	1,250	1,200	1,180	1,059	1,060	1,349	14,745
整形外科	2,493	2,394	2,759	2,580	2,474	2,594	2,349	2,338	2,348	2,012	2,079	2,574	28,994
形成外科	388	419	572	501	533	522	478	493	444	377	424	592	5,743
リハビリテーション科	3,703	3,578	4,195	3,906	4,252	4,080	3,923	3,899	3,854	3,365	3,602	3,980	46,337
皮膚科	1,121	1,166	1,203	1,193	1,122	1,151	1,075	1,156	1,017	940	861	1,300	13,305
泌尿器科	1,646	1,678	1,913	1,672	1,795	1,855	1,773	1,815	1,793	1,527	1,421	1,939	20,827
麻酔科	221	255	276	295	302	303	267	293	270	258	238	299	3,277
精神科	48	53	56	64	75	58	62	59	45	39	48	51	658
歯科口腔外科	658	681	767	747	699	618	681	700	665	589	615	757	8,177
栃尾郷クリニック	1,662	1,650	1,700	1,653	1,845	1,763	1,720	1,730	1,832	1,604	1,516	1,542	20,217
合計	29,504	29,101	32,340	30,942	31,967	31,677	30,782	31,016	30,719	26,979	26,855	32,730	364,612

外来患者数（1日当たり）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和4年度】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	343	351	323	360	335	363	355	352	343	337	313	330	342
循環器内科	62	68	68	65	66	69	66	75	64	65	68	74	68
呼吸器内科	56	56	53	56	52	54	60	56	53	51	53	55	55
神経内科	37	36	34	38	37	40	38	37	35	37	35	37	37
小児科	37	44	35	46	43	44	40	40	42	35	38	42	41
外科	128	130	122	128	124	142	143	145	135	126	132	133	132
呼吸器外科	9	8	9	8	7	10	8	9	8	8	8	9	9
心臓血管外科	6	7	7	6	6	8	8	8	6	6	6	8	7
脳神経外科	29	29	32	31	28	32	30	32	28	25	23	29	29
産婦人科	82	87	89	90	79	86	83	86	81	81	85	84	84
耳鼻咽喉科	24	26	24	26	24	27	29	27	28	29	27	33	27
眼科	65	64	62	64	57	62	63	60	56	56	56	61	60
整形外科	125	126	125	129	112	130	117	117	112	106	109	117	119
形成外科	19	22	26	25	24	26	24	25	21	20	22	27	24
リハビリテーション科	185	188	191	195	193	204	196	195	184	177	190	181	190
皮膚科	56	61	55	60	51	58	54	58	48	49	45	59	55
泌尿器科	82	88	87	84	82	93	89	91	85	80	75	88	85
麻酔科	11	13	13	15	14	15	13	15	13	14	13	14	13
精神科	2	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	2	3
歯科口腔外科	33	36	35	37	32	31	34	35	32	31	32	34	34
栃尾郷クリニック	83	87	77	83	84	88	86	87	87	84	80	70	83
合計	1,475	1,532	1,470	1,547	1,453	1,584	1,539	1,551	1,463	1,420	1,413	1,488	1,494

入院患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和4年度】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	3,016	3,386	3,455	3,679	3,280	3,493	3,240	3,108	3,313	2,905	2,748	2,943	38,566
循環器内科	932	737	847	849	661	611	745	783	731	787	780	787	9,250
呼吸器内科	1,482	1,262	1,243	1,402	1,814	1,750	1,790	1,710	1,735	1,749	1,334	1,400	18,671
神経内科	351	531	485	436	661	637	605	601	644	497	506	736	6,690
小児科	141	168	211	280	195	193	254	177	167	161	63	111	2,121
外科	1,508	1,448	1,480	1,400	1,529	1,497	1,522	1,470	1,454	1,295	1,300	1,433	17,336
呼吸器外科	90	94	107	108	158	133	166	76	93	111	99	111	1,346
心臓血管外科	99	58	96	116	69	92	36	81	44	66	72	54	883
脳神経外科	737	574	510	462	404	422	433	440	497	635	522	543	6,179
産婦人科	597	781	743	832	845	864	836	568	626	706	631	775	8,804
耳鼻咽喉科	321	441	461	499	367	420	425	475	441	476	481	559	5,366
眼科	174	185	197	214	93	184	199	190	149	140	153	161	2,039
整形外科	1,752	1,804	1,465	1,758	1,426	1,587	1,809	1,651	1,722	1,263	1,331	1,269	18,837
形成外科	75	113	239	190	178	134	166	121	149	84	112	78	1,639
皮膚科	5	2	9	11	0	7	13	9	24	1	16	3	100
泌尿器科	363	398	468	439	420	426	382	523	485	504	409	462	5,279
合計	11,643	11,982	12,016	12,675	12,100	12,450	12,621	11,983	12,274	11,380	10,557	11,425	143,106

入院患者数（1日当り）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和4年度】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	101	109	115	119	106	116	105	104	107	94	98	95	106
循環器内科	31	24	28	27	21	20	24	26	24	25	28	25	25
呼吸器内科	49	41	41	45	59	58	58	57	56	56	48	45	51
神経内科	12	17	16	14	21	21	20	20	21	16	18	24	18
小児科	5	5	7	9	6	6	8	6	5	5	2	4	6
外科	50	47	49	45	49	50	49	49	47	42	46	46	47
呼吸器外科	3	3	4	3	5	4	5	3	3	4	4	4	4
心臓血管外科	3	2	3	4	2	3	1	3	1	2	3	2	2
脳神経外科	25	19	17	15	13	14	14	15	16	20	19	18	17
産婦人科	20	25	25	27	27	29	27	19	20	23	23	25	24
耳鼻咽喉科	11	14	15	16	12	14	14	16	14	15	17	18	15
眼科	6	6	7	7	3	6	6	6	5	5	5	5	6
整形外科	58	58	49	57	46	53	58	55	56	41	48	41	52
形成外科	3	4	8	6	6	4	5	4	5	3	4	3	4
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
泌尿器科	12	13	16	14	14	14	12	17	16	16	15	15	14
合計	388	387	401	409	390	415	407	399	396	367	377	369	392

外来患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和5年度】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	6,215	6,160	6,367	6,425	6,621	6,364	6,331	6,363	6,328	5,910	5,607	6,237	74,928
循環器内科	1,181	1,370	1,294	1,075	1,171	1,108	1,215	1,197	1,180	1,007	1,022	1,115	13,935
呼吸器内科	1,112	1,135	1,186	1,138	1,268	1,120	1,165	1,180	1,121	1,068	1,010	1,108	13,611
神経内科	720	831	804	750	787	764	775	698	748	662	688	630	8,857
小児科	837	902	892	857	934	757	869	792	902	739	732	880	10,093
外科	2,761	2,560	2,609	2,496	2,675	2,747	3,031	2,804	2,847	2,444	2,471	2,902	32,347
呼吸器外科	195	164	161	136	164	175	183	180	170	129	144	178	1,979
心臓血管外科	151	135	193	146	127	158	164	177	158	119	91	127	1,746
脳神経外科	562	565	626	602	556	592	571	583	593	454	411	626	6,741
産婦人科	1,565	1,597	1,777	1,645	1,596	1,432	1,590	1,642	1,571	1,339	1,394	1,512	18,660
耳鼻咽喉科	622	627	615	591	617	517	588	584	563	572	616	699	7,211
眼科	1,156	1,159	1,281	1,208	1,187	1,206	1,134	1,174	1,176	1,011	1,072	1,178	13,942
整形外科	2,438	2,670	2,827	2,586	2,643	2,588	2,546	2,550	2,557	2,426	2,515	2,467	30,813
形成外科	421	418	483	445	444	431	427	426	536	481	448	529	5,489
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	1,039	1,026	1,097	1,168	1,114	1,035	954	957	1,008	813	876	1,089	12,176
泌尿器科	1,683	1,569	1,919	1,580	1,657	1,717	1,792	1,646	1,612	1,284	1,206	1,625	19,290
麻酔科	247	242	262	261	272	251	278	273	252	241	249	259	3,087
精神科	34	33	26	33	31	24	22	30	29	26	18	27	333
歯科口腔外科	617	632	691	620	636	636	734	681	672	648	653	629	7,849
栃尾郷クリニック	1,157	1,377	1,690	1,564	1,730	1,501	1,515	1,471	1,440	1,243	1,236	1,215	17,139
合計	24,713	25,172	26,800	25,326	26,230	25,123	25,884	25,408	25,463	22,616	22,459	25,032	300,226

外来患者数（1日当たり）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和5年度】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	311	308	289	321	301	318	301	318	316	311	295	312	308
循環器内科	59	69	59	54	53	55	58	60	59	53	54	56	57
呼吸器内科	56	57	54	57	58	56	55	59	56	56	53	55	56
神経内科	36	42	37	38	36	38	37	35	37	35	36	32	36
小児科	42	45	41	43	42	38	41	40	45	39	39	44	42
外科	138	128	119	125	122	137	144	140	142	129	130	145	133
呼吸器外科	10	8	7	7	7	9	9	9	9	7	8	9	8
心臓血管外科	8	7	9	7	6	8	8	9	8	6	5	6	7
脳神経外科	28	28	28	30	25	30	27	29	30	24	22	31	28
産婦人科	78	80	81	82	73	72	76	82	79	70	73	76	77
耳鼻咽喉科	31	31	28	30	28	26	28	29	28	30	32	35	30
眼科	58	58	58	60	54	60	54	59	59	53	56	59	57
整形外科	122	134	129	129	120	129	121	128	128	128	132	123	127
形成外科	21	21	22	22	20	22	20	21	27	25	24	26	23
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	52	51	50	58	51	52	45	48	50	43	46	54	50
泌尿器科	84	78	87	79	75	86	85	82	81	68	63	81	79
麻酔科	12	12	12	13	12	13	13	14	13	13	13	13	13
精神科	2	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1
歯科口腔外科	31	32	31	31	29	32	35	34	34	34	34	31	32
栃尾郷クリニック	58	69	77	78	79	75	72	74	72	65	65	61	71
合計	1,236	1,259	1,218	1,266	1,192	1,256	1,233	1,270	1,273	1,190	1,182	1,252	1,236

入院患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和5年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	2,773	2,887	3,193	2,934	3,076	3,195	3,060	2,826	2,871	2,994	3,295	2,924	36,028
循環器内科	903	878	609	724	770	814	876	609	727	887	910	960	9,667
呼吸器内科	1,374	1,595	1,401	1,622	1,359	1,528	1,538	1,569	2,065	1,757	1,585	1,763	19,156
神経内科	643	666	550	565	548	582	553	474	635	775	585	623	7,199
小児科	309	390	242	317	216	202	256	267	278	174	258	245	3,154
外科	1,209	1,249	1,222	1,572	1,316	1,479	1,493	1,445	1,654	1,449	1,402	1,417	16,907
呼吸器外科	115	79	73	84	129	139	182	154	165	76	116	132	1,444
心臓血管外科	48	77	104	74	72	69	76	78	141	45	34	68	886
脳神経外科	412	470	572	525	515	464	269	451	397	460	446	495	5,476
産婦人科	822	616	748	805	770	623	635	664	601	540	700	614	8,138
耳鼻咽喉科	610	461	457	386	356	444	459	338	373	320	419	583	5,206
眼科	203	140	203	206	132	161	129	104	158	140	165	160	1,901
整形外科	1,358	1,289	1,192	1,329	1,494	1,591	1,594	1,683	1,755	1,321	1,482	1,431	17,519
形成外科	97	125	133	122	160	214	210	107	97	103	121	136	1,625
皮膚科	10	0	6	14	26	16	0	32	8	3	16	13	144
泌尿器科	395	410	441	454	405	478	469	454	485	550	544	506	5,591
合計	11,281	11,332	11,146	11,733	11,344	11,999	11,799	11,255	12,410	11,594	12,078	12,070	140,041

入院患者数（1日当り）の推移 〈月別・診療科別〉 【令和5年度】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	92	93	106	95	99	107	99	94	93	97	114	94	98
循環器内科	30	28	20	23	25	27	28	20	23	29	31	31	26
呼吸器内科	46	51	47	52	44	51	50	52	67	57	55	57	52
神経内科	21	21	18	18	18	19	18	16	20	25	20	20	20
小児科	10	13	8	10	7	7	8	9	9	6	9	8	9
外科	40	40	41	51	42	49	48	48	53	47	48	46	46
呼吸器外科	4	3	2	3	4	5	6	5	5	2	4	4	4
心臓血管外科	2	2	3	2	2	2	2	3	5	1	1	2	2
脳神経外科	14	15	19	17	17	15	9	15	13	15	15	16	15
産婦人科	27	20	25	26	25	21	20	22	19	17	24	20	22
耳鼻咽喉科	20	15	15	12	11	15	15	11	12	10	14	19	14
眼科	7	5	7	7	4	5	4	3	5	5	6	5	5
整形外科	45	42	40	43	48	53	51	56	57	43	51	46	48
形成外科	3	4	4	4	5	7	7	4	3	3	4	4	4
皮膚科	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0
泌尿器科	13	13	15	15	13	16	15	15	16	18	19	16	15
合計	376	366	372	378	366	400	381	375	400	374	416	389	383

主要項目の推移 (月別) 【令和元年度】

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来患者数(延べ)	人	35,913	34,201	32,732	37,320	33,654	33,529	35,815	33,683	35,040	30,600	28,775	32,904	404,166
(うち新患)	人	1,821	1,924	1,749	2,154	2,139	1,948	2,001	1,881	2,189	1,612	1,530	1,400	22,348
入院患者数(延べ)	人	13,267	13,585	13,274	13,521	13,902	13,153	13,632	13,969	13,922	12,977	13,016	12,994	161,212
入院件数	件	1,005	996	950	1,074	980	956	1,042	1,025	1,000	1,065	927	979	11,999
退院件数	件	1,000	972	963	1,014	1,021	983	994	1,024	1,164	893	980	1,009	12,017
暦日	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
外来診療実日数	日	21	20	19	22	19	19	21	20	21	19	18	21	240
外来患者数(一日当)	人	1,710	1,710	1,723	1,696	1,771	1,765	1,705	1,684	1,669	1,611	1,599	1,567	1,684
入院患者数(一日当)	人	442	438	442	436	448	438	440	466	449	419	449	419	440
平均在院日数	日	12.3	12.9	12.9	12.0	12.9	12.6	12.5	12.7	11.8	12.4	12.7	12.1	12.4
病床稼働率	%	88.4	87.6	88.5	87.2	89.7	87.7	87.9	93.1	89.8	83.7	89.8	83.8	88.1
病床回転率	回	2.45	2.42	2.33	2.59	2.41	2.39	2.50	2.37	2.63	2.51	2.30	2.57	2.45
紹介件数	件	893	960	962	1,199	975	984	1,048	961	978	812	771	859	11,402
逆紹介件数	件	546	564	796	999	958	1,059	1,302	1,227	1,165	781	938	988	11,323
紹介率(診療報酬版)	%	64.0	64.4	60.9	60.5	59.1	57.4	60.5	55.5	60.5	67.3	67.3	70.5	61.8
紹介率(地域医療支援病院版)	%	55.7	55.7	53.7	54.2	50.7	51.2	52.5	49.0	53.2	56.9	59.4	61.8	54.1
逆紹介率	%	44.2	43.5	62.6	63.7	67.6	76.6	91.9	84.6	82.7	75.0	95.9	94.7	73.0
救急搬送患者数	人	315	345	282	368	409	333	333	338	318	289	304	263	3,897
時間外患者数	人	821	931	779	923	1,178	889	886	847	1,041	821	777	560	10,453
救急外来患者数	人	930	1,039	879	1,048	1,276	999	986	937	1,134	912	854	644	11,638
手術件数(手術室)	件	500	443	448	516	447	427	487	511	522	512	419	501	5,733
全身麻酔件数	件	260	254	240	271	245	229	289	299	311	287	247	291	3,223
死亡件数	件	45	57	35	27	59	60	52	65	65	53	57	49	624
分娩件数	件	63	75	63	72	71	65	61	57	71	61	49	49	757

主要項目の推移 (月別) 【令和2年度】

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来患者数(延べ)	人	29,733	26,550	30,938	31,417	29,194	31,135	33,213	29,860	32,700	27,380	26,038	34,523	362,681
(うち新患)	人	1,287	1,273	1,626	1,617	1,699	1,680	1,740	1,653	1,625	1,359	1,280	1,692	18,531
入院患者数(延べ)	人	12,162	12,141	11,619	12,905	12,570	12,695	12,586	12,840	12,948	13,151	11,205	13,224	150,046
入院件数	件	917	907	920	1,025	935	908	951	961	933	923	807	979	11,166
退院件数	件	895	935	912	989	945	922	972	906	1,030	857	823	970	11,156
暦日	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
外来診療実日数	日	21	18	22	21	19	20	22	19	22	19	18	23	244
外来患者数(一日当)	人	1,416	1,475	1,406	1,496	1,537	1,557	1,510	1,572	1,486	1,441	1,447	1,501	1,486
入院患者数(一日当)	人	405	392	387	416	405	423	406	428	418	424	400	427	411
平均在院日数	日	12.5	12.2	11.7	11.9	12.4	12.9	12.1	12.8	12.2	13.9	12.8	12.6	12.4
病床稼働率	%	81.1	78.3	77.5	83.3	81.1	84.6	81.2	85.6	83.5	84.8	80.0	85.3	82.2
病床回転率	回	2.41	2.55	2.57	2.62	2.51	2.33	2.57	2.35	2.55	2.24	2.20	2.46	2.44
紹介件数	件	844	766	1,008	952	856	953	1,079	982	955	756	772	1,008	10,931
逆紹介件数	件	625	553	668	672	651	651	713	637	776	641	561	858	8,006
紹介率(診療報酬版)	%	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
紹介率(地域医療支援病院版)	%	70.7	74.5	72.5	74.0	69.3	77.1	79.3	80.8	78.7	80.3	75.7	74.7	75.7
逆紹介率	%	66.5	65.1	62.6	61.9	57.4	57.5	56.1	54.6	69.0	76.2	62.6	77.3	63.4
救急搬送患者数	人	240	247	239	315	289	313	282	287	329	360	247	298	3,446
時間外患者数	人	541	728	570	749	721	719	585	689	656	655	551	573	7,737
救急外来患者数	人	621	809	666	861	838	815	694	799	775	785	620	700	8,983
手術件数(手術室)	件	426	397	450	480	401	447	486	443	498	429	373	511	5,341
全身麻酔件数	件	261	231	255	279	247	240	268	257	289	275	246	306	3,154
死亡件数	件	51	54	54	44	36	54	53	51	55	57	46	61	616
分娩件数	件	48	63	52	70	65	60	56	46	53	51	35	48	647

主要項目の推移 (月別) 【令和3年度】

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来患者数(延べ)	人	30,736	27,555	31,870	30,599	30,823	31,503	32,433	31,145	33,462	27,771	25,572	33,055	366,524
(うち新患)	人	1,691	1,454	1,654	1,671	1,724	1,563	1,693	1,668	1,670	1,319	1,056	1,394	18,557
入院患者数(延べ)	人	11,978	12,015	11,569	11,975	12,474	11,684	12,831	11,970	12,477	12,245	10,942	12,449	144,609
入院件数	件	930	842	917	909	969	911	936	967	988	975	706	907	10,957
退院件数	件	937	825	938	929	917	894	971	954	1,126	829	738	890	10,948
暦日	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
外来診療実日数	日	21	18	22	20	20	20	21	20	22	19	18	22	243
外来患者数(一日当)	人	1,464	1,531	1,449	1,530	1,541	1,575	1,544	1,557	1,521	1,462	1,421	1,503	1,508
入院患者数(一日当)	人	399	388	386	386	402	389	414	399	402	395	391	402	396
平均在院日数	日	11.9	13.5	11.5	12.1	12.3	12.0	12.5	11.5	10.8	12.7	14.2	12.9	12.2
病床稼働率	%	79.9	77.5	77.1	77.3	80.5	77.9	82.8	79.8	80.5	79.0	78.2	80.3	79.2
病床回転率	回	2.54	2.31	2.62	2.58	2.53	2.51	2.49	2.62	2.89	2.45	1.98	2.41	2.49
紹介件数	件	963	794	1,023	1,038	1,023	1,031	1,037	1,047	1,086	823	727	1,010	11,602
逆紹介件数	件	799	680	772	770	820	790	839	817	930	736	614	902	9,469
紹介率(診療報酬版)	%	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
紹介率(地域医療支援病院版)	%	76.4	78.7	75.7	77.4	76.7	76.6	77.3	79.5	81.0	76.6	76.5	77.6	77.5
逆紹介率	%	80.2	80.6	68.1	70.1	72.5	73.0	74.6	71.4	80.4	89.7	89.2	94.3	77.8
救急搬送患者数	人	317	286	285	338	395	286	295	280	313	356	269	318	3,738
時間外患者数	人	642	733	619	820	985	599	680	614	578	680	526	607	8,083
救急外来患者数	人	755	814	737	940	1,091	715	773	719	701	792	625	721	9,383
手術件数(手術室)	件	447	387	470	423	464	458	476	427	463	417	321	451	5,204
全身麻酔件数	件	249	224	263	249	266	269	287	264	276	250	200	266	3,063
死亡件数	件	52	44	43	45	54	35	50	52	68	60	48	52	603
分娩件数	件	39	48	45	53	56	51	34	56	49	35	42	30	538

主要項目の推移 (月別) 【令和4年度】

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来患者数(延べ)	人	29,504	29,101	32,340	30,942	31,967	31,677	30,782	31,016	30,719	26,979	26,855	32,730	364,612
(うち新患)	人	1,373	1,581	1,631	1,761	1,639	1,638	1,642	1,599	1,536	1,308	1,254	1,485	18,447
入院患者数(延べ)	人	11,643	11,982	12,016	12,675	12,100	12,450	12,621	11,983	12,274	11,380	10,557	11,425	143,106
入院件数	件	809	914	932	930	919	905	946	919	883	873	816	905	10,751
退院件数	件	867	842	907	981	889	910	944	921	1,023	767	798	940	10,789
暦日	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
外来診療実日数	日	20	19	22	20	22	20	20	20	21	19	19	22	244
外来患者数(一日当)	人	1,475	1,532	1,470	1,547	1,453	1,584	1,539	1,551	1,463	1,420	1,413	1,488	1,494
入院患者数(一日当)	人	388	387	401	409	390	415	407	399	396	367	377	369	392
平均在院日数	日	11.6	11.4	10.8	11.0	11.4	12.8	12.4	12.1	11.9	13.0	12.1	11.4	12.3
病床稼働率	%	77.6	77.3	80.1	81.8	78.1	83.0	81.4	79.9	79.2	73.4	75.4	73.7	78.4
病床回転率	回	2.33	2.44	2.48	2.53	2.50	2.36	2.51	2.50	2.63	2.40	2.32	2.73	2.48
紹介件数	件	989	1,015	1,078	1,053	957	1,002	1,054	989	957	854	888	1,099	11,935
逆紹介件数	件	884	804	884	843	837	845	864	892	963	810	845	1,287	10,758
紹介率(診療報酬版)	%	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
紹介率(地域医療支援病院版)	%	78.7	76.7	75.8	80.2	76.0	79.2	83.3	83.1	82.3	82.0	79.5	82.6	79.9
逆紹介率	%	104.5	92.1	84.3	82.6	80.8	82.0	85.6	90.5	102.1	113.1	106.2	134.3	95.5
救急搬送患者数	人	295	267	275	392	352	317	379	357	368	395	300	309	4,006
時間外患者数	人	591	821	596	944	765	809	800	730	683	722	542	617	8,620
救急外来患者数	人	691	902	695	1,051	887	908	917	833	807	856	658	727	9,932
手術件数(手術室)	件	437	463	532	471	419	482	470	496	452	406	436	497	5,561
全身麻酔件数	件	251	246	286	271	255	279	284	285	262	227	242	276	3,164
死亡件数	件	44	54	45	41	48	48	61	66	73	66	48	37	631
分娩件数	件	35	36	36	44	47	48	42	29	29	33	31	46	456

主要項目の推移（月別）【令和5年度】

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来患者数（延べ）	人	24,713	25,172	26,800	25,326	26,230	25,123	25,884	25,408	25,463	22,616	22,459	25,032	300,226
（うち新患）	人	1,508	1,477	1,530	1,593	1,728	1,488	1,518	1,624	1,627	1,333	1,281	1,323	18,030
入院患者数（延べ）	人	11,281	11,332	11,146	11,733	11,344	11,999	11,799	11,255	12,410	11,594	12,078	12,070	140,041
入院件数	件	890	898	937	977	953	910	966	942	933	965	903	904	11,178
退院件数	件	913	865	932	966	954	938	970	892	1,074	799	914	1,019	11,236
暦日	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
外来診療実日数	日	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
外来患者数（一日当）	人	1,236	1,259	1,218	1,266	1,192	1,256	1,233	1,270	1,273	1,190	1,182	1,252	1,236
入院患者数（一日当）	人	376	366	372	378	366	400	381	375	400	374	416	389	383
平均在院日数	日	11.6	11.9	11.0	11.1	10.9	12.0	11.2	11.4	11.3	12.3	12.3	11.5	11.5
病床稼働率	%	75.2	73.1	74.3	75.7	73.2	80.0	76.1	75.0	80.1	74.8	83.3	77.9	76.5
病床稼働率（450床換算）	%		81.2	82.6	84.1	81.3	88.9	84.6	83.4	89.0	83.1	92.6	86.5	85.2
病床回転率	回	2.61	2.61	2.74	2.80	2.84	2.51	2.77	2.65	2.74	2.53	2.36	2.70	2.65
紹介件数	件	1,025	1,014	1,066	1,019	997	1,024	1,012	1,046	1,012	906	973	905	11,999
逆紹介件数	件	951	922	894	867	929	856	904	928	893	722	906	942	10,714
紹介率（診療報酬版）	%													
紹介率（地域医療支援病院版）	%	85.4	80.8	79.0	81.7	81.0	89.1	85.1	84.5	84.3	85.5	84.5	83.8	83.7
逆紹介率	%	107.1	106.1	92.5	83.3	88.8	90.4	92.7	83.7	90.1	92.3	110.6	121.4	95.6
救急搬送患者数	人	343	348	321	410	495	356	342	382	400	389	343	323	4,452
時間外患者数	人	738	785	680	834	849	691	669	671	836	740	689	721	8,903
救急外来患者数	人	850	899	773	968	1,025	832	805	804	977	876	811	812	10,432
手術件数（手術室）	件	448	439	466	466	474	469	468	493	441	427	451	455	5,497
全身麻酔件数	件	266	257	254	262	274	255	276	290	263	256	271	280	3,204
死亡件数	件	53	56	40	41	61	51	61	42	65	61	50	58	639
分娩件数	件	39	32	37	49	42	44	29	39	36	25	29	33	434

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	148	25.51	20.84	20.27	84.99
030250xx991xxx	睡眠時無呼吸 手術なし 手術・処置等1あり	104	2.00	2.03	0.00	56.37
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 副傷病なし	63	19.13	12.58	12.70	81.63
110280xx99000x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・ 処置等1なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	56	15.57	11.67	0.00	72.84
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 4あり 副傷病なし	54	14.69	9.59	0.00	72.07

内科では誤嚥性肺炎による入院が最も多い症例となっております。2番目は睡眠時無呼吸症候群に対する検査入院、尿路感染症・慢性腎不全の治療に対する入院の順となっております。

また、5番目・6番目については肺癌に対する化学療法を実施した症例となっております。

DPC 040040xx99041x 肺の悪性腫瘍 化学療法あり 副傷病あり が54件

DPC 040040xx99040x 肺の悪性腫瘍 化学療法あり 副傷病なし が54件

となっており、副傷病のあり・なしを合計すると108件の症例がありました。

■消化器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060020xx04x0xx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 手 術・処置等2なし	143	5.35	8.27	0.00	74.34
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処 置等2なし 副傷病なし	143	7.91	9.79	2.80	75.52
060020xx99x30x	胃の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 3あり 副傷病なし	65	6.86	6.39	0.00	71.03
060035xx99x60x	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 6 あり 副傷病なし	41	4.00	4.40	0.00	75.49
060010xx02x00x	食道の悪性腫瘍（頸部を含む。） 内視鏡的食道粘膜切除術等 手 術・処置等2なし 副傷病なし	37	6.46	8.78	2.70	72.11

消化器内科では、早期胃がんに対する内視鏡手術が最も多くなっており、胃カメラを用いた粘膜下層剥離術（ESD）が主な治療法として行われています。

2番目に多いのが胆石や胆道系の疾患に対する症例になります。乳頭括約筋切開術を含む総胆管結石除去術や閉塞性黄疸の緊急ドレナージ、ステントの挿入などを積極的に行っております。

3番目以降は胃がんに対する化学療法、結腸癌に対する化学療法、食道がんに対する内視鏡手術、となっております。

■循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし 副傷病なし	94	22.66	17.71	11.70	84.87	

050050xx02000x	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1なし、1,2あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	45	5.80	4.40	0.00	70.09	
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	41	3.85	3.01	7.32	68.83	
050130xx99020x	心不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり 副傷病なし	38	31.45	24.43	15.79	80.71	
050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1なし、1,3あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	37	10.92	10.80	2.70	82.11	

循環器内科では、心不全の治療に関する入院が最も多くなっており、平均年齢も84歳となっており高齢の患者さんが多いことがわかります。次いで、狭心症や徐脈性不整脈などに対する治療の入院が多くなっており、

当院では急性心筋梗塞や不安定狭心症などの早期治療が必要な疾患には、積極的に緊急心臓カテーテル検査・治療を行っております。

■神経内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
010060×2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 4あり 副傷病なし発症前 Rankin Scale 0、1又は2	39	17.62	16.13	23.08	71.69	
010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	13	13.15	7.10	7.69	65.31	
010080xx99x001	脳脊髄の感染を伴う炎症 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし 15歳以上	11	13.73	12.00	0.00	57.82	
010061xxxxx0xx	一過性脳虚血発作 手術・処置等2なし	9	11.22	6.22	11.11	75.00	
010060×2990400	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 4あり 副傷病なし発症前 Rankin Scale 3、4又は5	7	23.43	19.66	42.86	85.29	

神経内科では、脳梗塞での入院が最も多く、次いでてんかん等による入院が多くなっており、

■小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（出生時体重 2500g以上） 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	96	5.28	6.17	0.00	0.00	
040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他） 副傷病なし	89	5.98	6.19	0.00	1.19	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2なし 副傷病なし	50	6.08	6.64	0.00	3.46	
040070xxxxx0xx	インフルエンザ、ウイルス性肺炎 手術・処置等2なし	49	5.76	5.73	2.04	2.76	
0400801199x00x	肺炎等（1歳以上15歳未満） 手術なし 手術・処置等 2なし 副傷病なし	40	5.88	5.69	0.00	3.70	

小児科では、新生児の高ビリルビン血症に対する光線療法が最も多くなっており、2番目に急性気管支炎の入院、3番目に気管支喘息の順になっており、

小児の気管支喘息については、地域での中核治療拠点として、患者数もたいへんに多く、急性期の発作治療やその後の予防治療にも力を入れて診療しています。あわせて肺炎・急性気管支炎などの呼吸器感染症も専門治療いたします。

■外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
090010xx01x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 手術・処置等2なし	146	7.61	10.34	0.00	60.60	
060020xx02x00x	胃の悪性腫瘍 胃切除術 悪性腫瘍手術等 手術・処置等 2なし 副傷病なし	101	13.23	16.12	0.99	70.10	
060035xx01000x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、 亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1なし 手術・ 処置等2なし 副傷病なし	89	10.72	15.02	0.00	73.19	
060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置 等1なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	72	5.90	7.13	0.00	63.86	
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニ ア等	65	3.98	4.85	0.00	73.18	

外科では、乳がんの手術治療の入院が最も多く、2番目に胃がんの手術治療の入院、次いで結腸がんや胆のう結石・胆のう炎等の手術治療の入院が多くなっております。

当院では、がん診療連携拠点病院に指定され、特にがんの手術件数が急増しています。クリニカルパスの導入や内視鏡手術の導入などで在院日数の短縮が可能となり、たとえば大腸癌の内視鏡手術は術後4日目に退院可能となりました。

■脳神経外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2な し 副傷病なし	41	9.27	9.67	4.88	74.17	
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10 未満) 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2な し 副傷病なし	29	22.34	18.81	65.52	69.90	
010060 × 2990201	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満) 手 術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 2あり 副傷 病なし発症前 Rankin Scale 0、1 又は 2	26	17.92	16.16	30.77	74.73	
010040x199x00x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10 以上) 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	18	23.94	20.96	72.22	76.83	
010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	14	12.07	7.10	21.43	69.50	

脳神経外科では外傷性硬膜下血腫による手術入院が最も多くなっております。2番目は脳出血による入院、3番目は脳梗塞の急性期病変での入院が多くなっております。脳血管障害(脳卒中)に対しては、手術対象となるか否かを問わず、全例で積極的に取り組んでいます。脳血管障害は、脳だけを診ては全体像が見えず、心臓や基礎疾患となる糖尿病・高血圧・高脂血症などをきちんと評価する必要があります。脳梗塞で入院された患者さんは、循環器内科(心臓内科)での心臓検査を受けて頂き、不整脈や心臓の冠動脈虚血の状態を評価しています。

■産婦人科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	103	6.86	8.65	0.00	70.29	
120010xx99x50x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 5あり 副傷病なし	67	2.06	4.39	0.00	64.81	

120010xx99x40x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 4あり 副傷病なし	44	2.00	4.82	0.00	72.59	
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 4あり 副傷病なし	40	2.90	4.58	0.00	60.60	
120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腔式子宮全摘術等	35	6.06	6.09	0.00	43.31	

産婦人科では、性器脱（子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤）に対する手術治療の入院が最も多くなっております。次いで、卵巣・子宮系の悪性腫瘍に対する化学療法入院が多くなっております。

■耳鼻咽喉科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	38	12.00	7.80	0.00	17.29	
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	31	14.77	5.01	0.00	59.97	
03001xxx99x4xx	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 4あり	29	9.55	12.38	0.00	67.76	
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	18	7.17	5.45	0.00	54.11	
030428xxxxxxxx	突発性難聴	13	20.15	8.93	0.00	70.85	

耳鼻咽喉科では慢性扁桃炎に対する治療、扁桃周囲膿瘍・急性扁桃炎・急性咽頭喉頭炎に対する治療の入院が最も多くなっております。2番目は前庭機能障害（めまい、メニエール病等）での入院、3番目は咽頭がん、喉頭がん、甲状腺がん等の頭頸部悪性腫瘍に対する化学療法入院、となっております。

■眼科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり片眼	292	2.47	2.78	0.34	76.19	
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 手術あり両眼	66	7.15	5.09	0.00	77.27	
020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり片眼	50	11.58	9.33	0.00	63.08	
020220xx97xxx0	緑内障 手術あり片眼	47	11.17	7.53	0.00	71.55	
020200xx9710xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等 1あり 手術・処置等 2なし	39	9.21	6.71	0.00	66.51	

眼科では、白内障に対する手術治療の入院が最も多く、2番目に網膜剥離に対する手術治療の入院、次いで緑内障や黄斑・後極変性に対する手術治療となっております。

■整形外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	154	23.04	25.94	67.53	85.31	
070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む。） 人工関節再置換術等	103	22.63	23.56	0.00	75.82	
070343xx97x1xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 その他の手術あり 手術・処置等 2 1あり	103	16.09	19.86	3.88	70.60	
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。） 腱縫合術等	86	11.74	14.10	0.00	26.98	
070350xx97xxxx	椎間板変性、ヘルニア その他の手術あり	85	13.47	15.61	1.18	52.53	

整形外科では大腿骨頭部骨折等の手術入院が最も多くなっております。また平均年齢が約 85 歳と高齢の患者さんが多いことがわかります。次

いで膝関節症に対する人工関節置換術などの手術入院、脊柱管狭窄等に対する手術入院、前十字靭帯損傷に対する手術、椎間板ヘルニアに対する手術入院、の順となっております。

当院では、長岡及び新潟県中越地区の外傷、変性疾患など整形外科疾患全般を扱っております。各医師が新潟大学で専門研究班に所属して研修を受けておりますので、出来る限り整形外科疾患の部位に応じて専門の医師が手術、治療を担当するように心がけており治療成績の向上を図っております。

■形成外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
070010xx010x0x	骨軟部の良性腫瘍(脊椎脊髄を除く。) 四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等 1 なし 副傷病なし	13	7.62	5.41	0.00	58.54	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)等 手術・処置等 1 なし	9	4.89	4.01	0.00	41.22	
090010xx04xxxx	乳房の悪性腫瘍 組織拡張器による再建手術(一連につき) 乳房(再建手術)の場合等	9	12.78	8.03	0.00	50.56	
080007xx97xxxx	皮膚の良性新生物 その他の手術あり	-	-	5.94	-	-	
100100xx99x0xx	糖尿病足病変 手術なし 手術・処置等 2 なし	-	-	21.67	-	-	

形成外科では、骨軟部の良性腫瘍(脊椎脊髄を除く。)に対する入院が最も多く、2番目には皮膚の良性新生物に対して皮膚・皮下腫瘍摘出術等の入院が多くなっております。次いで、乳がんに対する組織拡張器による再建手術、皮膚の良性新生物、糖尿病性足病変の順となっております。開設は新潟県内では比較的早く、昭和56年にさかのぼります。形成外科で取り扱われる疾患全般にわたって診療を行っています。体表の生まれつきの変形や、外傷・熱傷・その後の変形を扱っています。乳房再建・眼瞼下垂・腋臭症も行っています。

※患者数が10未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております(4,5番目)。

■皮膚科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	8	5.50	9.00	0.00	72.13	
080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等 1 なし	5	5.80	12.55	0.00	81.80	
080090xxxxxxxx	紅斑症	5	4.60	10.05	0.00	68.20	
080110xxxx0xx	水疱症 手術・処置等 2 なし	-	-	28.56	-	-	
080030xxxxxxxx	疱疹(帯状疱疹を除く。)、その類症	-	-	3.50	-	-	

皮膚科では、帯状疱疹による入院治療が最も多くなっております。次いで重症薬疹、蜂窩織炎による入院が多くなっております。

※患者数が10未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております(4,5番目)。

■泌尿器科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
110080xx991x0x	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり 副傷病なし	143	3.08	2.49	0.00	71.56	
110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	97	6.22	7.07	0.00	74.55	
11012xxx040x0x	上部尿路疾患 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術(一連につき) 手術・処置等 1 なし 副傷病なし	82	2.55	2.64	0.00	63.35	
11012xxx020x0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術 手術・処置等	24	5.46	5.61	0.00	71.00	

	1 なし 副傷病なし						
110420xx02xx0x	水腎症等 経尿道的尿管ステント留置術等 副傷病なし	23	4.17	4.22	4.35	69.26	

泌尿器科では、前立腺がんに対する入院の入院が最も多く、次いで膀胱がんに対する手術治療、尿管結石や腎結石に対する体外衝撃波による結石破砕術に伴う入院の順となっております。

■心臓血管外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 パ ス
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	54	3.48	2.78	0.00	63.00	
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術・処置等 1 なし、1 あり 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	35	6.00	5.34	0.00	73.23	
050170xx99000x	閉塞性動脈疾患 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	11	4.09	7.82	0.00	72.36	
110280xx02x1xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術・処置等 2 1 あり	-	-	36.04	-	-	
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	-	-	8.48	-	-	

血管外科では、静脈・リンパ管疾患に対する手術の入院が最も多くなっております。次いで、閉塞性動脈疾患に対するバイパス手術やカテーテル治療の入院が多くなっております。

※患者数が 10 未満の項目については (-) ハイフンにて表示しております (4,5 番目)。

■呼吸器外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 パ ス
040040xx97x0xx	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等 2 なし	145	9.06	11.51	0.00	70.12	
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	11	7.18	10.18	0.00	29.45	
040200xx99x00x	気胸 手術なし 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	11	7.55	9.11	0.00	50.73	
040040xx9910xx	気胸 手術なし 手術・処置等 2 なし 副傷病なし肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり 手術・処置等 2 なし	-	-	-	-	-	
040030xx01xxxx	呼吸器系の良性腫瘍 肺切除術 気管支形成を伴う肺切除等	-	-	-	-	-	

呼吸器外科では、肺がんに対する手術治療の入院が最も多く、次いで気胸に対する治療の入院の順となっております。

当院では、肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術を行っております。呼吸器内科・呼吸器外科が呼吸器グループとして常に連携し、検討会を毎週行って医療情報を交換しつつ確実に迅速な診断・治療を心掛けています。

※患者数が 10 未満の項目については (-) ハイフンにて表示しております (4,5 番目)。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■消化器内科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	143	0.91	4.09	0.00	74.38	
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	104	2.09	14.87	4.81	76.79	
K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	89	1.58	7.87	4.49	77.13	
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	76	4.76	4.46	0.00	73.41	
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	49	0.96	3.71	0.00	72.37	

消化器内科では、内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離）が最も多く行われております。2番目には内視鏡的胆道ステント留置術、3番目には内視鏡的乳頭切開（拡張）術の順となっており、主に内視鏡による手術が行われています。

また付属する健診センターと共に消化器癌の早期発見及び治療に力を注いでおり、食道癌、胃癌、大腸癌の内視鏡的切除などをはじめとし、症状緩和のための内視鏡を用いた各種治療も積極的に行っております。

■循環器内科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	46	3.43	3.48	0.00	70.96	
K5972	ペースメーカー移植術（経静脈電極）	27	6.52	10.11	3.70	81.78	
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症）	26	0.00	17.04	3.85	72.50	
K5491	経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞）	22	0.00	18.64	0.00	74.27	
K5952	経皮的カテーテル心筋焼灼術（その他）	16	5.94	9.00	0.00	66.00	

循環器内科では、虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症など）に対する経皮的冠動脈ステント留置術を最も多く行っております。

経皮的冠動脈ステント留置術などの心臓カテーテル治療は、腕や足の血管から心臓まで管を通して病変を治療する方法です。この治療は緊急で行う場合や検査と同時に進行する場合、検査から日数を空けて行う場合、検査後一旦退院してから再入院して行う場合など患者さんの状況に合わせて治療が行われます。

他には、ペースメーカーの移植術、カテーテルを用いた心筋焼灼術の順となっております。

■小児科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K9131	新生児仮死蘇生術（仮死第1度）	-	-	-	-	-	
K9132	新生児仮死蘇生術（仮死第2度）	-	-	-	-	-	
K7151	腸重積症整復術（非観血的なもの）	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

小児科では、新生児仮死蘇生術（仮死第1度）が最も多く行われております。2番目以降は新生児仮死蘇生術（仮死第2度）、腸重積症整復術（非観血的なもの）の順となっております。

新生児仮死蘇生術とは、酸素が胎盤から十分に供給されず、胎児が仮死状態で生まれてくる状態の赤ちゃんに対して行う蘇生術です。また腸重積症整復術（非観血的）については腸重積症に対して、おしりから造影剤を注入し圧を加えることにより腸重積を元に戻す方法です。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	106	3.80	9.58	1.89	73.92	
K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））	97	1.01	4.68	0.00	60.21	
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	78	1.47	4.12	0.00	64.76	
K655-22	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	66	2.14	10.08	3.03	70.89	
K6335	鼠径ヘルニア手術	65	0.89	2.09	0.00	73.18	

外科では、腹腔鏡を用いた結腸悪性腫瘍切除術が最も多く行われております。2番目には乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））、3番目に腹腔鏡下胆嚢摘出術、4番目に腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）、5番目には鼠径ヘルニア（いわゆる脱腸）に対して行う鼠径ヘルニア手術となっております。

また、当院はがん診療連携拠点病院に指定されており、特にがんの手術件数が増加しております。

■脳神経外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	42	1.10	8.02	9.52	76.45	
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	7	7.29	40.71	0.00	63.86	
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	4	3.00	31.75	50.00	56.00	
K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	-	-	-	-	-	
K1642	頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜下）	-	-	-	-	-	

脳神経外科では、慢性硬膜下血腫に対する洗浄除去術が最も多くなっております。こちらの手術につきましては、小さな穿頭で硬膜下に溜まった血腫を吸引し、洗浄除去する手術です。平均年齢が76歳と高くなっており高齢の患者さんが多いことがわかります。

2番目が脳腫瘍に対する頭蓋内腫瘍摘出術になります。3番目に脳動脈瘤頸部クリッピング術が多く、こちらにつきましては脳動脈瘤の破裂を防ぐため瘤内に血流を遮断する手術となっております。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております（4,5番目）。

■産婦人科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K802-21	膀胱脱手術（メッシュ使用）	84	1.12	4.80	0.00	69.88	
K877	子宮全摘術	42	1.02	8.14	0.00	52.62	
K877-2	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	34	1.00	4.79	0.00	47.03	
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）	32	0.97	4.59	0.00	42.78	
K867	子宮頸部（腔部）切除術	20	1.00	1.00	0.00	32.80	

産婦人科では、膀胱脱手術（メッシュ使用）が最も多くなっております。2番目に子宮全摘術、3番目以降は腹腔鏡下腔式子宮全摘術、子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）、子宮頸部（腔部）手術の順となっております。

当院では性器脱に対して、TVM(tension-free vaginal mesh)手術を積極的におこなっております。TVM手術は、性器脱専用開発されたテフロン製のメッシュ状のシートを使用し、子宮を摘出することなく、骨盤内の組織を補強します。体内では溶けることなく、ずっと支えていることとなります。アレルギーや感染の可能性は非常に低いとされています。さらに、従来の方法に比べ体への負担も少なく、入院も短期間となっております。

■耳鼻咽喉科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
------	----	-----	--------	--------	-----	------	-------

K3772	口蓋扁桃手術（摘出）	39	1.00	10.00	0.00	17.59	
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	6	1.00	10.00	0.00	63.00	
K3932	喉頭腫瘍摘出術（直達鏡）	6	1.00	10.17	0.00	59.50	
K331	鼻腔粘膜焼灼術	-	-	-	-	-	
K6272	リンパ節群郭清術（頸部）（深在性）	-	-	-	-	-	

耳鼻咽喉科では全身麻酔にて行う口蓋扁桃手術（摘出）が最も多く、入院期間は約11日間となっております。2番目は副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻・副鼻腔手術、3番目は直達鏡による喉頭腫瘍摘出術の順となっております。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております（4,5番目）。

■眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821 [□]	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他のもの）	353	0.56	1.71	0.00	76.44	
K2801	硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）	110	1.35	8.77	0.00	63.93	
K2682	緑内障手術（流出路再建術）	23	1.09	4.39	0.00	74.74	
K2683	緑内障手術（濾過手術）	23	1.09	14.13	0.00	69.13	
K2802	硝子体茎頭微鏡下離断術（その他）	14	0.93	6.50	7.14	68.07	

眼科では、白内障に対する水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）が最も多くなっております。2番目に網膜剥離や硝子体出血、黄斑部の病気などに対する硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）が多くなっております。

3番目以降は、緑内障手術（流出路再建術）、緑内障手術（濾過手術）、硝子体茎頭微鏡下離断術（その他）、の順となっております。

■整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0461	骨折観血的手術（肩甲骨，上腕，大腿）	121	3.13	18.17	61.16	83.69	
K0821	人工関節置換術（肩，股，膝）	118	1.80	20.14	0.00	75.90	
K1342	椎間板摘出術（後方摘出術）	90	3.43	11.66	1.11	55.33	
K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	82	3.98	14.30	14.63	71.00	
K1425	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）	81	3.15	13.16	3.70	70.02	

整形外科では、大腿骨骨折等に対する骨折観血的手術が最も多く、2番目に変形性膝関節症等に対して人工膝関節に入れ替える人工関節置換術、3番目に椎間板ヘルニアに対する椎間板摘出術（後方摘出術）、脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成・椎弓切除）の順となっております。

その他に膝関節前十字靭帯再建術・肩関節腱板損傷に対する修復術、再建術も積極的に行っております。

整形外科疾患のほぼ全範囲の手術に対応できるように診療に取り組んでおります。

■形成外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（肩，上腕，前腕，大腿，下腿，躯幹）	21	1.19	5.29	0.00	57.05	
K0102	瘢痕拘縮形成手術（その他）	7	2.43	9.57	0.00	41.29	
K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径4cm以上）	6	0.83	3.67	0.00	33.83	
K0221	組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術））	-	-	-	-	-	
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	-	-	-	-	-	

形成外科では四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術が最も多く、次いで瘢痕拘縮形成手術、皮膚・皮下腫瘍に対する摘出術（露出部）、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）の順となっております。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております（4,5番目）。

■泌尿器科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8036 1	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）	94	1.38	3.86	0.00	74.52	
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	82	0.41	1.13	0.00	63.35	
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	39	1.28	3.67	7.69	71.62	
K773	腎（尿管）悪性腫瘍手術	24	2.46	11.08	4.17	68.63	
K8411	経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用）	24	1.63	5.67	0.00	72.75	

泌尿器科では、膀胱がんに対する膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）が最も多く行われています。

次に多く行われているのが、結石や尿管結石に対して行う体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（ESWL）です。こちらは放電によって衝撃波を発生させる装置を用いて衝撃波のエネルギーを体内の結石に目標を合わせ収束し、衝撃波の力で直接結石を細かく砕く治療法です。入院期間は1泊2日となっております。

3番目以降は、経尿道的尿管ステント留置術、腎（尿管）悪性腫瘍手術、経尿道的前立腺手術の順となっております。

■心臓血管外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	67	0.37	1.09	0.00	67.99	
K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	50	1.00	1.46	0.00	63.44	
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	39	1.92	4.77	0.00	73.26	
K6147	血管移植術、バイパス移植術（その他の動脈）	15	5.60	13.47	13.33	67.93	
K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他に設置した場合）	11	0.00	1.18	0.00	64.64	

血管外科では、透析シャント狭窄の拡張のための経皮的シャント拡張術・血栓除去術が最も多くなっております。2番目に下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術、3番目に閉塞性動脈疾患に対する四肢の血管拡張術・血栓除去術、4番目に血管移植術、バイパス移植術、5番目に抗がん剤を持続注入するために体内にポートを留置する抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）の順となっております。

■呼吸器外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）	93	2.19	6.73	0.00	69.86	
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	35	1.34	4.06	0.00	69.97	
K514-22	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	14	1.86	7.43	0.00	71.57	
K5131	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））	13	2.92	2.92	0.00	31.62	
K5132	胸腔鏡下肺切除術（その他）	-	-	-	-	-	

呼吸器外科では、肺がんに対する胸腔鏡を用いた肺悪性腫瘍手術が最も多くなっており、次に気胸に対する胸腔鏡を用いた肺切除術の順となっております。

当院では肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術で行っております。完全胸腔鏡下手術とは、創をカメラや道具を入れる穴だけとし、モニターのみ（完全モニター視）で手術する方法です。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	158	5.27	8.11	0%	73.19
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	138	7.54	9.53	2.17%	74.29
050130xx9900xx	心不全 なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	101	18.43	17.23	7.92%	83.24
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 なし 手術・処置等2なし	96	24.26	20.51	30.21%	84.75
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり 定義副傷病なし	66	13.86	9.42	0%	72.7

内科では、早期胃がんに対する内視鏡手術が最も多くなっており、胃カメラを用いた粘膜下層剥離術（ESD）が主な治療法として行われています。

2番目に多いのが胆石や胆道系の疾患に対する症例になります。乳頭括約筋切開術を含む総胆管結石除去術や閉塞性黄疸の緊急ドレナージ、ステントの挿入などを積極的に行っております。

3番目以降は心不全の治療に関する入院、誤嚥性肺炎による入院、肺がんによる入院となっています。

■神経内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 パス
010060×2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1又は2	34	20.35	15.64	29.41%	73.47	
010230xx99x00x	てんかん なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	13	17.92	7.48	23.08%	73.85	
010060×2990411	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり 定義副傷病1あり 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1又は2	10	23.7	17.35	40.00%	80.7	
010060×2990201	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1又は2	-	-	15.54	-	-	
010060×2990400	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 3、4又は5	-	-	19.18	-	-	

神経内科では、脳梗塞での入院が最も多く、次いでてんかん等による入院が多くなっており、

■小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
080270xxxx1xxx	食物アレルギー 手術・処置等1あり	118	1.05	2.12	0.00%	2.76	
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（出生時体重2500g以上）なし 手術・処置等2なし	93	4.96	6.13	2.15%	0	

080270xxxx0xxx	食物アレルギー 手術・処置等 1 なし	35	1.4	2.44	0.00%	10.43	
040100xxxx00x	喘息 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	29	6.14	6.46	0.00%	2.93	
060380xxxx00x	ウイルス性腸炎 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	24	4.38	5.86	0.00%	3.63	

小児科では、食物アレルギーに対する入院が最も多くなっており、次に新生児の高ビリルビン血症に対する光線療法、気管支喘息の順になっております。

小児の気管支喘息については、地域での中核治療拠点として、患者数もたいへんに多く、急性期の発作治療やその後の予防治療にも力を入れて診療しています。あわせて肺炎・急性気管支炎などの呼吸器感染症も専門治療いたします。

■外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴うもの (内視鏡下によるものを含む。)) 等 手術・処置等 1 なし	126	8.83	10.3	0.00%	60.13	
060035xx010x0x	結腸 (虫垂を含む。) の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等 1 なし 定義副傷病なし	120	14.72	16.19	4.17%	73.08	
060020xx02xxxx	胃の悪性腫瘍 胃切除術 悪性腫瘍手術等	85	14.92	19.04	2.35%	72.49	
060335xx02000x	胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	75	5.68	7.23	0.00%	66.53	
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア (15 歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	61	4.72	4.86	0.00%	70.38	

外科では、乳がんの手術治療の入院が最も多く、2 番目に結腸がんの手術治療の入院、次いで胃がんや胆のう結石・胆のう炎等の手術治療の入院が多くなっております。

当院では、がん診療連携拠点病院に指定され、特にがんの手術件数が急増しています。クリニカルパスの導入や鏡視下手術の導入などで在院日数の短縮が可能となり、たとえば結腸癌の鏡視下手術は最短で術後 4 日目に退院可能となりました。

■脳神経外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外) (JCS10 未満) なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	44	24.3	18.86	75.00%	70.23	
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	37	11.24	9.68	16.22%	76.86	
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	30	12.1	8.18	43.33%	67.4	
010060 × 2990201	脳梗塞 (脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満) なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1 又は 2	20	18.6	15.54	45.00%	73.95	
010040x199x0xx	非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外) (JCS10 以上) なし 手術・処置等 2 なし	18	27.22	22.35	83.33%	70.56	

脳神経外科では脳出血による入院が最も多くなっており、次いで外傷性硬膜下血腫による手術入院です。脳血管障害 (脳卒中) に対しては、手術対象となるか否かを問わず、全例で積極的に取り組んでいます。脳血管障害は、脳だけを診ていては全体像が見えず、心臓や基礎疾患となる糖尿病・高血圧・高脂血症などをきちんと評価する必要があります。脳梗塞で入院された患者さんは、循環器内科 (心臓内科) での心臓検査を受けて頂き、不整脈や心臓の冠動脈虚血の状態を評価しています。

■産婦人科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 あり	89	7.48	8.43	0.00%	70.42	
120260xx02xxxx	分娩の異常 骨盤位娩出術等	83	7.98	6.74	0.00%	31.51	
120260xx99xxxx	分娩の異常 なし	65	7.65	4.68	0.00%	30.23	
120260xx01xxxx	分娩の異常 子宮破裂手術等	48	10.52	9.45	0.00%	33.85	
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 なし 手術・処置等 2 4 あり 定義副傷病なし	44	2.18	4.44	0.00%	63.14	

産婦人科では、性器脱（子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤）に対する手術治療の入院が最も多くなっており、次いで、分娩関係の入院が多くなっており、

■耳鼻咽喉科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 パス
03001xxx0100xx	頭頸部悪性腫瘍 頸部悪性腫瘍手術等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	17	14.59	13.68	0.00%	69.53	
100020xx010xxx	甲状腺の悪性腫瘍 甲状腺悪性腫瘍手術 切除（頸部外 側区域郭清を伴わないもの）等 手術・処置等 1 なし	10	7.6	8.5	0.00%	60	
030400xx99xxxx	前庭機能障害 なし	-	-	4.94	-	-	
03001xxx99x0xx	頭頸部悪性腫瘍 なし 手術・処置等 2 なし	-	-	12.17	-	-	
030150xx97xxxx	耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍 あり	-	-	7.2	-	-	

耳鼻咽喉科では頭頸部悪性腫瘍に対する治療の入院が最も多くなっており、次いで甲状腺の悪性腫瘍に対する治療の入院と続いており、

■眼科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 あり 重症度等片眼	187	3.09	2.76	0.00%	73.95	
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 あり 重症度等両眼	72	7.08	4.95	0.00%	76.5	
020160xx97xxx0	網膜剥離 あり 重症度等片眼	47	13.02	8.97	0.00%	67.19	
020240xx97xxx0	硝子体疾患 あり 重症度等片眼	25	7.52	5.65	0.00%	71.04	
020220xx01xxx0	緑内障 緑内障手術 濾過手術 重症度等片眼	22	15.77	9.79	0.00%	70.5	

眼科では、白内障に対する手術治療の入院が最も多く、次に網膜剥離に対する手術治療の入院が多くなっており、

■整形外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	187	22.4	25.09	67.38%	83.83	
070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む。） 人工関節再置換術等	134	21.57	23.36	0.00%	74.93	
070343xx97x1xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 そ の他の手術あり 手術・処置等 2 1 あり	96	16.3	19.22	2.08%	72.88	

070350xx02xxxx	椎間板変性、ヘルニア 椎間板摘出術 後方摘出術	75	14.04	14.28	1.33%	52.73	
160760xx97xx0x	前腕の骨折 あり 定義副傷病なし	65	4.12	5.18	1.54%	60.11	

整形外科では大腿骨頸部骨折等の手術入院が最も多くなっております。また平均年齢が約 84 歳と高齢の患者さんが多いことがわかります。次いで膝関節症に対する人工関節置換術などの手術入院、脊柱管狭窄等に対する手術入院、椎間板ヘルニアに対する手術入院、腕の骨折に対する入院の順となっております。

当院では、長岡及び新潟県中越地区の外傷、変性疾患など整形外科疾患全般を扱っております。各医師が新潟大学で専門研究班に所属して研修を受けておりますので、出来る限り整形外科疾患の部位に応じて専門の医師が手術、治療を担当するように心がけており治療成績の向上を図っております。

■形成外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
070010xx010xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） 四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等 1 なし	23	6.78	5.39	0.00%	49.91	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等 1 なし	-	-	4.06	-	-	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 なし	-	-	7.71	-	-	
090010xx04xxxx	乳房の悪性腫瘍 組織拡張器による再建手術（一連につき） 乳房（再建手術）の場合等	-	-	8.26	-	-	
080180xx970xxx	母斑、母斑症 あり 手術・処置等 1 なし	-	-	4.29	-	-	

形成外科では、骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）に対する入院が最も多くなっております。

開設は新潟県内では比較的早く、昭和 56 年にさかのぼります。形成外科で取り扱われる疾患全般にわたって診療を行っています。体表の生まれつきの変形や、外傷・熱傷・その後の変形を扱っています。乳房再建・眼瞼下垂・腋臭症も行っています。

※患者数が 10 未満の項目については (-) ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 なし 手術・処置等 1 あり	113	3.08	2.54	0.00%	70.05	
110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 2 なし	96	7.21	7.13	0.00%	73.84	
11012xxx04xxxx	上部尿路疾患 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）	51	2.31	2.66	0.00%	62.63	
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 なし	28	16.21	13	21.43%	79.79	
110070xx99x20x	膀胱腫瘍 なし 手術・処置等 2 2 あり 定義副傷病なし	18	10.94	9.96	0.00%	74.89	

泌尿器科では、前立腺がんに対する入院の入院が最も多く、次いで膀胱がんに対する手術治療、尿管結石や腎結石に対する体外衝撃波による結石破碎術に伴う入院の順となっております。

■心臓血管外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 パス
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術・処置等 2 なし	69	2.32	4.51	4.35%	68.48	

050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術・処置等 1 なし、1 あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	35	6.31	5.43	0.00%	75.91	
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	18	3.61	2.74	0.00%	60.78	
050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術・処置等 1 なし、1 あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病あり	13	13	10.03	0.00%	80	
050170xx99000x	閉塞性動脈疾患 なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	10	4.6	8.05	10.00%	74.8	

血管外科では、慢性腎不全に対する経皮的シャント拡張術・血栓除去術の入院が最も多くなっており、次いで閉塞性動脈疾患に対するバイパス手術やカテーテル治療の入院が多くなっており、

■呼吸器外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	117	8.28	10.83	0.00%	69.41	
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	26	8.58	10.08	0.00%	35.58	
040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍 なし 手術・処置等 1 あり 手術・処置等 2 なし	12	2.75	3.39	0.00%	73	
040200xx99x00x	気胸 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	-	-	9.18	-	-	
040020xx97xxxx	縦隔の良性腫瘍 あり	-	-	8.4	-	-	

呼吸器外科では、肺がんに対する手術治療の入院が最も多く、次いで気胸に対する治療の入院の順となっております。

当院では、肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術を行っております。呼吸器内科・呼吸器外科が呼吸器グループとして常に連携し、検討会を毎週行って医療情報を交換しつつ確実に迅速な診断・治療を心掛けています。

※患者数が 10 未満の項目については (-) ハイフンにて表示しております。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■内科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	155	0.93	3.23	0.00%	73.08	K6532
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	108	1.98	14.78	5.56%	75.84	K688
K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみ）	85	2.89	9.84	4.71%	73.81	K6871
K654	内視鏡的消化管止血術	76	1.79	14.26	5.26%	73.96	K654
K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	67	6.99	13.22	0.00%	69.63	K6113

内科では、内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離）が最も多く行われております。次に内視鏡的胆道ステント留置術、3番目には内視鏡的乳頭切開（拡張）術の順となっており、主に内視鏡による手術が行われています。

付属する健診センターと共に消化器癌の早期発見及び治療に力を注いでおり、食道癌、胃癌、大腸癌の内視鏡的切除などをはじめとし、症状緩和のための内視鏡を用いた各種治療も積極的に行っております。

■外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	120	4.97	9.98	3.33%	72.95	
K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））	94	1.11	6.41	0.00%	59.62	
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	86	2.35	3.67	0.00%	67.69	
K6335	鼠径ヘルニア手術	61	1.21	2.51	0.00%	70.38	
K655-22	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	57	2.98	11.21	3.51%	71.21	

外科では、腹腔鏡を用いた結腸悪性腫瘍切除術が最も多く行われております。2番目には乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））、3番目に腹腔鏡下胆嚢摘出術、4番目に鼠径ヘルニア（いわゆる脱腸）に対して行う鼠径ヘルニア手術、5番目には腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）となっております。

当院はがん診療連携拠点病院に指定されており、特にがんの手術件数が増加しております。

■脳神経外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	35	1.74	7.94	17.14%	77.23	
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	-	-	-	-	-	
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

脳神経外科では、慢性硬膜下血腫に対する洗浄除去術が最も多くなっております。こちらの手術につきましては、小さな穿頭で硬膜下に溜まった血腫を吸引し、洗浄除去する手術です。平均年齢が77歳と高くなっており高齢の患者さんが多いことがわかります。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■産婦人科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
------	----	-----	--------	--------	-----	------	-------

K893	吸引娩出術	68	0.82	0.16	0.00%	31.75	
K8982	帝王切開術（選択帝王切開）	63	1.92	7.97	0.00%	33.54	
K802-21	膀胱脱手術（メッシュ使用）	62	1	4.42	0.00%	70.13	
K8981	帝王切開術（緊急帝王切開）	52	2.02	8.02	0.00%	32.25	
K877	子宮全摘術	42	1.24	7.43	0.00%	49.26	

産婦人科では、保健診療としては吸引娩出術が最も多くなっております。2番目に帝王切開術（選択帝王切開）、3番目以降は膀胱脱手術（メッシュ使用）、帝王切開術（緊急帝王切開）、子宮全摘術の順となっております。（正常分娩は自費診療です。）

当院では性器脱に対して、TVM(tension-free vaginal mesh)手術を積極的におこなっております。TVM手術は、性器脱専用開発されたテフロン製のメッシュ状のシートを使用し、子宮を摘出することなく、骨盤内の組織を補強します。体内では溶けることなく、ずっと支えていることとなります。アレルギーや感染の可能性は非常に低いとされています。さらに、従来の方法に比べ体への負担も少なく、入院も短期間となっております。

■眼科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821	水晶体再建術（眼内レンズを挿入）（その他）	257	1.07	2.17	0.00%	74.55	
K2801	硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）	82	0.91	9.29	0.00%	68.22	
K2802	硝子体茎頭微鏡下離断術（その他）	25	0.8	5.72	0.00%	67.56	
K2683	緑内障手術（濾過手術）	23	1.04	14.35	0.00%	70.17	
K2682	緑内障手術（流出路再建術）	10	0.9	6	0.00%	74.5	

眼科では、白内障に対する水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）が最も多くなっております。次いで網膜剥離や硝子体出血、黄斑部の病変などに対する硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）です。

3番目以降は硝子体茎頭微鏡下離断術（その他）、緑内障手術（濾過手術）、緑内障手術（流出路再建術）の順となっております。

■整形外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0821	人工関節置換術（膝）	144	1.31	18.96	0.69%	74.97	
K0461	骨折観血的手術（大腿）	126	2.99	17.4	57.94%	80.55	
K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	92	3.54	13.83	9.78%	72.23	
K1342	椎間板摘出術（後方摘出術）	84	2.88	9.99	1.19%	54.42	
K0811	人工骨頭挿入術（股）	79	3.53	18.28	67.09%	82.24	

整形外科では、変形性膝関節症等に対して人工膝関節に入れ替える人工関節置換術が最も多く、2番目に大腿骨骨折等に対する骨折観血的手術、3番目に脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）、椎間板摘出術（後方摘出術）、人工骨頭挿入術（股）の順となっております。

その他に膝関節前十字靭帯再建術・肩関節腱板損傷に対する修復術、再建術も積極的に行っております。

整形外科疾患のほぼ全範囲の手術に対応できるように診療に取り組んでおります。

■形成外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（躯幹）	24	1.17	4.67	0.00%	50.17	
K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径4cm以上）	-	-	-	-	-	
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

形成外科では四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（躯幹）が最も多くなっておりま
 ※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8036 4	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	92	1.43	5.08	0.00%	73.79	
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	51	0.02	1.29	0.00%	62.63	
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	28	1.36	4.93	10.71%	67.5	
K8411	経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用）	19	1.37	5.42	0.00%	75.53	
K773	腎（尿管）悪性腫瘍手術	16	2.25	10.31	0.00%	69.88	

泌尿器科では、膀胱がんに対する膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）が最も多く行われています。
 次に多く行われているのが、結石や尿管結石に対して行う体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（ESWL）です。こちらは放電によって衝撃波を発生させる装置を用いて衝撃波のエネルギーを体内の結石に目標を合わせ収束し、衝撃波の力で直接結石を細かく砕く治療法です。入院期間は1泊2日となっております。
 3番目以降は、経尿道的尿管ステント留置術、経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用）、腎（尿管）悪性腫瘍手術の順となっております。

■心臓血管外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K616-41	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	63	0.14	1.16	4.76%	69.57	
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	51	2.12	7.24	0.00%	76.08	
K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	16	1.31	1.25	0.00%	62	
K6147	血管移植術、バイパス移植術（その他の動脈）	-	-	-	-	-	
K616-42	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（1の実施後3月以内に実施）	-	-	-	-	-	

血管外科では、透析シャント狭窄の拡張のための経皮的シャント拡張術・血栓除去術が最も多くなっておりま
 ※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■呼吸器外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）	73	1.95	6.36	0.00%	70.15	
K5131	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））	28	4.25	3.5	0.00%	38.07	
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	27	1.26	4.19	0.00%	68.22	
K514-22	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	17	1.53	6.24	0.00%	67.71	
K5132	胸腔鏡下肺切除術（その他）	-	-	-	-	-	

呼吸器外科では、肺がんに対する胸腔鏡を用いた肺悪性腫瘍手術が最も多くなっておりま
 当院では肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術で行っております。完全胸腔鏡下手術とは、創をカメラや道具を入れる穴だけとし、モニターのみ（完全モニター視）で手術する方法です。
 ※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	183	5.75	7.96	0.55%	75.85
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	116	7.73	9.21	3.45%	74.02
130030xx99x4xx	非ホジキンリンパ腫 なし 手術・処置等24あり	81	5.89	10.66	0.00%	68.88
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 なし 手術・処置等2なし	74	27.66	20.57	35.14%	83.49
110280xx9900xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	63	11.17	10.39	6.35%	66.49

内科では、早期胃がんに対する内視鏡手術が最も多くなっております。胃カメラを用いた粘膜下層剥離術（ESD）が主な治療法として行われています。

2番目に多いのが胆石や胆道系の疾患に対する症例になります。乳頭括約筋切開術を含む総胆管結石除去術や閉塞性黄疸の緊急ドレナージ、ステントの挿入などを積極的に行っております。

3番目以降は非ホジキンリンパ腫の治療に関する入院、誤嚥性肺炎による入院、慢性腎疾患による入院となっております。

■循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 パス
050130xx9900xx	心不全 なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	45	19.89	17.35	11.11%	85.78	
050210xx97000x	徐脈性不整脈 あり 手術・処置等1なし、1/3あり 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	29	16.9	10.24	17.24%	82.62	
050050xx9910xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 なし 手術・処置等11あり 手術・処置等2なし	28	5.04	3.06	10.71%	68.93	
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1なし、1/2あり 手術・処置等2なし	25	6.28	4.36	0.00%	73.24	
050070xx01x0xx	頻脈性不整脈 経皮的カテーテル心筋焼灼術 手術・処置等2なし	18	8.06	4.79	0.00%	63.78	

循環器内科では、心不全に対する治療が最も多くなっております。次いで不整脈、狭心症の治療に関する症例となっております。

■呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等2なし	47	23.49	18.42	0.00%	75.49
030250xx991xxx	睡眠時無呼吸 なし 手術・処置等1あり	31	2	2.03	0.00%	59.13
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	31	21.77	13.12	19.35%	74.77
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 なし 手術・処置等1なし 手術・処置等24あり 定義副傷病なし	27	14.15	9.07	0.00%	71.67
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 なし 手術・処置等2なし	22	27.14	20.57	22.73%	85.32

呼吸器内科では、間質性肺炎に対する治療が最も多くなっております。次いで睡眠時無呼吸症候群、肺がんの治療に関する入院、誤嚥性肺炎による入院となっています。

■神経内科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
010060×2990401	脳梗塞（脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満） なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4 あり 定義 副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1 又は 2	43	17.49	15.63	41.86%	72.65	
010230xx99x00x	てんかん なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	15	15.4	7.22	33.33%	77.6	
010060×2990411	脳梗塞（脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満） なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4 あり 定義 副傷病 1 あり 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1 又 は 2	-	-	17.48	-	-	
010060×2990201	脳梗塞（脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満） なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 2 あり 定義 副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1 又は 2	-	-	15.57	-	-	
010060×2990400	脳梗塞（脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満） なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4 あり 定義 副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 3、4 又は 5	-	-	19.21	-	-	

神経内科では、脳梗塞での入院が最も多く、次いでてんかん等による入院が多くなっております。

※患者数が 10 未満の項目については (-) ハイフンにて表示しております。

■小児科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（出生時体 重 2500g 以上） なし 手術・処置等 2 なし	66	4.3	6.13	4.55%	0	
080270xxxx1xxx	食物アレルギー 手術・処置等 1 あり	65	1.08	2.13	0.00%	3.14	
040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その 他） 定義副傷病なし	47	4.77	5.83	0.00%	1.09	
080270xxxx0xxx	食物アレルギー 手術・処置等 1 なし	38	1.32	2.35	0.00%	8.05	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	30	6.03	6.24	0.00%	3.03	

小児科では、低出産体重等による障害に対する入院が最も多くなっております。次いで食物アレルギー、急性気管支炎、気管支喘息の順になっ
ております。

小児の気管支喘息については、地域での中核治療拠点として、患者数もたいへんに多く、急性期の発作治療やその後の予防治療にも力を入れて
診療しています。あわせて肺炎・急性気管支炎などの呼吸器感染症も専門治療いたします。

■外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術 （腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含 む。)) 等 手術・処置等 1 なし	117	7.69	10.15	0.00%	59.58	
060035xx010x0x	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、	82	13.62	15.76	4.88%	71.39	

	亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等 1 なし 定義副傷病なし						
060020xx02xxxx	胃の悪性腫瘍 胃切除術 悪性腫瘍手術等	74	17.76	18.34	5.41%	72.72	
060335xx02000x	胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	74	6.09	7.11	1.35%	67.32	
060040xx02000x	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 肛門悪性腫瘍手術 切除等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	32	13.16	14.92	0.00%	65.44	

外科では、乳がんの手術治療の入院が最も多く、2 番目に結腸がんの手術治療の入院、次いで胃がんや胆のう結石・胆のう炎等の手術治療の入院が多くなっておりま

す。当院では、がん診療連携拠点病院に指定され、特にがんの手術件数が多数を占めています。鏡視下手術は結腸、直腸では 85%、胃では 70%で行われ、クリニカルパスを運用することで術後在院日数を短縮できています。

■脳神経外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）(JCS10 未満) なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	43	22.58	18.9	69.77%	74.16	
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	38	12.58	9.78	7.89%	81.16	
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	26	11.96	8.3	19.23%	79.62	
010040x199x0xx	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）(JCS10 以上) なし 手術・処置等 2 なし	20	16.6	22.42	35.00%	69.35	
010060 × 2990401	脳梗塞（脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満）なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1 又は 2	15	17.07	15.63	20.00%	70.6	

脳神経外科では脳出血による入院が最も多くなっておりま

■産婦人科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 あり	98	7.49	8.31	0.00%	71.57	
120260xx99xxxx	分娩の異常 なし	85	8	4.72	0.00%	31.28	
120260xx02xxxx	分娩の異常 骨盤位娩出術等	74	8.05	6.82	0.00%	32.26	
120260xx01xxxx	分娩の異常 子宮破裂手術等	53	10.25	9.38	0.00%	32.7	
120170x099xxxx	早産、切迫早産（妊娠週数 34 週以上） なし	37	4.68	7.33	5.41%	30.92	

産婦人科では、性器脱（子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤）に対する手術治療の入院が最も多くなっておりま

■耳鼻咽喉科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
100020xx010xxx	甲状腺の悪性腫瘍 甲状腺悪性腫瘍手術 切除(頸部外側区域郭清を伴わないもの)等 手術・処置等1なし	30	7.47	8.19	0.00%	59.1	
03001xxx99x60x	頭頸部悪性腫瘍 なし 手術・処置等26あり 定義副傷病なし	25	5.28	9.32	0.00%	64.48	
03001xxx0100xx	頭頸部悪性腫瘍 頸部悪性腫瘍手術等 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	24	14.71	13.07	4.17%	68.08	
03001xxx97x0xx	頭頸部悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2なし	20	7	10.69	0.00%	68.15	
030150xx97xxxx	耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍 あり	20	6.4	7.03	0.00%	53	

耳鼻咽喉科では甲状腺悪性腫瘍に対する治療の入院が最も多くなっており、次いで頭頸部悪性腫瘍に対する治療の入院、耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍に対する治療の入院と続いております。

■眼科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パ ス
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 あり 重症度等片眼	130	3.08	2.71	0.00%	75.36	
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 あり 重症度等両眼	59	7.15	4.83	0.00%	77.51	
020220xx97xxx0	緑内障 その他の手術あり 重症度等片眼	27	5.81	5.41	0.00%	75.22	
020160xx97xxx0	網膜剥離 あり 重症度等片眼	26	10.92	8.48	0.00%	61.5	
020200xx9710xx	黄斑、後極変性 あり 手術・処置等1あり 手術・処置等2なし	23	8.57	6.14	0.00%	67.96	

眼科では、白内障に対する手術治療の入院が最も多く、次に緑内障、網膜剥離に対する手術治療の入院が多くなっております。

■整形外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	164	20.39	25.32	69.51%	83.84	
070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。) 人工関節再置換術等	152	19.56	23.02	0.00%	74.38	
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。) 腱縫合術等	76	8.21	13.52	0.00%	25.41	
070343xx97x1xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。) 腰部骨盤、不安定椎 その他の手術あり 手術・処置等21あり	72	15.72	19.85	1.39%	72.71	
070350xx02xxxx	椎間板変性、ヘルニア 椎間板摘出術 後方摘出術	54	11.74	14.22	0.00%	52.02	

整形外科では大腿骨頸部骨折等の手術入院が最も多くなっており、また平均年齢が約 84 歳と高齢の患者さんが多いことがわかります。次いで膝関節症に対する人工関節置換術などの手術入院、肘・膝の外傷に対する入院、脊柱管狭窄等に対する手術入院、椎間板ヘルニアに対する手術入院の順となっております。

当院では、長岡及び新潟県中越地区の外傷、変性疾患など整形外科疾患全般を扱っております。各医師が新潟大学で専門研究班に所属して研修を受けておりますので、出来る限り整形外科疾患の部位に応じて専門の医師が手術、治療を担当するように心がけており治療成績の向上を図っております。

■形成外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
070010xx010xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） 四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等 1 なし	18	7.33	5.49	0.00%	52.72	
090010xx04xxxx	乳房の悪性腫瘍 組織拡張器による再建手術（一連につき） 乳房（再建手術）の場合等	18	11.56	8.1	0.00%	49.72	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 なし	-	-	7.68	-	-	
070010xx970xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） その他の手術あり 手術・処置等 1 なし	-	-	4.66	-	-	
080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等 1 なし	-	-	13.07	-	-	

形成外科では、骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）、乳房の悪性腫瘍（組織拡張器による再建手術）に対する入院が多くなっております。開設は新潟県内では比較的早く、昭和56年にさかのぼります。形成外科で取り扱われる疾患全般にわたって診療を行っています。体表の生まれつきの変形や、外傷・熱傷・その後の変形を扱っています。乳房再建・眼瞼下垂・腋臭症も行っています。
※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■皮膚科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	11	5.91	9.22	0.00%	75.55	
080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等 1 なし	10	6	13.07	0.00%	68.6	
080090xxxxxxxx	紅斑症	-	-	10.15	-	-	
080100xxxx0xxx	薬疹、中毒疹 手術・処置等 1 なし	-	-	11.44	-	-	

皮膚科では、帯状疱疹に対する入院が最も多くなっております。次いで膿皮症の入院、紅斑症、薬疹・中毒疹の入院と続いております。
※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 なし 手術・処置等 1 あり	137	3.06	2.5	0.00%	71.34	
110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 2 なし	108	7.44	7.02	0.00%	72.06	
11012xxx04xxxx	上部尿路疾患 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）	57	2.25	2.59	1.75%	60.68	
110070xx99x20x	膀胱腫瘍 なし 手術・処置等 2 2 あり 定義副傷病なし	32	12.03	9.65	0.00%	73.81	
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 なし	24	9.08	13.14	0.00%	75.33	

泌尿器科では、前立腺がんに対する入院が最も多く、次いで膀胱がんに対する手術治療、尿管結石や腎結石に対する体外衝撃波による結石破碎術に伴う入院の順となっております。

■心臓血管外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数	平均 在院日数	転院率	平均年齢	患者用パス
---------	--------	-----	------------	------------	-----	------	-------

			(自院)	(全国)			ス
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術・処置等 2 なし	75	2.37	4.6	0.00%	68.73	
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術・処置等 1 なし、1 あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	38	7	5.32	0.00%	74.82	
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	16	3.13	2.75	0.00%	55.56	
050170xx99000x	閉塞性動脈疾患 なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	11	5.64	7.98	0.00%	72.36	
03001xxx97x0xx	頭頸部悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし	10	2	10.69	0.00%	60.9	

血管外科では、慢性腎不全に対する経皮的シャント拡張術・血栓除去術の入院が最も多くなっており、次いで閉塞性動脈疾患に対するバイパス手術やカテーテル治療の入院が多くなっており、

■呼吸器外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	89	8.76	10.47	0.00%	70.2	
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	32	7.09	9.86	0.00%	30.38	
040040xx97x4xx	肺の悪性腫瘍 あり 手術・処置等 2 あり	-	-	20.46	-	-	
040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍 なし 手術・処置等 1 あり 手術・処置等 2 なし	-	-	3.3	-	-	
040200xx99x00x	気胸 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	-	-	9.28	-	-	

呼吸器外科では、肺がんに対する手術治療の入院が最も多く、次いで気胸に対する治療の入院の順となっております。

当院では、肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術を行っております。呼吸器内科・呼吸器外科が呼吸器グループとして常に連携し、検討会を毎週行って医療情報を交換しつつ確実に迅速な診断・治療を心掛けています。

※患者数が 10 未満の項目については (-) ハイフンにて表示しております。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■内科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	181	0.97	3.66	0.55%	75.81	
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	114	3.82	10.5	4.39%	73.81	
K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	75	1.55	7.09	5.33%	74.97	
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	72	6.68	8.08	4.17%	76.15	
K654	内視鏡的消化管止血術	63	2.48	13.49	6.35%	72.98	

内科では、内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離）が最も多く行われております。次に内視鏡的胆道ステント留置術、3番目には内視鏡的乳頭切開（拡張）術の順となっており、主に内視鏡による手術が行われています。

附属する健診センターと共に消化器癌の早期発見及び治療に力を注いでおり、食道癌、胃癌、大腸癌の内視鏡的切除などをはじめとし、症状緩和のための内視鏡を用いた各種治療も積極的に行っております。

■循環器内科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	25	2.48	3.96	4.00%	71.76	
K5972	ペースメーカー移植術（経静脈電極）	23	7.39	12.13	26.09	82.35	
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症）	14	0	14.14	7.14%	70.79	
K5491	経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞）	-	-	-	-	-	
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術（心房中隔穿刺、心外膜アプローチ）	-	-	-	-	-	

循環器内科では、虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症など）に対する経皮的冠動脈ステント留置術を最も多く行っております。

経皮的冠動脈ステント留置術などの心臓カテーテル治療は、腕や足の血管から心臓まで管を通して病変を治療する方法です。この治療は緊急で行う場合や検査と同時に行う場合、検査から日数を空けて行う場合、検査後一旦退院してから再入院して行う場合など患者さんの状況に合わせて治療が行われます。

他には、ペースメーカーの移植術、カテーテルを用いた心筋焼灼術の順となっております。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■小児科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K9131	新生児仮死蘇生術（仮死第1度）	11	0	26.45	0.00%	0	
K9132	新生児仮死蘇生術（仮死第2度）	-	-	-	-	-	
K7151	腸重積症整復術（非観血的なもの）	-	-	-	-	-	

小児科では、新生児仮死蘇生術（仮死第1度）が最も多く行われております。2番目以降は新生児仮死蘇生術（仮死第2度）、腸重積症整復術（非観血的なもの）の順となっております。

新生児仮死蘇生術とは、酸素が胎盤から十分に供給されず、胎児が仮死状態で生まれてくる状態の赤ちゃんに対して行う蘇生術です。また腸重積症整復術（非観血的）については腸重積症に対して、おしりから造影剤を注入し圧を加えることにより腸重積を元に戻す方法です。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■外科

Ｋコード	名称	患者数	平均	平均	転院率	平均年齢	患者用パス
------	----	-----	----	----	-----	------	-------

			術前日数	術後日数			ス
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	92	3.59	9.73	3.26%	72.22	
K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））	88	1.09	5.09	0.00%	60.6	
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	79	2.19	4.41	1.27%	68.38	
K655-22	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	36	2.36	11.31	2.78%	71.53	
K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施しない）	30	1	8.27	0.00%	57.43	

外科では、腹腔鏡を用いた結腸悪性腫瘍切除術が最も多く行われております。2番目には乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））、3番目に腹腔鏡下胆嚢摘出術、4番目に腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）、5番目に乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施しない）となっております。

当院はがん診療連携拠点病院に指定されており、特にがんの手術件数が増加しております。

■脳神経外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	35	0.31	10.63	11.43%	80.37	
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	13	8.31	37.54	30.77%	64	
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	-	-	-	-	-	
K154-3	定位脳腫瘍生検術	-	-	-	-	-	
K1801	頭蓋骨形成手術（頭蓋骨のみ）	-	-	-	-	-	

脳神経外科では、慢性硬膜下血腫に対する洗浄除去術が最も多くなっております。こちらの手術につきましては、小さな穿頭で硬膜下に溜まった血腫を吸引し、洗浄除去する手術です。平均年齢が80歳と高くなっており高齢の患者さんが多いことがわかります。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■産婦人科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8981	帝王切開術（緊急帝王切開）	68	1.69	8.16	0.00%	32.26	
K893	吸引娩出術	62	1.08	0.1	0.00%	32.66	
K802-21	膀胱脱手術（メッシュ使用）	55	1.27	4.35	0.00%	72.24	
K8982	帝王切開術（選択帝王切開）	46	5.17	7.96	0.00%	33.5	
K877-2	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	41	1	4.32	0.00%	50.34	

産婦人科では、保健診療としては帝王切開術（緊急帝王切開）が最も多くなっております。2番目に吸引娩出術、3番目以降は膀胱脱手術（メッシュ使用）、帝王切開術（選択帝王切開）、子宮全摘術の順となっております。（正常分娩は自費診療です。）

当院では性器脱に対して、TVM(tension-free vaginal mesh)手術を積極的におこなっております。TVM手術は、性器脱専用開発されたテフロン製のメッシュ状のシートを使用し、子宮を摘出することなく、骨盤内の組織を補強します。体内では溶けることなく、ずっと支えていることとなります。アレルギーや感染の可能性は非常に低いとされています。さらに、従来の方法に比べ体への負担も少なく、入院も短期間となっております。

■耳鼻咽喉科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K4631	甲状腺悪性腫瘍手術（切除）	24	1.04	7.25	0.00%	59.63	
K394-21	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術（切除）	16	1	1.88	0.00%	74.38	
K374-2	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）	13	1	13	0.00%	68.08	

K4611	甲状腺部分切除術、甲状腺腫瘍摘出術（片葉のみ）	12	1	3.83	0.00%	61.25	
K4691	頸部郭清術（片）	11	1	6.36	0.00%	72.27	

耳鼻咽喉科では甲状腺悪性腫瘍手術（切除）が最も多くなっております。次いで鏡視下喉頭悪性腫瘍手術（切除）、甲状腺部分切除術、甲状腺腫瘍摘出術、頸部郭清術の順となっております。

■眼科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821	水晶体再建術（眼内レンズを挿入）（その他）	180	1.01	2.29	0.00%	76.29	
K2801	硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）	64	1.31	7.72	0.00%	63.66	
K2682	緑内障手術（流出路再建術）	27	0.93	3.89	0.00%	75.22	
K2802	硝子体茎頭微鏡下離断術（その他）	23	0.87	5.87	0.00%	70.78	
K2683	緑内障手術（濾過手術）	13	0.92	13	0.00%	68.77	

眼科では、白内障に対する水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）が最も多くなっております。次いで網膜剥離や硝子体出血、黄斑部の病変などに対する硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）、緑内障手術（流出路再建術）、緑内障手術（濾過手術）となっております。

■整形外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0821	人工関節置換術	171	1.22	17.32	1.17%	74.56	
K0461	骨折観血的手術	123	2.93	14.38	54.47%	78.73	
K1425	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）	94	2.51	12.17	1.06%	72.91	
K1342	椎間板摘出術（後方摘出術）	61	1.87	9.21	0.00%	53.64	
K0483	骨内異物（挿入物を含む。）除去術	56	0.14	1.09	0.00%	46.2	

整形外科では、変形性膝関節症等に対して人工膝関節に入れ替える人工関節置換術が最も多く、2番目に大腿骨骨折等に対する骨折観血的手術、3番目に脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）、椎間板摘出術（後方摘出術）、骨内異物（挿入物を含む。）除去術の順となっております。

その他に膝関節前十字靭帯再建術・肩関節腱板損傷に対する修復術、再建術も積極的に行っております。

整形外科疾患のほぼ全範囲の手術に対応できるように診療に取り組んでおります。

■形成外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術	19	0.95	4.95	0.00%	51.53	
K476-4	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	15	1	9.13	0.00%	51	
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	11	2.36	20.36	0.00%	79.73	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上4cm未満）	-	-	-	-	-	
K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径4cm以上）	-	-	-	-	-	

形成外科では四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術が最も多くなっております。次いでゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）、皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）、皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）の順となっております。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

Ｋコード	名称	患者数	平均	平均	転院率	平均年齢	患者用パス
------	----	-----	----	----	-----	------	-------

			術前日数	術後日数			
K8036 1	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	106	1.66	4.52	0.00%	72.09	
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	58	0.29	1.09	1.72%	60.91	
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	24	1.54	6	8.33%	70.04	
K7811	経尿道的尿路結石除去術（レーザー）	14	1.07	2.14	0.00%	65.43	
K773	腎（尿管）悪性腫瘍手術	11	2	8.82	0.00%	78.27	

泌尿器科では、膀胱がんに対する膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）が最も多く行われています。

次に多く行われているのが、結石や尿管結石に対して行う体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（ESWL）です。こちらは放電によって衝撃波を発生させる装置を用いて衝撃波のエネルギーを体内の結石に目標を合わせ収束し、衝撃波の力で直接結石を細かく砕く治療法です。入院期間は1泊2日となっております。

3番目以降は、経尿道的尿管ステント留置術、経尿道的尿路結石除去術（レーザー）、腎（尿管）悪性腫瘍手術の順となっております。

■心臓血管外科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K616-41	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	66	0.74	1.55	0.00%	69.62	
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	45	1.69	4.07	0.00%	74.56	
K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置	17	0.53	1.06	0.00%	65.76	
K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	14	1	1	0.00%	54.29	
K616-42	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（1の実施後3月以内に実施）	11	0	1.18	0.00%	64.45	

血管外科では、透析シャント狭窄の拡張のための経皮的シャント拡張術・血栓除去術が最も多くなっております。次いで四肢の血管拡張術・血栓除去術、抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置、下肢静脈瘤血管内焼灼術となっております。

■呼吸器外科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）	45	1.33	7.04	0.00%	70.24	
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	37	1.43	5.08	0.00%	70.54	
K5131	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））	34	2.85	3.18	0.00%	32	
K488-4	胸腔鏡下試験切除術	10	1	3.3	0.00%	66.7	
K514-22	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	10	1	5.6	0.00%	69	

呼吸器外科では、肺がんに対する胸腔鏡を用いた肺悪性腫瘍手術が最も多くなっております。

当院では肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術で行っております。完全胸腔鏡下手術とは、創をカメラや道具を入れる穴だけとし、モニターのみ（完全モニター視）で手術する方法です。

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	200	5.41	7.76	0.00%	76.08
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	117	6.4	8.94	1.71%	77.17
06007xxx97x0xx	膵臓、脾臓の腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2なし	75	13.79	11.74	8.00%	73.69
110280xx9900xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	59	11.78	11.77	3.39%	72.2
130030xx99x4xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2 - 4あり	56	6.68	10	1.79%	70.38

内科では早期胃がんに対する内視鏡手術が最も多くなっております。胃カメラを用いた粘膜下層剥離術（ESD）が主な治療法として行われております。次いで胆石や胆道系の疾患に対する症例になります。乳頭括約筋切開術を含む総胆管結石除去術や閉塞性黄疸の緊急ドレナージ、ステントの挿入などを積極的に行っております。以降は膵臓・脾臓に対する治療、慢性腎疾患、非ホジキンリンパ腫の治療に関する入院となっております。

■循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
050130xx9900x0	心不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 重症度等他の病院・診療所の病棟からの転院以外	85	21.02	17.54	14.12%	82.04	
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1なし、1、2あり 手術・処置等2なし	55	5.2	4.26	0.00%	71.45	
050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1なし、1、3あり 手術・処置等2なし 定義副傷病名なし	39	12.26	9.89	0.00%	82.44	
050050xx9910x0	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1 - 1あり 手術・処置等2なし 重症度等他の病院・診療所の病棟からの転院以外	31	4.87	3.04	16.13%	68.19	
050070xx01x0xx	頻脈性不整脈 経皮的カテーテル心筋焼灼術 手術・処置等2なし	31	8.97	4.65	0.00%	66.52	

循環器内科では心不全に対する治療が最も多く、次いで狭心症、不整脈の治療に関する症例となっております。

■呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等2なし	65	37.15	18.57	3.08%	76.52
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	57	22.91	13.49	17.54%	75.72
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 - 4あり 定義副傷病なし	47	13.74	8.6	4.26%	72

040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等 2 なし	33	28	21.11	30.30%	83.94
040040xx9905xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 - 5 あり	19	34.05	18.98	0.00%	70

呼吸器内科では間質性肺炎に対する治療が最も多く、次いで肺がんの治療に関する入院、誤嚥性肺炎による入院となっております。

■神経内科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
010060×2990401	脳梗塞（脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満） 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 - 4 あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、 1 又は 2	45	18.6	15.97	35.56%	71.44	
010080xx99x0x1	脳脊髄の感染を伴う炎症 手術なし 手術・処置等 2 なし 重症度等 15 歳以上	16	16.63	16.85	0.00%	54.25	
010060×2990421	脳梗塞（脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満） 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 - 4 あり 定義副傷病 2 あり 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1 又は 2	15	39.67	31.04	66.67%	84.87	
010060×2990411	脳梗塞（脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満） 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 - 4 あり 定義副傷病 1 あり 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1 又は 2	12	22.5	17.76	41.67%	80.75	
010060×2990201	脳梗塞（脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満） 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 - 2 あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、 1 又は 2	11	14.55	16.01	36.36%	73.82	

神経内科では脳梗塞に対する治療が最も多く、次いで脳脊髄の感染を伴う炎症に対する治療が多くなっております。

■小児科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
080270xxxx1xxx	食物アレルギー 手術・処置等 1 あり	114	1.09	2.09	0.00%	4.26	
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（2500g 以上） 手術なし 手術・処置等 2 なし	61	5.7	6.13	0.00%	0	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	23	6	6.05	0.00%	2.87	
040090xxxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	17	4.53	5.89	0.00%	0.71	
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等 2 なし	17	4	5.7	0.00%	3.88	

小児科では食物アレルギーに対する入院が最も多く、次いで低出産体重児、気管支喘息、急性気管支炎、ウイルス性腸炎の順となっております。
小児の気管支喘息については、地域での中核治療拠点として患者数も多く、急性期の発作治療やその後の予防治療にも力を入れて診療しています。
あわせて肺炎・急性気管支炎などの呼吸器感染症も専門治療いたします。

■外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
---------	--------	-----	--------------------	--------------------	-----	------	---------------

090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴うもの (内視鏡下によるものを含む。)) 等 手術・処置等 1 なし	132	8.5	9.99	0.00%	61.96	
060020xx02xxxx	胃の悪性腫瘍 胃切除術 悪性腫瘍手術等	96	18.25	18.05	2.08%	72.8	
060035xx010x0x	結腸 (虫垂を含む。) の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等 1 なし 定義副傷病なし	82	13.46	15.4	2.44%	73.18	
060335xx02000x	胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	80	5.45	6.93	0.00%	63.26	
060035xx010x1x	結腸 (虫垂を含む。) の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等 1 なし 定義副傷病あり	36	25.69	24.61	8.33%	77.42	

外科では乳がんの手術治療の入院が最も多く、次いで胃がんの手術治療、結腸や胆のう結石・胆のう炎等の手術治療の入院が多くなっております。

当院はがん診療連携拠点病院に指定され、特にがんの手術件数が多数を占めております。また、クリニカルパスを運用することで術後在院日数を短縮できております。

■脳神経外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	46	10.61	10.14	15.22%	78.46	
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外) (JCS10 未満) 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	36	24.08	19.58	69.44%	74	
010040x199x0xx	非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外) (JCS10 以上) 手術なし 手術・処置等 2 なし	24	25.5	23.28	54.17%	73.42	
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	16	14.63	8.54	25.00%	77.88	
010060 × 2990201	脳梗塞 (脳卒中発症 3 日目以内、かつ、JCS10 未満) 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 - 2 あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1 又は 2	11	26.73	16.01	54.55%	77.82	

脳神経外科では外傷性硬膜下血腫による手術入院が最も多く、次いで脳出血による入院となっております。脳血管障害 (脳卒中) に対しては、手術対象となるか否かを問わず、全例で積極的に取り組んでいます。脳血管障害は、脳だけを診ていては全体像が見えず、心臓や基礎疾患となる糖尿病・高血圧・高脂血症などをきちんと評価する必要があります。脳梗塞で入院された患者さんは循環器内科での心臓検査を受けて頂き、不整脈や心臓の冠動脈虚血の状態を評価しています。

■産婦人科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	105	7.5	8.07	0.00%	71.58	
120260x002xxxx	分娩の異常 (分娩時出血量 2000ml 未満) 骨盤位娩出術等	80	8.11	6.69	0.00%	31.81	
120260x099xxxx	分娩の異常 (分娩時出血量 2000ml 未満) 手術なし	46	8.67	4.81	0.00%	31.87	
120260x001xxxx	分娩の異常 (分娩時出血量 2000ml 未満) 子宮破裂	44	10.36	9.37	0.00%	33.8	

	手術等						
120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腔式子宮全摘術等	43	6.28	5.98	0.00%	48.77	

産婦人科では性器脱（子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤）に対する手術治療の入院が最も多く、次いで分娩関係の入院が多くなっております。

■耳鼻咽喉科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 パス
03001xxx99x60x	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 6 あり 定義副傷病なし	54	3.19	7.86	0.00%	68.39	
100020xx010xxx	甲状腺の悪性腫瘍 甲状腺悪性腫瘍手術 切除（頸部外側区域郭清を伴わないもの）等 手術・処置等 1 なし	34	7.03	8.06	0.00%	61.56	
03001xxx99x0xx	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 なし	31	14.61	12.44	22.58%	72.48	
03001xxx01x0xx	頭頸部悪性腫瘍 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）等 手術・処置等 2 なし	29	10.17	11.38	0.00%	71.59	
100130xx97x0xx	甲状腺の良性結節 手術あり 手術・処置等 2 なし	28	5.93	7.08	0.00%	56.25	

耳鼻咽喉科では頭頸部悪性腫瘍に対する治療の入院が最も多く、次いで甲状腺悪性腫瘍に対する治療の入院、甲状腺良性結節に対する治療の入院となっております。

■眼科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 重症度等片眼	204	2.49	2.63	0.00%	76.21	
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 手術あり 重症度等両眼	41	7.59	4.67	0.00%	78.39	
020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり 重症度等片眼	41	11.24	8.05	0.00%	60.68	
020200xx9710xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等 1 あり 手術・処置等 2 なし	25	7.44	5.8	0.00%	69.2	
020240xx97xxx0	硝子体疾患 手術あり 重症度等片眼	18	6.89	5.07	0.00%	78.17	

眼科では白内障に対する手術治療の入院が最も多く、次いで網膜剥離、黄斑、硝子体疾患に対する手術治療の入院が多くなっております。

■整形外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 パス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	170	21.68	26.42	66.47%	83.34	
070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む。） 人工関節再置換術等	148	17.51	22.44	0.00%	73.76	
070343xx01x0xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 前方椎体固定等 手術・処置等 2 なし	72	17.85	20.05	2.78%	71.1	
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。） 腱縫合術等	64	7.7	13.19	0.00%	28.56	
070343xx97x0xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし	55	14.78	15.6	0.00%	73.71	

整形外科では大腿骨近位部骨折等の手術入院が最も多くなっております。また、平均年齢が約 84 歳と高齢の患者さんが多いことがわかります。次いで変形性膝関節症に対する人工関節置換術などの手術入院、腰部脊柱管狭窄症等に対する入院、肘・膝の外傷に対する入院となっております。

す。

当院では、長岡および新潟県中越地区の外傷、変性疾患など整形外科疾患全般を扱っております。各医師が新潟大学で専門研究班に所属し研修を受けておりますので、出来る限り整形外科疾患の部位に応じて専門の医師が手術、治療を担当するように心掛けており治療成績の向上を図っております。

■形成外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
070010xx970xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） その他の手術あり 手術・処置等 1 なし	24	5.5	4.5	0.00%	48.21	
070010xx010xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） 四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等 1 なし	10	6.6	5.29	0.00%	52.3	
180060xx97xxxx	その他の新生物 手術あり	-	-	5.96	-	-	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 なし	-	-	7.29	-	-	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等 1 なし	-	-	3.94	-	-	

形成外科では骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く）に対する入院が最も多く、次いでその他の新生物に対する入院となっております。

開設は新潟県内では比較的早く、昭和 56 年にさかのぼり、形成外科で取り扱われる疾患全般にわたって診療を行っております。体表の生まれつきの変形や、外傷・熱傷・その他の変形、乳房再建、眼瞼下垂、腋臭症等も行っております。

※患者数が 10 未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり	133	2.53	2.45	0.00%	70.5	
110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 2 なし	103	6.24	6.85	0.97%	74.06	
11012xxx03xxxx	上部尿路疾患 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）	42	2.4	2.49	0.00%	58.45	
11012xxx02x0xx	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術 定義副傷病なし	36	4.89	5.29	0.00%	63.25	
110060xx99x20x	腎盂・尿管の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 2 あり 定義副傷病なし	28	7.57	9.46	0.00%	75.64	

泌尿器科では前立腺がんに対する入院が最も多く、次いで膀胱がんに対する手術治療、尿管結石に対する入院となっております。

■心臓血管外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術・処置等 2 なし	34	2.41	4.23	0.00%	66.03	
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの（観血	23	7.39	5.18	0.00%	73.83	

	的なもの)等手術・処置等1なし、1あり手術・処置等2なし 定義副傷病なし						
050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等手術・処置等1なし、1あり手術・処置等2なし 定義副傷病あり	11	7	9.01	0.00%	76.91	
050170xx02000x	閉塞性動脈疾患 動脈形成術、吻合術 指(手、足)の動脈等手術・処置等1なし、1あり手術・処置等2なし 定義副傷病なし	10	15.2	15	0.00%	70.8	
110280xx02x1xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等手術・処置等2 - 1あり	10	14.8	33.82	10.00%	64.7	

心臓血管外科では慢性腎不全に対する経皮的シャント拡張術・血栓除去術の入院が最も多く、次いで閉塞性動脈疾患に対するバイパス術やカテーテル治療の入院が多くなっております。

■呼吸器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり手術・処置等2なし 定義副傷病なし	83	7.07	10.06	0.00%	71.22	
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等手術・処置等2なし 定義副傷病なし	23	11.39	9.68	4.35%	42.48	
160450xx97x1xx	肺・胸部気管・気管支損傷 その他の手術あり手術・処置等2あり	-	-	20.28	-	-	
040040xx97x4xx	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり手術・処置等2 - 4あり	-	-	19.76	-	-	
040150xx97x00x	肺・縦隔の感染、膿瘍形成手術あり手術・処置等2なし 定義副傷病なし	-	-	28.63	-	-	

呼吸器外科では肺がんに対する手術治療の入院が最も多く、次いで気胸に対する治療の入院となっております。

当院では、肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術を行っております。呼吸器内科・呼吸器外科が呼吸器グループとして常に連携し、検討会を毎週行って医療情報を交換しつつ、確実に迅速な診断・治療を心掛けております。

※患者数が10未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■内科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術	203	1.17	3.71	0.49%	76.16	
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	107	2.07	9.71	1.87%	75.09	
K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	93	1.11	7.34	2.15%	78.24	
K708-3	内視鏡的膵管ステント留置術	79	1.57	4.2	0.00%	70.14	
K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置	69	5.3	9.36	0.00%	68.91	

内科では内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）が最も多く行われております。次いで内視鏡的胆道ステント留置術、内視鏡的乳頭切開術の順となっており、主に内視鏡による手術が行われております。

付属する健診センターと共に消化器がんの早期発見及び治療に力を注いでおり、食道がん、胃がん、大腸がんの内視鏡的切除などをはじめとし、症状緩和のための内視鏡を用いた各種治療も積極的に行っております。

■循環器内科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	59	2.39	4.14	0.00%	71.24	
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術 不安定狭心症に対するもの	40	0.03	15.45	7.50%	70.58	
K5972	ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	28	5.96	9.43	0.00%	81.64	
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術 心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの	18	2.28	6.72	0.00%	67.22	
K597-2	ペースメーカー交換術	16	1	8.38	0.00%	83.75	

循環器内科では虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症など）に対する経皮的冠動脈ステント留置術が最も多くなっております。

経皮的冠動脈ステント留置術等の心臓カテーテル治療は、腕や足の血管から心臓まで管を通して病変を治療する方法です。この治療は緊急で行う場合や検査と同時に行う場合、検査から日数を空けて行う場合、検査後一旦退院してから再入院して行う場合など、患者さんの状況に合わせて治療が行われます。

他にペースメーカーの移植術、カテーテルを用いた心筋焼灼術、ペースメーカー交換術の順となっております。

■神経内科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	11	19.18	28.64	36.36%	71.73	
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径 2cm 未満	-	-	-	-	-	
K386	気管切開術	-	-	-	-	-	
K654	内視鏡的消化管止血術	-	-	-	-	-	
K655-22	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	-	-	-	-	-	

神経内科では胃瘻造設術を最も多く行っており、次いで内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術、気管切開術等となっております。

※患者数が10未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	96	4.39	10.8	2.08%	73.72	
K4763	乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	87	1.18	5.99	1.15%	62.43	
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	85	1.64	3.46	0.00%	63.51	
K655-22	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	64	2.31	11.91	1.56%	71.5	
K4765	乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）・胸筋切除を併施しないもの	41	1.29	7.59	0.00%	59.51	

外科では腹腔鏡を用いた結腸悪性腫瘍切除術が最も多く行われております。次いで乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）、腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）、乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）・胸筋切除を併施しないもの））となっております。

当院はがん診療連携拠点病院に指定されており、特にがんの手術件数が増加しております。

■脳神経外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	47	0.47	9.7	17.02%	79.45	
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	-	-	-	-	-	
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング 1箇所	-	-	-	-	-	
K1742	水頭症手術 シヤント手術	-	-	-	-	-	
K1642	頭蓋内血腫除去術（開頭して行うもの） 硬膜下のもの	-	-	-	-	-	

脳神経外科では慢性硬膜下血腫に対する洗浄除去術が最も多くなっております。こちらの手術につきましては、小さな穿頭で硬膜下に溜まった血腫を吸引し、洗浄除去する手術です。平均年齢が約 80 歳と高くなっており、高齢の患者さんが多いことがわかります。

※患者数が 10 未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■産婦人科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K893	吸引娩出術	73	1.08	6.04	0.00%	31.92	
K877-2	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	65	1.18	4.66	0.00%	49.65	
K802-21	膀胱脱手術 メッシュを使用するもの	64	1	4.8	0.00%	70.66	
K8981	帝王切開術 緊急帝王切開	57	5.18	8.49	0.00%	32.67	
K8982	帝王切開術 選択帝王切開	51	3	7.98	0.00%	33.04	

産婦人科では保険診療としては吸引娩出術が最も多くなっております。次いで腹腔鏡下腔式子宮全摘術、膀胱脱手術、帝王切開術の順となっております。（正常分娩は自費診療です。）

当院では性器脱に対して、TVM（tension - free vaginal mesh）手術を積極的に行っております。TVM 手術は、性器脱専用開発されたテフロン製のメッシュ状のシートを使用し、子宮を摘出することなく骨盤内の組織を補強します。体内では溶けることなくずっと支えていることになります。また、アレルギーや感染の可能性は非常に低いとされています。さらに、従来の方法に比べて体への負担が少なく、入院も短期間となっております。

■耳鼻咽喉科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K4611	甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術 片葉のみの場合	29	1	3.83	0.00%	54.66	

K4631	甲状腺悪性腫瘍手術 切除（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	26	1.19	4.58	0.00%	63.35	
K374-2	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）	19	1.42	10.68	0.00%	70.58	
K4571	耳下腺腫瘍摘出術 耳下腺浅葉摘出術	12	1	4.92	0.00%	60.92	
K394-21	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術（切除）	10	1.4	2.2	0.00%	73.5	

鼻咽喉科では甲状腺部分切除術、甲状腺腫瘍摘出術が最も多くなっております。次いで甲状腺悪性腫瘍手術（切除・頸部外側区域郭清を伴わないもの）、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）、耳下腺腫瘍摘出術、鏡視下喉頭悪性腫瘍手術の順となっております。

■眼科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821	水晶体再建術（眼内レンズを挿入）（その他）	240	0.6	1.7	0.00%	76.68	
K2801	硝子体茎頭微鏡下離断術 網膜付着組織を含むもの	80	1.06	7.85	0.00%	64.45	
K2802	硝子体茎頭微鏡下離断術 その他のもの	25	1.68	5.24	0.00%	75.2	
K2682	緑内障手術 流出路再建術 眼内法	17	0.88	3	0.00%	71.24	
K2821	水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 縫着レンズを挿入するもの	-	-	-	-	-	

眼科では白内障に対する水晶体再建術（眼内レンズを挿入）が最も多く、次いで硝子体茎頭微鏡下離断術、緑内障手術となっております。
※患者数が10未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■整形外科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0821	人工関節置換術	166	1.03	15.4	0.60%	74.07	
K0461	骨折観血的手術	136	2.46	15.07	50.74%	81.71	
K1425	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 椎弓切除	77	2.38	12.44	3.90%	73.53	
K1423	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 後方椎体固定	76	1.58	15.09	2.63%	70.55	
K0483	骨内異物（挿入物を含む。）除去術	69	0.06	1.55	0.00%	46.29	

整形外科では変形性膝関節症に対して膝関節に入れ替える人工関節置換術が最も多くなっております。次いで大腿骨骨折等に対する骨折観血的手術、脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）（後方椎体固定）、骨内異物（挿入物を含む）除去術の順となっております。

その他に膝関節前十字靭帯再建術・肩関節腱板損傷に対する修復術、再建術も積極的に行っております。

整形外科疾患のほぼ全範囲の手術に対応できるように診療に取り組んでおります。

■形成外科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術	12	1	4.75	0.00%	54.58	
K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径 4cm 以上	-	-	-	-	-	
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除	-	-	-	-	-	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径 2cm 以上 4cm 未満	-	-	-	-	-	
K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外） 長径 3cm 以上 6cm 未満	-	-	-	-	-	

形成外科では四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術が最も多くなっております。次いで皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）、皮膚悪性腫瘍切除術、皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部外）となっております。

※患者数が10未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8036 1	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	109	1.59	4.8	0.92%	73.94	
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（一連につき）	42	0.38	1.02	0.00%	58.45	
K7811	経尿道的尿路結石除去術 レーザーによるもの	38	1.34	2.47	0.00%	62.26	
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	29	1.72	5.41	3.45%	74	
K773-2	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	26	2.31	10.62	0.00%	69.54	

泌尿器科では膀胱がんに対する膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）が最も多く、次いで結石や尿管結石に対して行う体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（ESWL）となっております。こちらは放電によって衝撃波を発生させる装置を用いて衝撃波のエネルギーを体内の結石に目標を合わせ収束し、衝撃波の力で直接結石を細かく砕く治療法です。入院期間は1泊2日となっております。

以降は経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）、経尿道的尿管ステント留置術、腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術の順となっております。

■心臓血管外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	34	2.85	4.56	0.00%	73.71	
K616-41	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	30	0.1	1.37	0.00%	69.4	
K6147	血管移植術、バイパス移植術 その他の動脈	15	3.93	8.13	0.00%	69.07	
K616-7	ステントグラフト内挿術（シャント）	10	0.4	1	0.00%	67.6	
K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置	-	-	-	-	-	

心臓血管外科では四肢の血管拡張術・血栓除去術が最も多くなっております。次いで透析シャント狭窄拡張のための経皮的シャント拡張術・血栓除去術、血管移植術、バイパス移植術（その他の動脈）、ステントグラフト内挿術（シャント）、抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置の順となっております。

※患者数が10未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■呼吸器外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）	50	1.56	5.46	0.00%	71.36	
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 部分切除	32	1.25	3.81	0.00%	70.97	
K5131	胸腔鏡下肺切除術 肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの）	25	5.92	5.36	8.00%	46.4	
K5132	胸腔鏡下肺切除術 部分切除	-	-	-	-	-	
K514-22	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	-	-	-	-	-	

呼吸器外科では肺がんに対する胸腔鏡を用いた肺悪性腫瘍手術が最も多くなっております。

当院では肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術で行っております。完全胸腔鏡下手術とは、創をカメラや道具を入れる穴だけとし、モニターのみ（完全モニター視）で手術する方法です。

※患者数が10未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	196	5.12	7.61	0.00%	75.58
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	146	7.12	8.75	3.42%	76.34
10007xxxxxx1xx	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。） 手術・処置等2 - 1あり	76	15.91	13.99	2.63%	66.88
130030xx99x4xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2 - 4あり	65	6.23	9.62	1.54%	76.62
06007xxx97x0xx	膵臓、脾臓の腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2なし	61	10.02	11.65	11.48%	75.74

内科では早期胃がんに対する内視鏡手術が最も多くなっております。胃カメラを用いた粘膜下層剥離術（ESD）が主な治療法として行われております。次いで胆石や胆道系の疾患に対する症例になります。乳頭括約筋切開術を含む総胆管結石除去術や閉塞性黄疸の緊急ドレナージ、ステントの挿入などを積極的に行っております。以降は2型糖尿病、非ホジキンリンパ腫、膵臓・脾臓腫瘍の治療に関する入院となっております。

■循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 パス
050130xx9900x0	心不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 重症度等の病院・診療所の病棟からの転院以外	87	21.64	17.38	13.79%	84.33	
050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1なし、1、3あり 手術・処置等2なし 定義副傷病名なし	52	14.46	9.77	3.85%	80.77	
050050xx9910x0	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1 - 1あり 手術・処置等2なし 重症度等の病院・診療所の病棟からの転院以外	37	4.78	3.05	8.11%	71.05	
050070xx01x0xx	頻脈性不整脈 経皮的カテーテル心筋焼灼術 手術・処置等2なし	37	7.73	4.57	0.00%	68.22	
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1なし、1、2あり 手術・処置等2なし	30	6.87	4.26	6.67%	70.93	

循環器内科では心不全に対する治療が最も多く、次いで不整脈、狭心症の治療に関する症例となっております。

■呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2なし	55	29.13	20.60	43.64%	82.4
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等2なし	51	32.35	18.65	5.88%	77.69
030250xx991xxx	睡眠時無呼吸 手術なし 手術・処置等1あり	49	2	2.03	0.00%	59.37
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 - 4あり 定義副傷病なし	43	15.02	8.33	0.00%	72.28
040040xx9905xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 -	36	29.25	18.83	0.00%	73.39

	5あり					
--	-----	--	--	--	--	--

呼吸器内科では誤嚥性肺炎に対する治療が最も多く、次いで間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群、肺がんの治療に関する入院となっております。

■神経内科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
010060x2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、 1又は2	55	18.05	15.70	34.55%	74.91	
010060x2990201	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、 1又は2	18	18.72	15.57	33.33%	78.11	
010060x2990411	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病1あり 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1又は2	16	17.81	17.39	18.75%	78.94	
010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病 なし	14	22.43	7.20	35.71%	61.93	
010080xx99x0x1	脳脊髄の感染を伴う炎症 手術なし 手術・処置等2な し 重症度等 15歳以上	12	30	16.56	25.00%	62.33	

神経内科では脳梗塞に対する治療が最も多く、次いでてんかん、脳脊髄の感染を伴う炎症に対する治療が多くなっております。

■小児科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
080270xxxx1xxx	食物アレルギー 手術・処置等1あり	117	1.11	2.12	0.00%	4.15	
040090xxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その 他）	63	5.1	5.96	0.00%	1.95	
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（2500g以 上） 手術なし 手術・処置等2なし	51	4.76	6.07	1.96%	0	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	40	5.5	6.37	0.00%	3.08	
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2なし	40	4.47	5.64	0.00%	3.13	

小児科では食物アレルギーに対する入院が最も多く、次いで急性気管支炎、低出産体重児、気管支喘息、ウイルス性腸炎の順となっております。
小児の気管支喘息については、地域での中核治療拠点として患者数も多く、急性期の発作治療やその後の予防治療にも力を入れて診療しています。
あわせて肺炎・急性気管支炎などの呼吸器感染症も専門治療いたします。

■外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術 （腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む。））等 手術・処置等1なし	142	7.96	9.88	0.00%	59.68	
060335xx02000x	胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等 1なし	86	5.34	6.87	1.16%	64.15	

	手術・処置等2なし 定義副傷病なし						
060020xx02xxxx	胃の悪性腫瘍 胃切除術 悪性腫瘍手術等	75	17.87	18.01	2.67%	74.13	
060035xx010x0x	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、 亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1なし 定義 副傷病なし	75	15.49	15.12	4.00%	74.85	
060010xx99x40x	食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）手術なし 手術・処置等 2-4あり 定義副傷病なし	35	10.2	8.67	0.00%	70	

外科では乳がんの手術治療の入院が最も多く、次いで胆嚢炎、胃がんの手術治療、結腸・食道がんの治療の入院が多くなっておりま
当院はがん診療連携拠点病院に指定され、特にがんの手術件数が多数を占めております。また、クリニカルパスを運用することで術後在院日数
を短縮できております。

■脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）(JCS10 未満) 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2な し 定義副傷病なし	38	23.24	19.09	63.16%	74.11	
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2な し 定義副傷病なし	34	8.38	9.88	14.71%	77.59	
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2なし 定義副 傷病なし	26	16.73	8.38	34.62%	69.12	
010040x199x0xx	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）(JCS10 以上) 手術なし 手術・処置等2なし	18	27	22.61	77.78%	77.89	
010060x2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）手 術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2-4あり 定 義副傷病なし 重症度等発症前 Rankin Scale 0、1又は2	18	20.28	15.70	38.89%	73.39	

脳神経外科では非外傷性頭蓋内血腫による入院が最も多く、次いで頭蓋・頭蓋内損傷による入院となっております。脳血管障害（脳卒中）に対
しては、手術対象となるか否かを問わず、全例で積極的に取り組んでいます。脳血管障害は、脳だけを診ていては全体像が見えず、心臓や基礎
疾患となる糖尿病・高血圧・高脂血症などをきちんと評価する必要があります。脳梗塞で入院された患者さんは循環器内科での心臓検査を受け
て頂き、不整脈や心臓の冠動脈虚血の状態を評価しています。

■産婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	116	7.58	7.89	0.00%	69.73	
120260x002xxxx	分娩の異常（分娩時出血量 2000ml 未満）骨盤位娩 出術等	53	8.13	6.73	0.00%	32.57	
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2- 4あり 定義副傷病なし	49	2.84	4.18	0.00%	63.16	
120260x099xxxx	分娩の異常（分娩時出血量 2000ml 未満）手術なし	47	7.98	4.82	0.00%	31.23	
12002xxx01x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮悪性腫瘍手術等 手術・ 処置等2なし	43	8.86	10.10	0.00%	56.3	

産婦人科では生殖器脱（子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤）に対する手術治療の入院が最も多く、次いで分娩関係、子宮頸・体部がんの治療に対する入院
が多くなっております。

■耳鼻咽喉科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
03001xxx99x60x	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 6あり 定義副傷病なし	70	2.66	7.38	0.00%	69.73	
03001xxx99x30x	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 3あり 定義副傷病なし	47	7.45	19.54	0.00%	66.89	
100020xx010xxx	甲状腺の悪性腫瘍 甲状腺悪性腫瘍手術 切除(頸部外側区域郭清を伴わないもの)等 手術・処置等 1なし	36	7.78	7.94	2.78%	60.53	
03001xxx99x0xx	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2なし	31	15.06	12.58	16.13%	67.42	
03001xxx99x2xx	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 2あり	21	28.19	27.95	0.00%	72.48	

耳鼻咽喉科では頭頸部悪性腫瘍に対する治療の入院が大多数を占め、次いで甲状腺悪性腫瘍に対する治療の入院が多くなっております。

■眼科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 重症度等片眼	284	2.16	2.54	0.00%	75.6	
020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり 重症度等片眼	40	11.38	7.81	2.50%	64.4	
020200xx9710xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等 1あり 手術・処置等 2なし	28	7.39	5.67	0.00%	66.61	
020200xx9700xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等 1なし 手術・処置等 2なし	13	6.23	5.71	0.00%	75.62	
020180xx97x0x0	糖尿病性増殖性網膜症 手術あり 手術・処置等 2なし 重症度等片眼	12	6.08	6.10	0.00%	57.92	

眼科では白内障に対する手術治療の入院が最も多く、次いで網膜剥離、黄斑、糖尿病性増殖性網膜症に対する手術治療の入院が多くなっております。

■整形外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パ ス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	160	17.61	25.50	59.38%	83.45	
070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。) 人工関節再置換術等	151	16.71	21.96	0.00%	74.77	
070343xx01x0xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。) 腰部骨盤、不安定椎 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む。) 前方椎体固定等 手術・処置等 2なし	73	16.18	19.94	1.37%	72.12	
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。) 腱縫合術等	66	8.11	13.04	0.00%	27.47	
070343xx97x0xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。) 腰部骨盤、不安定椎 その他の手術あり 手術・処置等 2なし	52	14.69	15.66	3.85%	73.33	

整形外科では大腿骨近位部骨折等の手術入院が最も多くなっております。また、平均年齢が約 84 歳と高齢の患者さんが多いことがわかります。次いで変形性膝関節症に対する人工関節置換術などの手術入院、腰部脊柱管狭窄症等に対する入院、肘・膝の外傷に対する入院となっております。

当院では、長岡および新潟県中越地区の外傷、変性疾患など整形外科疾患全般を扱っております。各医師が新潟大学で専門研究班に所属し研修を受けておりますので、出来る限り整形外科疾患の部位に応じて専門の医師が手術、治療を担当するように心掛けており治療成績の向上を図つ

ております。

■形成外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
070010xx010xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） 四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等 1 なし	12	8	5.14	0.00%	60.33	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等 1 なし	12	7.58	3.93	0.00%	50.42	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 なし	10	19.4	7.22	0.00%	81.6	
180060xx97xxxx	その他の新生物 手術あり	-	-	5.77	-	-	
070010xx970xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） その他の手術あり 手術・処置等 1 なし	-	-	4.28	-	-	

形成外科では骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く）、皮膚の良性新生物に対する入院が最も多く、次いで皮膚の悪性腫瘍に対する入院となっております。

開設は新潟県内では比較的早く、昭和 56 年にさかのぼり、形成外科で取り扱われる疾患全般にわたって診療を行っております。体表の生まれつきの変形や、外傷・熱傷・その他の変形、乳房再建、眼瞼下垂、腋臭症等も行っております。

※患者数が 10 未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 2 なし	133	6.26	6.85	0.75%	74.56	
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり	109	2.06	2.44	0.00%	71.59	
110060xx99x20x	腎盂・尿管の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 2 あり 定義副傷病なし	36	6.5	9.37	0.00%	73.22	
110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 2 あり 定義副傷病なし	34	7.94	9.06	0.00%	69.68	
11012xxx02xx0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術 定義副傷病なし	30	5.03	5.22	0.00%	62.37	

泌尿器科では膀胱がんに対する手術治療が最も多く、次いで前立腺がん、腎盂・尿管悪性腫瘍、尿管結石に対する入院となっております。

■心臓血管外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	48	3	2.61	0.00%	63.79	
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術・処置等 1 なし、1 あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	32	5.22	5.21	0.00%	75.25	
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術・処置等 2 なし	27	2.22	4.51	0.00%	70.59	

050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術・処置等 1 なし、1 あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病あり	11	6.73	9.00	0.00%	73.91	
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	-	-	7.57	-	-	

心臓血管外科では下肢静脈瘤手術の入院が最も多く、次いで閉塞性動脈疾患に対するバイパス術やカテーテル治療、慢性腎不全に対する経皮的シャント拡張術・血栓除去術の入院が多くなっております。

※患者数が 10 未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■呼吸器外科

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	92	7.16	9.89	0.00%	73.13	
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	22	7.27	9.54	0.00%	37.36	
040030xx01xxxx	呼吸器系の良性腫瘍 肺切除術 気管支形成を伴う肺切除等	-	-	8.53	-	-	
040010xx01x0xx	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍 縦隔悪性腫瘍手術等 手術・処置等 2 なし	-	-	8.84	-	-	
010010xx9903xx	脳腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2- 3 あり	-	-	17.01	-	-	

呼吸器外科では肺がんに対する手術治療の入院が最も多く、次いで気胸に対する治療の入院となっております。

当院では、肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術を行っております。呼吸器内科・呼吸器外科が呼吸器グループとして常に連携し、検討会を毎週行って医療情報を交換しつつ、確実に迅速な診断・治療を心掛けております。

※患者数が 10 未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位 5 位まで）

■内科

K コード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用 パス
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 早期悪性腫瘍胃	195	0.81	3.34	0.00%	75.59	

	粘膜下層剥離術						
K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	106	0.68	8.25	5.66%	76.7	
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	98	1.67	10.76	13.27%	76.09	
K708-3	内視鏡的膵管ステント留置術	76	1.38	4.22	0.00%	70.66	
K654	内視鏡的消化管止血術	69	1.67	11.62	10.14%	69.3	

内科では内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）が最も多く行われております。次いで内視鏡的乳頭切開術、内視鏡的胆道ステント留置術の順となっております。主に内視鏡による手術が行われております。

付属する健診センターと共に消化器がんの早期発見及び治療に力を注いでおり、食道がん、胃がん、大腸がんの内視鏡的切除などをはじめとし、症状緩和のための内視鏡を用いた各種治療も積極的に行っております。

■循環器内科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K5972	ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	34	5.79	12.44	5.88%	81.03	
K5491	経皮的冠動脈ステント留置術 急性心筋梗塞に対するもの	31	0	19.35	6.45%	72.97	
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	30	2.7	5.7	3.33%	72.27	
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術 心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの	22	2.59	4.55	0.00%	68.27	
K597-2	ペースメーカー交換術	19	1.47	11.21	5.26%	83.37	

循環器内科ではペースメーカー移植術が最も多くなっており、次いで経皮的冠動脈ステント留置術、経皮的カテーテル心筋焼灼術、ペースメーカー交換術の順となっております。

経皮的冠動脈ステント留置術等の心臓カテーテル治療は、腕や足の血管から心臓まで管を通して病変を治療する方法です。この治療は緊急で行う場合や検査と同時に進行する場合、検査から日数を空けて行う場合、検査後一旦退院してから再入院して行う場合など、患者さんの状況に合わせて治療が行われます。

■神経内科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	10	33.4	28.7	60.00%	79.5	
K340-6	内視鏡下鼻・副鼻腔手術IV型（汎副鼻腔手術）	-	-	-	-	-	
K597-3	植込型心電図記録計移植術	-	-	-	-	-	
K653-3	内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	-	-	-	-	-	
K654	内視鏡的消化管止血術	-	-	-	-	-	

神経内科では胃瘻造設術を最も多く行っており、次いで内視鏡下鼻・副鼻腔手術、植込型心電図記録計移植術、内視鏡的食道及び胃内異物摘出術、内視鏡的消化管止血術となっております。

※患者数が10未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■外科

コード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K4763	乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	99	1.09	5.25	0.00%	59.96	
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	97	1.99	3.59	2.06%	65.99	
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	92	4.52	9.83	2.17%	75.23	
K655-	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	46	2.5	11.28	2.17%	72.89	

22							
K4765	乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）・胸筋切除を併施しないもの	36	1.06	7.47	0.00%	57.44	

外科では乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩鎖骨下部郭清を伴わないもの））が最も多く行われております。次いで腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術、腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）、乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）・胸筋切除を併施しないもの）となっております。

当院はがん診療連携拠点病院に指定されており、特にがんの手術件数が増加しております。

■脳神経外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	30	0.27	7.37	16.67%	75.6	
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	10	7.3	43.7	40.00%	68.9	
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング 1箇所	-	-	-	-	-	
K164-5	内視鏡下脳内血腫除去術	-	-	-	-	-	
K654	内視鏡的消化管止血術	-	-	-	-	-	

脳神経外科では慢性硬膜下血腫に対する洗浄除去術が最も多くなっております。こちらの手術につきましては、小さな穿頭で硬膜下に溜まった血腫を吸引し、洗浄除去する手術です。平均年齢が約76歳と高くなっており、高齢の患者さんが多いことがわかります。

※患者数が10未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■産婦人科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	116	7.58	7.89	0.00%	69.73	
120260x002xxxx	分娩の異常（分娩時出血量 2000ml 未満）骨盤位娩出術等	53	8.13	6.73	0.00%	32.57	
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2-4あり 定義副傷病なし	49	2.84	4.18	0.00%	63.16	
120260x099xxxx	分娩の異常（分娩時出血量 2000ml 未満）手術なし	47	7.98	4.82	0.00%	31.23	
12002xxx01x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮悪性腫瘍手術等 手術・処置等 2なし	43	8.86	10.10	0.00%	56.3	

産婦人科では性器脱（子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤）に対する手術治療の入院が最も多く、次いで分娩関係、子宮頸・体部がんの治療に対する入院が多くなっております。

■耳鼻咽喉科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
03001xxx99x60x	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2-6あり 定義副傷病なし	70	2.66	7.38	0.00%	69.73	
03001xxx99x30x	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2-3あり 定義副傷病なし	47	7.45	19.54	0.00%	66.89	
100020xx010xxx	甲状腺の悪性腫瘍 甲状腺悪性腫瘍手術 切除（頸部外側区域郭清を伴わないもの）等 手術・処置等 1なし	36	7.78	7.94	2.78%	60.53	
03001xxx99x0xx	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2なし	31	15.06	12.58	16.13%	67.42	

03001xxx99x2xx	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 2あり	21	28.19	27.95	0.00%	72.48	
----------------	-----------------------------	----	-------	-------	-------	-------	--

耳鼻咽喉科では頭頸部悪性腫瘍に対する治療の入院が大多数を占め、次いで甲状腺悪性腫瘍に対する治療の入院が多くなっておりま

■眼科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 重症度等片眼	284	2.16	2.54	0.00%	75.6	
020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり 重症度等片眼	40	11.38	7.81	2.50%	64.4	
020200xx9710xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等 1あり 手術・処置等 2なし	28	7.39	5.67	0.00%	66.61	
020200xx9700xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等 1なし 手術・処置等 2なし	13	6.23	5.71	0.00%	75.62	
020180xx97x0x0	糖尿病性増殖性網膜症 手術あり 手術・処置等 2なし 重症度等片眼	12	6.08	6.10	0.00%	57.92	

眼科では白内障に対する手術治療の入院が最も多く、次いで網膜剥離、黄斑、糖尿病性増殖性網膜症に対する手術治療の入院が多くなっておりま

■整形外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	160	17.61	25.50	59.38%	83.45	
070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む。） 人工関節再置換術等	151	16.71	21.96	0.00%	74.77	
070343xx01x0xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 前方椎体固定等 手術・処置等 2なし	73	16.18	19.94	1.37%	72.12	
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。） 腱縫合術等	66	8.11	13.04	0.00%	27.47	
070343xx97x0xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 その他の手術あり 手術・処置等 2なし	52	14.69	15.66	3.85%	73.33	

整形外科では大腿骨近位部骨折等の手術入院が最も多くなっておりま

また、平均年齢が約 84 歳と高齢の患者さんが多いことがわかります。次いで変形性膝関節症に対する人工関節置換術などの手術入院、腰部脊柱管狭窄症等に対する入院、肘・膝の外傷に対する入院となっております。当院では、長岡および新潟県中越地区の外傷、変性疾患など整形外科疾患全般を扱っております。各医師が新潟大学で専門研究班に所属し研修を受けておりますので、出来る限り整形外科疾患の部位に応じて専門の医師が手術、治療を担当するように心掛けており治療成績の向上を図っております。

■形成外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
070010xx010xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） 四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等 1なし	12	8	5.14	0.00%	60.33	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等 1なし	12	7.58	3.93	0.00%	50.42	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2なし	10	19.4	7.22	0.00%	81.6	
180060xx97xxxx	その他の新生物 手術あり	-	-	5.77	-	-	
070010xx970xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） その他の手術	-	-	4.28	-	-	

	あり 手術・処置等 1 なし						
--	----------------	--	--	--	--	--	--

形成外科では骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く）、皮膚の良性新生物に対する入院が最も多く、次いで皮膚の悪性腫瘍に対する入院となっております。

開設は新潟県内では比較的早く、昭和 56 年にさかのぼり、形成外科で取り扱われる疾患全般にわたって診療を行っております。体表の生まれつきの変形や、外傷・熱傷・その他の変形、乳房再建、眼瞼下垂、腋臭症等も行っております。

※患者数が 10 未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 2 なし	133	6.26	6.85	0.75%	74.56	
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり	109	2.06	2.44	0.00%	71.59	
110060xx99x20x	腎盂・尿管の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 2 あり 定義副傷病なし	36	6.5	9.37	0.00%	73.22	
110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 2 あり 定義副傷病なし	34	7.94	9.06	0.00%	69.68	
11012xxx02xx0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術 定義副傷病なし	30	5.03	5.22	0.00%	62.37	

泌尿器科では膀胱がんに対する手術治療が最も多く、次いで前立腺がん、腎盂・尿管悪性腫瘍、尿管結石に対する入院となっております。

■心臓血管外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	48	3	2.61	0.00%	63.79	
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術・処置等 1 なし、1 あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	32	5.22	5.21	0.00%	75.25	
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術・処置等 2 なし	27	2.22	4.51	0.00%	70.59	
050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術・処置等 1 なし、1 あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病あり	11	6.73	9.00	0.00%	73.91	
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	-	-	7.57	-	-	

心臓血管外科では下肢静脈瘤手術の入院が最も多く、次いで閉塞性動脈疾患に対するバイパス術やカテーテル治療、慢性腎不全に対する経皮的シャント拡張術・血栓除去術の入院が多くなっております。

※患者数が 10 未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

■呼吸器外科

Ｋコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	92	7.16	9.89	0.00%	73.13	
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	22	7.27	9.54	0.00%	37.36	

	し						
040030xx01xxxx	呼吸器系の良性腫瘍 肺切除術 気管支形成を伴う肺切除等	-	-	8.53	-	-	
040010xx01x0xx	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍 縦隔悪性腫瘍手術等 手術・処置等 2 なし	-	-	8.84	-	-	
010010xx9903xx	脳腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2- 3 あり	-	-	17.01	-	-	

呼吸器外科では肺がんに対する手術治療の入院が最も多く、次いで気胸に対する治療の入院となっております。

当院では、肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術を行っております。呼吸器内科・呼吸器外科が呼吸器グループとして常に連携し、検討会を毎週行って医療情報を交換しつつ、確実に迅速な診断・治療を心掛けております。

※患者数が 10 未満の項目については(-)ハイフンにて表示しております。

消化器内科

副院長 高村 昌昭

消化器内科は、富所隆病院長(令和元年～三年)、高村(令和四年～)以下、7～9名体制で診療を行いました。

令和五年度からは、消化器当番が長岡赤十字病院との2輪番体制となっておりますが、従来通り、外来は平日3診体制で行いました。

消化管疾患については平日上部内視鏡3室、下部内視鏡2室、胆膵疾患については週2回胆膵内視鏡1室がフル稼働し、内視鏡検査だけでなく治療内視鏡も数多く行いました。

肝疾患についても、原因不明の肝機能障害等の紹介が増加し、肝生検が増加しました。また多くの薬剤が登場している肝細胞癌ですが、集学的治療の一環としてのラジオ波焼灼療法や肝動脈化学塞栓療法は減少することなく行われていました。

これからもより安全で質の高い検査・治療を提供できるよう努めていく所存です。検査および治療件数の詳細は表をご参照ください。

検査および治療件数の詳細は表をご参照下さい。

主な検査・治療件数推移（5年間）

	2019	2020	2021	2022	2023	
上部内視鏡	8,978	8,723	9,139	8,926	8,972	
食道ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	31	34	24	36	31	
胃ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	147	159	181	205	205	
食道ステント留置術	5	5	4	4	6	
胃・十二指腸ステント留置術	14	9	23	17	17	
食道静脈瘤治療	13	28	45	39	26	
PEG（内視鏡的胃瘻造設術）	14	17	25	27	22	
LECS（胆膵鏡・内視鏡合同手術）	1	4	0	1	3	
下部内視鏡	3,354	3,165	3,245	3,125	3,152	
ポリペクトミー	560	683	744	859	778	
EMR（内視鏡的粘膜切除術）	626	543	602	499	543	
ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	45	56	52	54	61	
大腸ステント留置術	25	31	18	25	35	
小腸内視鏡	28	32	36	46	57	
ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）	379	406	388	456	441	
EUS（超音波内視鏡）	220	253	218	262	250	
EUS-FNA（穿刺吸引法）	95	130	103	131	113	
EUS-BD（胆管ドレナージ）	8	9	10	14	11	
EUS-CD（膵膵ドレナージ）	2	6	6	3	10	
PTGBD/PTCD（経皮経肝膵管/胆管ドレナージ術）	45	36	67	72	73	
肝検査・治療	エコー下肝生検	13	9	12	27	28
	TACE（肝動脈化学塞栓療法）	59	42	50	36	45
	RFA（ラジオ波焼灼術）	2	4	9	3	6
その他	経血管的治療	14	10	10	16	11
	経皮的治療	20	19	21	14	27

呼吸器内科の診療状況

長岡中央総合病院の呼吸器内科は、呼吸器内科の医師（常勤 5 名、出張医 1-2 名）と、外来 1 ブロックおよび 5 階西病棟を中心とした看護師、クラーク、看護助手、医療事務など他職種に渡るスタッフで活動しています。

診療の状況を最近 5 年程度のデータを基に解説します。

1.入院診療

病院ですので、病床を持ち、入院患者さんを診療することが、我々の最大の業務です。現在は、在院日数がかかなり短くなってきています。病院というのは、生活の場ではなく、あくまで、病気を治す場所で一時的に過ごしてもらう場所なので、1 日も早く、生活の場に復帰してもらうために、努力しています。しかし、退院先が決まらず、なかなか退院できないという患者さんがおられるのも事実です。

呼吸器内科の入院患者さんの疾患は多彩です。肺癌に関しては、検診発見に左右されますので、コロナ禍の影響は大きいと思われれます。外来化学療法への移行や内服の抗癌剤が増加してきていることなどから、コロナ禍以前の状況にはならないと考えています。誤嚥性肺炎などの感染症については、COVID-19 と同時に細菌性肺炎を合併する患者さんなども多く、特にご高齢の患者さんに多く認められます。間質性肺炎はコロナ禍でも減ることなく、逆に増加しているのは、新型コロナウイルスが肺胞上皮に感染し増殖することが、何らかの影響をしているのかもしれない。間質性肺炎の急性増悪の数も増えているような印象があります。COVID-19 については、5 類相当となってからは、隔離入院の必要がなくなりましたので、それ自体では減少しておりますが、他の合併症などでの入院は、まだまだ見られます。また、様々な疾患により、低酸素血症をきたす慢性呼吸不全になってしまった患者さんについては、呼吸リハビリテーションを行ったり、在宅酸素療法を導入したりするための入院も目立ちます。表には、挙げてありませんが、コロナ禍の中で中止していた睡眠ポリグラフ検査という睡眠時無呼吸症候群の検査で、一泊入院で行う検査も令和 5 年から再開しました。

表1 入院患者数

	入院総数	内訳			
		肺癌	肺炎	間質性肺炎	COVID-19
令和元年	921	489	376	56	0
2年	928	502	261	73	92
3年	746	387	220	73	66
4年	670	349	212	90	19
5年	728	336	257	82	53

2019年（令和元年）12月に発生したCOVID-19は、病院の受診ひかえから、外来患者さんの激減を招き、ひいては入院患者の減少に大きな影響を与えました。令和3年から令和5年は、令和2年に比べて、約3/4になっています。

2. 外来診療

外来患者数は、減少しています。状態の落ち着いている患者さんは、地域のかかりつけ医を決めてもらい、全人的に健康管理していただくように、ご紹介しています。もちろん、病院でなければ、診療できない患者さんや、病院で管理することが望ましい疾患の患者さんは、引き続き、病院に通っていただいています。

表2 外来患者数

	外来患者総数	新患患者数	紹介患者数
令和元年	19626	876	826
2年	15047	668	792
3年	13642	573	843
4年	13484	580	931
5年	13982	686	870

令和元年頃に比べると、令和3年から4年の外来患者数は、3割ほど減少しています。新患患者さんについては、紹介状を持たずに初診すると医療費とは別の選定療養費という費用を負担していただいています。そのため、新患の患者さんは、ほとんど紹介状を持参されるようになり、さらにその数は減少しています。当院からご紹介した患者さんの病状の変化にあわせて、再びご紹介いただく患者さんは増加しています。病診連携の良い運用がなされているものと考えられます。

3. 検査

呼吸器内科の検査としては、画像検査と検体検査、生理検査、内視鏡検査などが挙げられます。

画像検査は、最も重要で、胸部単純レントゲン撮影が最も多く行われます。これは、放射線被曝量も少なく、日常的に行われる検査となっています。次に重要な検査は胸部 CT です。肺を輪切りにするような撮影の仕方をする検査です。こちらは、被曝量が多くなっています。肺は、基本的に造影剤を用いなくても病変がわかりやすい臓器ですので、単純撮影を行うことが多くなっています。検体検査は、血液検査や喀痰培養、喀痰細胞診などの検査です。診察前に行わせていただくことも多いです。肺炎の際には、喀痰培養で原因菌を探ることが重要です。

生理検査では、呼吸機能検査といって、肺活量や気管支の空気の通りやすさ、通りにくさを調べる検査を行います。また、睡眠時無呼吸症候群の検査として、患者さんの自宅で行う簡易的なアプノモニターという検査や、一泊入院で行う睡眠ポリグラフ検査も行います。内視鏡検査は、気管支鏡といいます。肺の一部を生検して、組織を調べます。肺癌の確定診断をします。また、間質性肺炎の活動性などを調べるために、肺の中を洗ってくる気管支肺胞洗浄 (BAL : バル) という検査も行います。気管支鏡を用いた治療的な手技として、気管・気管支ステントをいう針金で編んだ筒を挿入して、癌などで狭くなった気管・気管支を広げることを行います。気管や気管支の内腔にポリープ状に突出した腫瘍を高周波スネアという器具を用いて切除することもあります。

表 3 気管支鏡件数

	件数
令和元年	284
2年	226
3年	169
4年	195
5年	176

気管支鏡は、肺癌の確定診断のための生検や細胞診を行うのが主体です。コロナ禍のため、検診受診者が減り、検診異常も減少したので、気管支鏡の件数も減少しています。

4. 外来化学療法

肺癌の治療として、抗癌剤を用いた化学療法を行います。化学療法は、従来、入院で行うことも多かったのですが、現在は入院すると、面会制限があるので、ご家族と会う機会が減ってしまいます。ですので、私たちは、安全性を確保した上で、できるだけ日常生活を今まで通り行いながら治療を続けるという方針で、可能な患者さんは、外来で化学療法を行うことにしています。

表4 外来化学療法件数

	件数
令和元年	1280
2年	1387
3年	1205
4年	1119
5年	991

外来化学療法も減少していますが、入院数などと比べると、その減り方は少ないです。また、ここにある外来化学療法は、点滴で行うものなので、最近、数が増えてきている内服の抗がん剤は、含んでいません。

5. 酸素療法

呼吸不全の際の酸素療法として、ハイフローセラピー（HFNC）という方法が普及してきました。鼻カニューレから、1分間に40-60Lの空気を流し、吸入酸素濃度をほぼ100%にすることが出来るようになりました。現在は、入院患者さんしか行っていませんが、酸素濃度と流量の制限はあるものの、在宅での使用も可能になってきました。自発呼吸を活かしながら、これだけの酸素を吸入することが出来て、話もしやすく、経口摂取も可能です。気管内挿管、人工呼吸器を回避する確率はNPPVと同等という報告もあります。呼吸不全の終末期にも、高濃度の酸素を吸入できて、苦痛緩和にも役立っています。

表5 ハイフローセラピー件数

	HFNC (ハイフローセラピー)
令和元年	335
2年	201
3年	199
4年	318
5年	396

ハイフローセラピーの件数は、コロナ禍の影響は多少ありますが、実数として、増加しています。今後も増加が見込まれます。

循環器内科

循環器内科 副院長 中村 裕一

当院の循環器内科診療実績及び論文発表実績は以下の通りとなります。

1. 診療実績

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
年間入院患者数	554	621	589	570	596
CCU(ICU、HCU)入院患者数 (ICU、HCUの場合は循環器患者に限る)	113	134	129	130	151
平均入院日数	16.4	14.1	14	14.5	15.4
急性心筋梗塞患者数	78	66	60	64	70
心不全入院患者数	229	196	187	200	199
検査件数					
心電図					
トレッドミル負荷試験	83	59	50	35	29
ホルター心電図	719	644	674	615	552
心エコー					
経胸壁心エコー	5137	4941	4863	4657	4942
経食道心エコー	36	48	30	5	5
心カテ					
冠動脈造影検査	129	132	112	118	103
冠血流予備量比(FFR)測定	16	11	5	9	5
左心室造影	101	94	87	82	65
大動脈造影	10	5	5	4	2
E P S (電気生理学的検査)	2	4	0	2	1
核医学検査					
安静時心筋血流シンチ	14	14	13	16	0
薬物負荷心筋血流シンチ	409	336	302	240	143
肺血流シンチ	3	3	5	6	1
CT					
冠動脈CT	152	301	280	278	318
大血管CT	26	17	15	18	6

心臓MRI	4	21	16	20	33
ABPI					
ABI 検査	1141	1163	1078	780	675
治療件数					
緊急PCI	63	67	51	63	61
待機的PCI	61	54	60	61	54
POBA	12	19	9	4	3
ステント(BMS)留置	0	0	0	4	0
DES(薬物溶出性ステント)留置	104	101	92	106	102
AMI(急性心筋梗塞)患者に対する緊急PCI	48	55	44	52	56
下大静脈フィルター挿入件数	5	6	3	0	1
補助循環					
IABP	14	20	5	9	11
PCPS	4	4	1	1	1
不整脈治療					
ペースメーカー植え込み件数(新規)	29	48	42	35	27
カテーテルアブレーション	33	38	32	29	43
心大血管リハビリテーション					
新規患者数	10	10	30	110	96
(うち慢性心不全に対して)	4	4	27	17	25
心大血管疾患リハビリテーション実施件数; 年間延べ件数	199	199	337	1521	1821
(うち外来での)年間延べ件数	103	103	48	110	102

2. 論文、学会発表

論文

1) Asymptomatic Coronary Artery Disease in Japanese Patients with the First Acute Ischemic Stroke

Minoru Tagawa¹⁾, Shigekazu Takeuchi²⁾, Yuiichi Nakamura¹⁾, Makihiko Saeki¹⁾, Yoshinori Taniguchi²⁾, Tsukasa Ohno³⁾, Hiroyuki Watanabe³⁾, Yukie Ochiai¹⁾, Kiminori Kato⁴⁾, Masaomi Chinushi⁵⁾, and Yoshifusa Aizawa⁶⁾

Department of Cardiology¹⁾, Department of Neurosurgery²⁾ and Department of Neurology³⁾, Nagaoka Chuo General Hospital

⁴⁾ Department of Laboratory Medicine and Clinical Epidemiology for Prevention of Noncommunicable Diseases, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University

⁵⁾ Graduate School of Health Science, Niigata University School of Medicine

⁶⁾ Department of Cardiology, Tachikawa Medical Center

Journal of Stroke and Cerebrovascular Disease. 2019; 28: 612-618.

2) Successful Treatment of Acute Fulminant Eosinophilic Myocarditis in a Patient

with Ulcerative Colitis Using Steroid Therapy and Percutaneous Cardiopulmonary Support.

Minoru Tagawaa, Yuiichi Nakamura, Yuji Okurab, Hitomi Nanbaa, Kenji Kishic, Eri na Akashia, Yuki e Ochiaia, Yasuhiro Asaid, Masaomi Chinushi

- a) Department of Cardiology, Nagaoka Chuo General Hospital
- b) Department of Cardiology, Niigata Cancer Center Hospital
- c) Department of Hematology, Nagaoka Chuo General Hospital
- d) Yuzawa Community Medical Center
- e) Graduate School of Health Science, Niigata University School of Medicine, Niigata, Japan.

Intern Medicine 2019; 58: 1111-1118.

3) Sustained ventricular tachycardia developed following successful ablation of target idiopathic left ventricular premature complexes.

Minoru Tagawaa), Yuki e Ochiaia), Yuiichi Nakamura), Masaomi Chinushi b)

- a) Department of Cardiology, Nagaoka Chuo General Hospital, b) School of Health Science, Niigata University School of Medicine

Int J Cardiol. 2016 Aug4; 222: 686-688.

4) Secondly ECG recordings in the emergency room revealed Garenoxacin-induced abnormal QT interval prolongation in a patient with multiple syncopal attacks.

Minoru Tagawaa), Yuki e Ochiaia), Yuiichi Nakamura), Akinori Satob), Masaomi Chimushic)

- a) Department of Cardiology, Nagaoka Chuo General Hospital, b) Department of Cardiovascular Biology and Medicine, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, and c) School of Health Science, Niigata University School of Medicine

Heart Vessels. 2016 Jul ;31(7):1200-5.

5) P-wave indices in Japanese patients with ischemic stroke: Implication of atrial myopathy in subtype of ischemic stroke.

Yamamoto Sa), Oho Hb) , Motoyama Hb) , Tachikawa Hc) , Tagawa Md) , Akazawa Ke) , Aizawa Yf)

- a) Department of Cardiology, b) Department of Neurosurgery , and c) Department of Neurology, Yu-Yu Kenko-mura Hospital, d) Department of Cardiology, Nagaoka Chuo General Hospital, e) Department of Medical Informatics, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, and f) Department of Research and Development, Tachikawa Medical Center.

J Electrocardiol. 2021; 66: 18-22.

学会発表

2021年

1) Complete atrioventricular block and sinus node dysfunction in patients with microscopic polyarthritis.

Takumi Akiyama1), Minoru Tagawa1), Yuiichi Nakamura1), Masahiro Yokosawa2), Yoshiro Endo3), Notoo Watanabe4), Yuki e Ochiai 1), Masaomi Chinushi 5)

Department of Cardiology1), Internal medicine2), Respiratory medicine3), Nephrology4), Nagaoka Chuo General Hospital

5) Department of Cardiovascular Medicine, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

The 67th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society

1-4, July, 2021 Web開催

2) 心室頻拍の治療に苦慮した心臓サルコイドーシスの1例

末森理美¹⁾、田川実¹⁾、松尾佑治¹⁾、落合幸江¹⁾、中村裕一¹⁾、矢崎善一²⁾、池主雅臣³⁾

- 1) 長岡中央総合病院 循環器内科
 - 2) 佐久総合病院 佐久医療センター 循環器内科
 - 3) 新潟大学 医学部保健学科
- 第 148 回日本内科学会 信越地方会 2021 年 6 月 5 日

5) 心房粗動を契機に心不全を認め、左房内血栓と心不全の治療に苦慮した心臓アミロイドーシスの 1 例

桜沢有¹⁾、田川実¹⁾、松尾佑治¹⁾、落合幸江¹⁾、中村裕一¹⁾、加藤修明²⁾、池主雅臣³⁾

- 1)長岡中央総合病院循環器内科
 - 2)信州大学医学部第三内科
 - 3)新潟大学医学部保健学科
- 第 148 回日本内科学会 信越地方会 2021 年 6 月 5 日 長野

6) 繰り返す静脈血栓症から診断に至った抗リン脂質抗体症候群の 1 例

吉田耕太郎¹⁾、田川実¹⁾、松尾佑治¹⁾、落合幸江¹⁾、横澤将宏²⁾、中村裕一¹⁾

- 1)長岡中央総合病院循環器内科
 - 2)同 総合診療内科
- 第 148 回日本内科学会 信越地方会 2021 年 6 月 5 日

2022 年

1) ステロイド治療に先行して、僧帽弁閉鎖不全症に対して弁置換を施行した心サルコイドーシスの 2 例

田川 実¹⁾、秋山琢洋²⁾、落合幸江¹⁾、山本和男³⁾、吉井新平³⁾、中村裕一¹⁾、矢崎善一⁴⁾

- 1) 長岡中央総合病院 循環器内科
 - 2) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 循環器内科学
 - 3) 立川総合病院 心臓血管外科
 - 4) 佐久総合病院 佐久医療センター 循環器内科
- 第 42 回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会
2022 年 10 月 7 日～8 日 軽井沢

2) 肺癌に対する放射線治療後に心房頻拍の頻発を認めた 1 例

田川 実¹⁾、仲尾政晃¹⁾、内田純也¹⁾、田中研介²⁾、林 芳樹³⁾、落合幸江¹⁾、中村裕一¹⁾、池主雅臣⁴⁾

- 1) 長岡中央総合病院 循環内科
 - 2) 同 放射線治療科
 - 3) 同 呼吸器内科
 - 4) 新潟大学医学部 保健学科
- 第 33 回カテーテルアブレーション関連秋季大会
2022 年 11 月 24 日～26 日 新潟

2023 年

1) Recurrence of ventricular fibrillation in a patient genetically diagnosed with both long QT syndrome and dilated cardiomyopathy.

Minoru Tagawa¹⁾, Yuichi Nakamura¹⁾, Mayumi Kase²⁾, Noriyasu Iwasaki¹⁾, Yukie Ochiai¹⁾, Yukio Hosaka³⁾, Seiko Ohno⁴⁾, Masaomi Chinushi⁵⁾.

- 1) Department of Cardiology, Nagaoka Chuo General Hospital
- 2) Department of Cardiovascular Medicine, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences.
- 3) Department of Cardiology, Niigata City General Hospital
- 4) Department of Bioscience and Genetics, National Cerebral and Cardiovascular Center
- 5) Graduate School of Health Science, Niigata University School of Medicine

The 69th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society
6-9, July, 2023 札幌

2024

1) Appropriate implantable cardioverter defibrillator shocks 17 years after implantation in a patient with Brugada ECG patient with triple extra-stimuli-induced ventricular fibrillation

Minoru Tagawa¹⁾, Yuichi Nakamura¹⁾, Hironori Furuse¹⁾, Masaomi Chinushi²⁾.

1) Department of Cardiology, Nagaoka Chuo General Hospital

2) Graduate School of Health Science, Niigata University School of Medicine

The 70th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society

18-20, July, 2024 金沢

2) 心室内血栓を含めた全身の多発血栓症を生じ、プロテイン C 欠乏症を認めたうつ血性心不全の 1 例

長岡中央総合病院 田川 実、古瀬博規、中村裕一

第 273 回日本循環器学会関東甲信越地方会 2024 年 9 月 7 日 東京

3) Recurrence of ventricular fibrillation in a patient, accompanied by intermittent J wave manifestation during bradycardia.

Minoru Tagawaa, Takumi Narusea, Yuichi Nakamuraaa, Kouichi Fuse, Yuuji Tayab, Seiko Ohnoc, Masaomi Chinushid,

a) Department of Cardiology, Nagaoka Chuo General Hospital

b) Department of Cardiology, Tachikawa Medical center

c) National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute

d) Graduate School of Health Science, Niigata University School of Medicine

The 18th APHRS Scientific session, 26-29 September 2024, Sydney, Australia.

4) 通常型房室結節リエントリー性頻拍に対するカテーテルアブレーション後に。Long RP' tachycardia が頻発した 1 例

田川 実¹⁾、中村裕一¹⁾、池主雅臣²⁾

1) 長岡中央総合病院

2) 新潟医学医学部保健学科

第 35 回カテーテルアブレーション関連秋季大会

2024 年 10 月 10 日～12 日 大阪

腎臓内科

【患者数】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来患者数	7,032	6,344	6,299	6,056	5,631
入院患者数	6,411	5,398	6,476	6,124	4,954

【年度毎症例数】

・令和元年度

診断群分類	名称	件数
110280xx99000x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	55
110280xx99020x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2-2あり 定義副傷病名なし	26
110280xx991x0x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1あり 定義副傷病名なし	16
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	12
110280xx02x1xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術処置等2-1あり	12

・令和2年度

診断群分類	名称	件数
110280xx9900xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし	60
110280xx9902xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2-2あり	24
180040xx97x0xx	手術・処置等の合併症 手術あり 手術処置等2なし	14
050130xx9900xx	心不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし	13
110260xx99x0xx	ネフローゼ症候群 手術なし 手術処置等2なし	12

・令和3年度

診断群分類	名称	件数
110280xx9900xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし	63
110280xx9902xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2-2あり	29
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	20
050130xx9900xx	心不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし	14
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	13

・令和4年度

診断群分類	名称	件数
110280xx9900xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし	60
110280xx991xxx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1あり	18
110280xx9902xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2～2あり	15
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	14
040081xx99x0xx	肺炎性肺炎 手術なし 手術処置等2なし	12

令和5年度

診断群分類	名称	件数
110280xx9900xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし	40
050130xx9900x0	心不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし 他の病院・診療所の病棟からの転院以外	26
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	21
110280xx9901xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2～1あり	15
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	8

糖尿病センター

センター長 八幡和明

糖尿病センターはセンター長（八幡）と大学からの出張医（二名）の3人体制で、外来は連日2診体制で診察を行い、一日100人以上の患者さんの診療を行っている。また多くのクリニックの先生方からご紹介いただいた患者さんをできるだけ迅速な検査などを通して適切な治療方法の導入を行うようにしている。近年はIoTによるデバイスの進歩によって24時間の血糖変動を可視化することによってインスリンやGLP1受容体作動薬などの新しい薬剤の導入や人工知能をもったポンプ治療なども比較的簡単に外来で導入できるようになった。

そのほか外来や救急外来などでの高血糖緊急症例では1型糖尿病の急性発症や膵がんの発症などによる高血糖も多く経験する。近年は抗がん剤としての免疫チェックポイント阻害薬によるirAEとしての劇症1型糖尿病や副腎不全などの内分泌症例が増加してきている。複数の診療科で連携しながら適切な診療が行えるように努めている。

また各診療科に入院している大勢の糖尿病患者さんの周術期管理でのインスリン調整なども行い、安全に手術できるように心がけている。各年度での入院患者資料は下記をご参照下さい。

糖尿病内科 入院主病名

令和元年度

1 糖尿病	113人
2 誤嚥性肺炎	6人
3 脱水症	3人
4 ACTH単独欠損症	2人
4 低ナトリウム血症	2人
4 水疱性類天疱瘡	2人
4 中枢性尿崩症	2人

令和2年度

1 糖尿病	97人
2 尿路感染症	7人
3 肺癌	4人
4 低血糖昏迷	3人
4 特発性拡張型心筋症	3人
6 アテローム血栓性脳梗塞	2人
6 急性腎盂腎炎	2人

令和3年度

1 糖尿病	70人
2 誤嚥性肺炎	7人
3 急性腎盂腎炎	4人
4 細菌性肺炎	3人
5 クッシング症候群	2人
5 尿路感染症	2人
7 インスリン低血糖	1人

令和4年度

1 糖尿病	103人
2 誤嚥性肺炎	9人
3 低ナトリウム血症	7人
3 尿路感染症	7人
5 COVID-19	6人
6 副腎腫瘍	4人
7 急性腎盂腎炎	3人

令和5年度

1 糖尿病	145人
2 低ナトリウム血症	12人
3 誤嚥性肺炎	11人
4 急性腎盂腎炎	6人
5 脱水症	5人
6 尿路感染症	3人
6 細菌性肺炎	3人

血液内科

血液内科部長 坪井 康介

令和元年度～3年度は岸賢治、坪井康介、武藤祥宏（総合診療科兼務）の3人体制、そして令和4年度～5年度は坪井、武藤の2人体制で診療を行いました。

外来は血液疾患全般、入院は移植医療を除く血液疾患全般の治療を行いました。

令和元年度～5年度の新患者数を表1に示しますが、年間急性白血病は10例程度、慢性骨髄性白血病は5例程度、骨髄異形成症候群は20例程度、多発性骨髄腫は15例程度です。悪性リンパ腫は増加傾向にあり、令和3年度は年間90例程度まで増えました。当院は他の疾患に比べ、悪性リンパ腫の症例数が非常に多い傾向が続いています。

また入院患者数は令和2年度もつとも増加していましたが、以後コロナ禍で少し減少しています。以前は血液疾患の抗癌剤治療は長期入院を必要としていましたが、近年急性骨髄性白血病の一部の患者においては短期入院でも可能な治療法が確立したり、支持療法が充実したりしたおかげで、長期入院を回避できるようになりました。

表2に示した通り、悪性リンパ腫の多くは初回治療を短期入院で行っており、その影響で平均入院日数は年々短縮傾向となりました。一方で急性リンパ性白血病などはまだ半年以上の長期入院を必要とする疾患もあります。

今後も中越地域の血液疾患患者に対して、最新・最善を尽くした治療を進めていきたいと考えています。

◆1.令和元年度～5年度血液内科新病名数 (表1)

病名	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
悪性リンパ腫	59	70	87	50	75
急性白血病	9	11	10	14	13
慢性骨髄性白血病	4	6	5	4	3
多発性骨髄腫	6	4	4	4	2
骨髄異形成症候群	14	19	22	19	17
多発性骨髄腫	19	18	16	11	15

◆2.令和元年度～5年度血液内科入院患者数 (表2)

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
総入院数	235	271	261	200	236
平均入院日数	21.5	19.3	17.3	17.2	15.8

ICD10コード	令和1年			令和2年			令和3年			令和4年			令和5年		
	入院例数	転院(外来)入院例数	短期入院率	入院例数	転院(外来)入院例数	短期入院率	入院例数	転院(外来)入院例数	短期入院率	入院例数	転院(外来)入院例数	短期入院率	入院例数	転院(外来)入院例数	短期入院率
悪性リンパ腫	133	85	63.9%	150	85	56.3%	170	124	72.9%	136	94	69.1%	102	112	73.7%
急性白血病	12	0	0.0%	17	0	0.0%	24	4	16.7%	13	2	15.4%	20	10	50.0%
血液疾患(その他)	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
血小小板減少症	0	2	33.3%	0	2	40.0%	3	0	0.0%	7	0	0.0%	0	2	40.0%
血毒症	2	2	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	1	100.0%
骨髄異形成症候群	7	0	0.0%	19	11	57.9%	14	7	50.0%	11	1	9.1%	15	8	53.3%
骨髄腫	10	4	40.0%	20	1	5.0%	25	5	20.0%	18	7	38.9%	27	8	29.6%
骨髄腫(多発性)	8	5	62.5%	2	0	0.0%	2	2	100.0%	5	0	0.0%	5	2	40.0%
真性多血症	4	3	75.0%	0	0	0.0%	2	0	0.0%	4	0	0.0%	3	1	33.3%
原虫(その他)	3	3	100.0%	7	2	28.6%	3	3	100.0%	3	2	66.7%	0	0	0.0%
特発性血小板減少症候群	5	3	60.0%	7	2	28.6%	1	0	0.0%	3	0	0.0%	7	2	28.6%
敗血症	10	1	10.0%	9	0	0.0%	4	2	50.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
造血器疾患(その他)	1	0	0.0%	2	2	100.0%	3	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%

腫瘍内科

腫瘍内科部長 小林 由夏

<スタッフ>

小林 由夏 腫瘍内科部長（平成4年 富山大学医学部卒業）

日本内科学会認定総合内科専門医

日本消化器病学会専門医・指導医

日本消化器内視鏡学会専門医

日本肝臓学会専門医・指導医

日本癌治療認定医機構がん治療認定医

薬物療法専門医・指導医

外池 祐子 腫瘍内科医長（平成17年 新潟大学卒業）

日本内科学会認定内科医

日本消化器病学会専門医

日本癌治療認定医機構がん治療認定医

薬物療法専門医・指導医

<業務内容>

曜日	午前	午後
月	通常外来（小林）	緩和（外池）
火	通常外来（小林）	ゲノム外来（小林）
水	通常外来（外池）	
木	通常外来（小林）	緩和（外池） 外来カンファレンス
金	通常外来（外池）	病棟カンファレンス

入院患者数（実患者数）

令和1	令和2	令和3	令和4	令和5	合計
444	486	393	367	297	1987

主な疾患名

	令和 1	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	合計
大腸癌	156	181	94	83	50	564
胃癌	126	120	95	107	67	515
膵癌	35	51	44	30	24	184
食道癌	10	11	22	49	39	131
胆管癌	9	2	5	14	40	70
乳癌	5	12	4	5	0	26
肝癌	5	9	11	2	5	32
原発不明がん	2	1	7	5	8	23

選択性でしたが多くの研修医の先生にローテーションしていただき、研修期間内に症例のまとめや発表を行ってもらっています。その後の進路によっては消化器病学会、癌治療学会などに発表してもらっています。

<学会発表>

- ・ VEGF 阻害薬使用例における蛋白尿の検討

○小林由夏

第 58 回日本癌治療学会・一般講演

2020 年 10 月 22-24 日、国立京都国際会館

- ・ 薬剤性心筋症の管理にバイオマーカーは有用である

○小林由夏

第 18 回日本臨床腫瘍学会・ポスターセッション

2021 年年 2 月 18-20 日、web 開催

- ・ 大腸がんサルベージライン治療の課題

○小林由夏

第 59 回癌治療学会・ポスターセッション

2021 年 10 月 21 日、横浜市

- ・ 消化器科女性医師の多様性とそのキャリアプラン実現に向けた環境作り

○座長；小林由夏

第 18 回日本臨床腫瘍学会会員委員会・キャリアエンパワーメント委員会合同企画 パネルディスカッション

2021 年年 2 月 18-20 日、web 開催

・医療従事者のキャリア形成における問題点と学会の役割

○パネラー；小林由夏

第 108 回日本消化器病楽器・キャリア支援委員会・シンポジウム

2022 年年 4 月 21-23 日、京王プラザホテル

・悪性軟部腫瘍に対する新規薬剤による治療戦略

○小林由夏

第 60 回癌治療学会・一般口演

2022 年 10 月 20-22 日、神戸コンベンションセンター

・退院困難と思われたが薬剤調整と多職種連携により自宅で最期を過ごせた 1 事例

○外池祐子

第 45 回日本死の臨床研究会 年次大会・ポスター発表

2022 年 11 月 26 日（土）27 日（日）、三重県総合文化センター

・肝細胞がんに対する薬物療法・1 次治療の実情と課題

○小林由夏

第 44 回日本肝臓学会東部会

2022 年 11. 25-26 日、仙台国際センター

・切除不能進行再発膵がんに対するリポソーム化イリノテカンをどう使うか

○小林由夏

第 20 回日本臨床腫瘍学会・ポスターセッション

2023 年年 3 月 16-18 日、福岡国際会議場

・当院の NET 治療の現状

○宮崎遥可、小林由夏

第 20 回日本臨床腫瘍学会・ポスターセッション

2023 年年 3 月 16-18 日、福岡国際会議場

・切除不能胃がんに対する ICI 併用 1 次治療の検討

○小林由夏

第 109 回日本消化器病学会総会・ミニオーラルセッション

2023 年年 4 月 6-8 日、出島メッセ長崎

・抑うつコントロール中にニボルマブ関連自己免疫性脳炎を発症し診断に苦慮した一例

○外池祐子

第 28 回日本緩和医療学会 学術大会・ポスター発表

2023 年 6 月 30 日（金）、7 月 1 日（土）、神戸ポートピアホテル・国際展示場・国際会議場

・食道がんにおける FOLFOX 治療の有用性

○小林由夏

第 61 回癌治療学会・一般口演

2023 年 10 月 19-21 日、パシフィコ横浜

・切除不能胆道がんに対する GC-Dur 療法の有用性

○松原志奈、小林由夏

第 73 回日本消化器病学会甲信越支部例会・一般演題

2023 年 11 月 25-26 日、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

・便汁暴露による会陰部痛のコントロールに難渋した S 状結腸がんの一事例

○外池祐子

第 46 回日本死の臨床研究会 年次大会・ポスター発表

2023 年 11 月 25 日（土）26 日（日）、愛媛県県民文化会館

神経内科

神経内科部長 渡邊 浩之

渡邊浩之、大野司、石川正典の常勤 3 名で診療を行っていましたが、2020 年 4 月から 2010 年卒の柳村文寛が加わりました。ただ大野は嘱託となり、外来中心の診療となっています。2022 年 4 月から 2008 年卒の酒井直子が非常勤で加わっています。2022 年 8 月には柳村が異動となり、代わりに 1992 年卒の鈴木隆が加わりました。2024 年 2 月から石川は異動となり、代わりに 2014 年卒の井上佳奈が勤務しています。従って、現在常勤は渡邊・鈴木・井上の 3 名で、非常勤が大野・酒井の 2 名の計 5 名となっています。

全員神経内科専門医で、渡邊・鈴木・大野は神経内科指導医でもあります。他に渡邊は日本内科学会総合内科専門医、認知症専門医・指導医、大野は日本内科学会総合内科専門医、リハビリテーション学会認定臨床医、酒井は日本内科学会認定医、日本頭痛学会専門医、井上は日本内科学会認定医、日本リハビリテーション学会認定臨床医です。当院は日本神経学会教育施設 日本認知症学会専門医教育施設、一次脳卒中センターに認定されています。

2019 から 2023 年の診療実績は別表の通りです。新規入院患者数 200 人台前半から後半へ増加傾向です。疾患別では脳梗塞が一番多く、他にてんかん等の発作性疾患、髄膜炎等の中枢感染症、多発性硬化症等の中枢性脱髄疾患、筋萎縮性多発性硬化症(ALS)・パーキンソン病などの変性疾患、ギラン・バレー症候群等の免疫性末梢神経障害などがあります。

長岡中央訪問看護ステーションとともに主に ALS の在宅人工呼吸器患者の訪問診療・レスパイト目的の入院も行っています。

2019 年度からは入院患者のせん妄対策としてせん妄・認知症ケアチーム(DST)を渡邊と認知症看護認定看護師である栗和田を中心として立ち上げて、全病棟の看護師と共同して活動しています。同チームで 2020 年からはせん妄予防を目的とした、せん妄ハイリスク患者のスクリーニング及びケアを開始し、2024 年からは身体拘束最小化の取り組みを開始しました。

神経内科は 2017 年 9 月の日本神経学会理事会にて「脳神経内科」と標榜診療科名を変更しました。これにより心療内科や精神科との差別化を行い、脳・神経の疾患を内科的専門知識と技術をもって診療する診療科として、また「脳神経外科」の内科側のカウンターパートであるとの位置づけを明確にしました。

近年の高齢化に伴い認知症、てんかん、脳血管障害等の対象患者は増加し、また急性期脳梗塞に対する tPA や血管内治療の進歩、神経免疫疾患の治療の進歩など脳神経内科を巡る環境は変化しています。頭痛、めまい、しびれなどの common disease への対応も必要です。当院では限られた医療資源を有効活用するため、病診・病病連携を緊密にしながら対応していきたいと思っています。

臨床検討会：院内では神経内科検討会(新患紹介と難しい症例の検討)は平日連日行っており、脳外科との合同検討会とリハビリカンファレンスは各々週1回施行しています。

院外で長岡地区の画像臨床カンファレンス 月1回。中越神経内科懇話会（中越地区神経内科臨床報告会）年2から3回。

学会活動：

第229回日本神経学会関東・甲信越地方会（2019/3/2）

辺縁系脳炎類似の画像所見を呈した海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻の94歳女性例

演者 石川正典 共同演者 渡邊浩之 大野司 谷口禎規 阿部博史

第231回日本神経学会関東・甲信越地方会（2019/12/7）

脳幹と脊髄に梗塞を呈した神経サルコイドーシスの55歳女性例

演者 研修医 加藤夏生 共同演者 石川正典 渡邊浩之 大野司 中山遥子

第99回中越神経内科懇話会（2019/6/17）

遷延する下痢の後の四肢しびれ・脱力

演者 研修医 師田和宗 共同演者 渡邊浩之 石川正典 大野司

第102回中越神経内科懇話会（2020/9/14）

サルコイドーシス関連脳病変

演者 石川正典 共同演者 柳村文寛 渡邊浩之 大野司

第103回中越神経内科懇話会（2021/2/15）

髄膜脳炎様の症状で発症したNMOSD

演者 研修医 吉田耕太郎 共同演者 柳村文寛 石川正典 渡邊浩之 大野司

第105回中越神経内科懇話会（2021/10/25）

免疫チェックポイント阻害剤使用後の意識障害

演者 柳村文寛 共同演者 石川正典 渡邊浩之 大野司

第106回中越神経内科懇話会（2022年3月22日）

慢性髄膜炎

演者 研修医 小林佑輝、共同演者 石川正典、柳村文寛、渡邊浩之、大野司

第108回中越神経内科懇話会（2022年11月21日）

難治性吃逆

演者 研修医 鈴木憧夢、共同演者 石川正典、酒井直子、鈴木隆、渡邊浩之、大野司

第109回中越神経内科懇話会（2023年6月26日）

二峰性の経過を辿った抗NMDA受容体脳炎

演者 鈴木隆、共同演者 石川正典、酒井直子、渡邊浩之、大野司

講演活動：2020年1月21日 県立長岡高等学校医療講演会 認知症について 渡邊浩之

論文発表：

熱中症の急性期における上小脳脚での対称的な異常所見(Symmetrical abnormalities in superior cerebellar peduncles during the acute phase of heatstroke)

Author : Yanagimura Fumihiro, Ishikawa Masanori, Watanabe Hiroyuki, Ohno Tsukasa

Neurology and Clinical Neuroscience (2049-4173)9 巻 4 号 Page353-354(2021.07)

片頭痛発作に続く脳卒中様症状で発症した単純ヘルペス脳炎の1例(原著論文)

山本 萌乃(長岡赤十字病院 神経内科), 滑川 将気, 石川 正典, 渡邊 浩之, 小宅 睦郎, 藤田信也

臨床神経学(0009-918X)62 巻 7 号 Page567-570(2022.07)

表

	2019	2020	2021	2022	2023
入院患者数	215	219	248	267	275
脳梗塞 TIA	94	134	139	148	141
脳出血他の血管障害	6	7	8	2	0
感染症 炎症性疾患	19	12	6	19	20
中枢性脱髄疾患	9	4	7	4	1
免疫性末梢神経障害	4	3	2	10	4
免疫性筋疾患	1	0	2	3	4
末梢神経障害	2	2	4	6	5
筋疾患	0	2	1	1	1
変性疾患	17	7	13	15	16
認知症疾患	2	1	5	2	2
発作性 機能性疾患	27	24	26	16	34
自律神経疾患	0	0	0	0	1
脊椎脊髄疾患	1	2	0	7	5
腫瘍性疾患	0	0	0	3	0
代謝性疾患	3	3	2	0	1
内科疾患関連他	30	18	33	31	40

小児科

【患者数】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来患者数	17,335	14,072	12,804	11,239	11,770
入院患者数	3,970	2,843	2,729	2,121	3,154

【年度毎症例数】

・令和元年度

診断群分類	名称	件数
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出生体重に関連する障害（出生時体重2500g以上） 手術なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	96
040090xxxxxx00x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他） 定義副傷病名なし	89
040100xxxx00x	喘息 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	50
040070xxxx0xx	インフルエンザ、ウイルス性肺炎 手術処置等2なし	49
0400801199x00x	肺炎等（1歳以上15歳未満） 手術なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	40

・令和2年度

診断群分類	名称	件数
080270xxxx1xxx	食物アレルギー 手術処置等1あり	118
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出生体重に関連する障害（2500g以上） 手術なし 手術処置等2なし	95
080270xxxx0xxx	食物アレルギー 手術処置等1なし	36
040100xxxx00x	喘息 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	29
060380xxxx00x	ウイルス性腸炎 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	24

・令和3年度

診断群分類	名称	件数
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出生体重に関連する障害（2500g以上） 手術なし 手術処置等2なし	71
080270xxxx1xxx	食物アレルギー 手術処置等1あり	65
040090xxxxxx00x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他） 定義副傷病名なし	47
080270xxxx0xxx	食物アレルギー 手術処置等1なし	38
040100xxxx00x	喘息 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	30

・令和4年度

診断群分類	名称	件数
080270xxxx1xxx	食物アレルギー 手術処置等1あり	114
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出生体重に関連する障害（2500g以上） 手術なし 手術処置等2なし	63
040100xxxx00x	喘息 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	24
060380xxxx0xx	ウイルス性肺炎 手術処置等2なし	18
140010x199x1xx	妊娠期間短縮、低出生体重に関連する障害（2500g以上） 手術なし 手術処置等2-1あり	18

・令和5年度

診断群分類	名称	件数
080270xxxx1xxx	食物アレルギー 手術処置等1あり	118
040090xxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	63
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出生体重に関連する障害（2500g以上） 手術なし 手術処置等2なし	50
040100xxxx00x	喘息 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	41
060380xxxx0xx	ウイルス性肺炎 手術処置等2なし	41

外科

外科部長 北見 智恵

外科は新国恵也（乳腺），河内保之（食道，胃，肝胆膵），西村淳（大腸）牧野成人（食道，胃）川原聖佳子（大腸），北見智恵（肝胆膵），長谷川潤（乳腺）の常勤医 7 名に新潟大学からの出張医 5 名で診療を行っています。

2019 年—2024 年，各年の主な手術の件数を表に示します。

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
総件数	1110	1143	1119	1129	1143
全身麻酔	1009	993	924	897	922
緊急手術	158	129	129	127	132
胃癌	129	123	108	116	105
食道癌	21	19	16	14	11
大腸癌	203	203	213	196	204
乳がん	183	157	133	168	159
膵癌	25	27	25	20	11
肝胆膵悪性疾患	78	75	62	51	75
胆石	74	103	94	84	91

食道癌

食道癌手術は進行度 II および III は DCF 療法で術前化学療法を行い、胸腔鏡下食道切除を行っています。胸腔鏡下食道切除では術後 2 週間で退院を目標とするクリニカルパスを運用しています。術後補助化学療法として免疫チェックポイント阻害剤を使用する場合があります。

胃癌

胃癌手術は 8 割以上が腹腔鏡手術で胃切除を行っています。近年はピロリ除菌の影響で胃癌の発症数は減少していますが、食道胃接合部癌が増加し、手術の難易度は上がっています。また、胃粘膜下腫瘍（GIST など）に対しては、消化器内科と共同で内視鏡合同胃局所切除（Laparoscopy Endoscopy Cooperative Surgery: LECS）を行っています。高度進行胃癌に対しては術前化学療法後に根治切除を行っています。

大腸癌

大腸癌手術は進行がんに対しても積極的に腹腔鏡手術を行っており、約 9 割が腹腔鏡手術で行われています。以前は直腸切断術、永久人工肛門の適応であった低い位置の直腸癌に対しても、腹腔鏡の拡大視効果を利用し、外肛門括約筋を残すことで、排便機能を維持する「内肛門括約筋切除術 (ISR)」で肛門温存することが可能になっています。また経腔的標本摘出や経肛門的標本摘出など Reduce port surgery を積極的に行い、癌の根治度に加え、整容性、術後の痛みにも考慮した術式を取り入れています。

肝胆膵悪性腫瘍

高度技能を要する膵頭十二指腸切除や肝葉以上の切除も 50 件以上行っており肝胆膵高度技能修練施設に認定されています。とくに膵癌が増加傾向で術前化学療法を行った後根治手術を行っています。肝表の肝細胞癌や転移性肝腫瘍に対しては腹腔鏡下肝切除術を行っています。また膵体尾部腫瘍に対しては腹腔鏡下膵体尾部切除を行っています。

乳癌

病変の状態などにより、部分切除または乳房全摘を行っています。全摘後に乳房再建希望があればインプラントを用いた乳房再建を形成外科に依頼しています。また、癌のサブタイプにより術前または術後の薬物療法を行っています。

学術

学会活動も積極的に行っており、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、胃癌学会、食道学会、肝胆膵外科学会、胆道学会、膵臓学会、大腸癌研究会、日本農村医学会などで発表しました。

脳神経外科

【患者数】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来患者数	9,552	8,262	8,002	7,564	7,197
入院患者数	6,835	6,518	5,931	6,237	5,493

【年度毎症例数】

・令和元年度

診断群分類	名称	件数
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	44
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満） 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	31
010040x199x00x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10以上） 手術なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	26
010060x2990201	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2-2あり 定義副傷病名なし 発症前Rankin Scale 0,1又は2	24
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	18

・令和2年度

診断群分類	名称	件数
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満） 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	49
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	37
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	36
010060x2990201	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2-2あり 定義副傷病名なし 発症前Rankin Scale 0,1又は2	23
010040x199x00x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10以上） 手術なし 手術処置等2なし	22

・令和3年度

診断群分類	名称	件数
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満） 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	43
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	39
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	30
010040x199x00x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10以上） 手術なし 手術処置等2なし	20
010060x2990201	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2-2あり 定義副傷病名なし 発症前Rankin Scale 0,1又は2	13

・令和4年度

診断群分類	名称	件数
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	49
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満） 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	42
010040x199x00x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10以上） 手術なし 手術処置等2なし	29
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	20
010060x2990201	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2-2あり 定義副傷病名なし 発症前Rankin Scale 0,1又は2	13

・令和5年度

診断群分類	名称	件数
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満） 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	37
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	35
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	30
010040x199x00x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10以上） 手術なし 手術処置等2なし	26
010060x2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2～4あり 定義副傷病名なし 発症時Rankin Scale 0,1又は2	16

【年度毎手術件数】

・令和1年度

手術コード	手技名称	件数
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm未満）	103
K16402	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術（穿頭）	49
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm以上10cm未満）	17
K00002	小児創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径2.5cm未満）	12
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm未満・真皮縫合）	8

・令和2年度

手術コード	手技名称	件数
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm未満）	100
K16402	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術（穿頭）	38
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm以上10cm未満）	16
K00002	小児創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径2.5cm未満）	8
K17700	脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	7

・令和3年度

手術コード	手技名称	件数
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm未満）	100
K16402	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術（穿頭）	26
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm以上10cm未満）	23
K16402	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	19
K16900	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	15

・令和4年度

手術コード	手技名称	件数
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm未満）	79
K16402	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	48
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm以上10cm未満）	18
K16900	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	11
K17700	脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	7

・令和5年度

手術コード	手技名称	件数
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm未満）	100
K16402	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術（穿頭）	28
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm以上10cm未満）	22
K16900	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	12
K16402	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	8

産婦人科

産婦人科副院長 加勢 宏明

産婦人科は加勢、古俣、横田の3名の常勤専門医と新潟大学から派遣の2名の医師による5名体制により診療してきた。尚、22年4月からは6名体制に移行していたが、横田の退職により、23年9月からは再び5名体制となった。

コロナ禍をきっかけに婚姻数の減少、妊娠数の減少と日本全国にみられる波が長岡にきており、分娩数は顕著に減少している。周囲の産科取扱施設とも相談の上、対応していく必要がある。

一方で、コロナ禍においても手術件数は減少することなく、婦人科診療を遂行できている。内視鏡手術件数は順調に増加しており、とくに最近では、膣からの単孔式内視鏡を利用した子宮全摘も古俣医師を中心に施行しており、成果をあげている。悪性疾患については、年度での増減はあるが、近隣施設からの紹介例を中心に治療をおこなっている。

当科での特徴として膣式手術件数が多いことが特徴であり、症例数も減少することなく対応できている。

今後も丁寧に個々の患者さんに対応していきたい。

年度	2019	2020	2021	2022	2023
帝王切開・緊急	47	51	75	65	43
帝王切開・予定	75	66	44	44	38
良性疾患・開腹	54	47	42	40	27
良性疾患・腹腔鏡	74	81	78	105	103
（腹腔鏡下子宮全摘）	33	30	29	34	30
（膣式腹腔鏡下子宮全摘）	0	5	12	26	35
悪性腫瘍手術	36	51	48	46	43
子宮頸癌	9	5	8	3	4
子宮体癌	12	18	21	19	17
卵巣癌	15	28	19	24	22
膣式手術	190	209	190	223	243
（骨盤臓器脱手術）	111	104	115	125	134

論文

- 1) 加勢宏明、安田麻友、高橋宏太郎、戸田紀夫、松本賢典、横田有紀、古俣大
Uphold 型 TVM 手術での術後排尿困難遷延因子の検討. 日本女性骨盤底医学会誌.
16: 31-34, 2019.
- 2) 高橋宏太郎、加勢宏明、横田有紀、古俣大
妊娠初期に診断された CIN3 症例の臨床病理学的検討. 日本臨床細胞学会誌 58(4):
155-161, 2019.
- 3) Suda K, Nakaoka H, Yoshihara K, Ishiguro T, Adachi S, Kase H, Motoyama T, Inoue
I, Enomoto T.
Different mutation profiles between epithelium and stroma in endometriosis
and normal endometrium. Human Reproduction 34: 1899-1905, 2019.
- 4) 古旗淳、荒木邦夫、大石徹郎、加勢宏明、片山博徳、河野裕夫、川本雅司、九島巳樹、
小松京子、関根浄治、竹原和宏、中泉明彦、野本靖史、梶榮、松下倫子、松本慎二、三宅康
之、廣岡保明
定点観測による細胞診検体に関するアンケート調査の集計報告. 日臨細 58(6): 39-42,
2019.
- 5) 安田麻友、川浪真里、戸田紀夫、横田有紀、古俣大、加勢宏明
分娩後に生じた特発性縦隔気腫の一例. 新潟産科婦人科学会誌 114(2): 58-61,
2020.
- 6) Nozomi Yachida, Kosuke Yoshihara, Kazuaki Suda, Hirofumi Nakaoka, Haruka Ueda,
Kentaro Sugino, Manako Yamaguchi, Yutaro Mori, Kaoru Yamawaki, Ryo Tamura,
Tatsuya Ishiguro, Hiroaki Kase, Teiichi Motoyama, Takayuki Enomoto.
Biological significance of KRAS mutant allele expression in ovarian
endometriosis. Cancer Science.112: 2020-2032, 2021.
- 7) 川浪真里、戸田紀夫、横田有紀、古俣大、加勢宏明
子宮頸部腫瘍の再発を繰り返した HPV 持続感染症例. 新潟産科婦人科学会誌
115(2): 71-74, 2021.
- 8) 清水圭太、春谷千智、横田有紀、古俣大、加勢宏明
帝王切開後に子宮内感染を惹起した子宮筋腫に対し子宮鏡下摘出術を要した一例.
新潟産科婦人科学会誌 116(1): 15-19, 2021.
- 9) (103) 加藤奈都美、加勢宏明、古俣大、横田有紀、春谷千智、清水圭太
当院における子宮頸部上皮内腺癌症例の検討. 新潟産科婦人科学会誌 117(1): 21-
24, 2022.
- 10) Mizuha Odagami 1・Akiko Iwata 1・Kazumi Kubota 2・Kentaro Kurasawa 1・Mika
Okuda 3・Shigeru Aoki 4・Tomoo Hirabuki 5・Tomoko Tujie 6・Haruya Saji 7・Tetsuya
Hasegawa 8・Natsuko Kobayashi 3・Yutaka Ueda 9・Shinichi Ishioka 10・Takayuki

Enomoto 11 · Makoto Tsuji 12 · Hiroyuki Shigeta 13 · Kumi Koike 14 · Hiroaki Tanaka 15 · Rie Tsukinaga 16 · Yoshimi Hasegawa 17 · Reiko Numazaki 18 · Hajime Ota 19 · Hiroaki Kase 20 · Hiroshi Ishikawa 21 · Yoshihiro Saito 22 · Takaharu Yamawaki 23 · Etsuko Miyagi1

Awareness of Infectious Disease Screening During Early Pregnancy and Knowledge About its Vertical Transmission in Japan: A Report from the Pregnant Women Health Initiative. *Matern Child Health J.* 27(5): 933-943, 2023.

11) 春谷千智、古俣大、倉井伶、横田一樹、深津俊介、清水圭太、高橋佳奈、木谷洋平、横田有紀、加勢宏明

当院での vaginal Natural orifice transluminal endoscopic surgery(vNOTES)による子宮全摘術の導入と 36 症例の検討. *新潟産科婦人科学会誌* 118(1): 13-18, 2023.

12) 深津俊介、加勢宏明、倉井伶、木谷洋平、古俣大

当院におけるプラチナ感受性再発卵巣癌に対するオラパリブの使用経験. *新潟産科婦人科学会誌* 118(2): 59-64, 2023.

13) 高橋佳奈、横田一樹、春谷千智、横田有紀、古俣大、加勢宏明

甲状腺機能亢進症のみられた全胎奇胎の一例. *新潟産科婦人科学会誌* 118(2): 84-87, 2023.

14) 横田一樹、高橋佳奈、春谷千智、横田有紀、古俣大、加勢宏明

腹膜偽粘液腫を呈した虫垂原発粘液性腫瘍の一例. *新潟産科婦人科学会誌* 118(2): 88-92, 2023.

15) 倉井伶、古俣大、深津俊介、春谷千智、木谷洋平、加勢宏明

子宮筋層に貫入した LNG-IUS に対して子宮鏡下に摘出した一例. *新潟産科婦人科学会誌* 118(2): 97-100, 2023.

発表

2019 年度

1)川浪真里、戸田紀夫、横田有紀、古俣大、加勢宏明

第 47 回北陸産科婦人科学会学術講演会(6/1-2/19) 富山国際会議場

「当院における高齢妊娠症例の検討」

2)安田麻友、川浪真里、戸田紀夫、横田有紀、古俣大、加勢宏明

第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(7/4-6/19) 新潟・朱鷺メッセ

「卵巣癌に対するドキシルの有効性」

3)安田麻友、川浪真里、古俣大、戸田紀夫、加勢宏明

第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会(7/13-15/19) 松本・キッセイ文化ホールなど

「分娩後に生じた特発性縦隔気腫の 1 例」

4)川浪真里、加勢宏明、戸田紀夫、古俣大、安田麻友

第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会(7/13-15/19) 松本・キッセイ文化ホールなど
「当院における高齢妊娠症例の検討」

7) 加勢宏明、川浪真里、安田麻友、戸田紀夫、横田有紀、古俣大

第 21 回日本女性骨盤底医学会(7/20-21/19) 名古屋・愛知県産業労働センター(ウイック愛知)
「骨盤臓器脱に対して膣式子宮全摘出術＋全膣閉鎖術を施行した 8 例の検討」

8)川浪真里、戸田紀夫、横田有紀、古俣大、加勢宏明

第 67 回北日本産科婦人科学会学術講演会(9/28-29/19) 福井・ザグランユアーズフクイ
「当院における高齢妊娠症例の検討」

(ほか県内発表 6 件)

2020 年度

1)川浪真里、加勢宏明、横田有紀、古俣大、五十嵐俊彦

第 61 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会) (6/20/20-7/19/20) 横浜・パシフィコ横浜 →
HYBRID

「再発を繰り返した CIN 症例」

8) 加勢宏明、清水圭太、春谷千智、横田有紀、古俣大

第 22 回日本女性骨盤底医学会(1/16-17/21) WEB
「当科での ORIHIME を用いた TVM 手術の現状」

(ほか県内発表 8 件)

2021 年度

1)古俣大

第 49 回北陸産科婦人科学会(6/12-13/21) WEB

ランチョンセミナー 合併症ゼロを目指す TLH～市中病院での取り組み～

2)春谷千智、清水圭太、古俣大、加勢宏明

第 57 回日本周産期新生児学会 (7/11-13/21) 宮崎市・シーガイア(Hybrid)

「診断に難渋した体外受精・胚移植後の内外同時妊娠の 1 例」

3)清水圭太、春谷千智、古俣大、加勢宏明

第 57 回日本周産期新生児学会 (7/11-13/21) 宮崎市・シーガイア(Hybrid)

「帝王切開後に子宮内感染を起こした子宮筋腫に対し子宮鏡下摘出術を行った症例」

4)加勢宏明、清水圭太、春谷千智、横田有紀、古俣大

第 23 回日本女性骨盤底医学会(7/17-18/21) 宇都宮市・栃木県総合文化センター(Hybrid)
「ORIHIME を用いた TVM 手術での術式変更 第 2 報」

5)清水圭太、古俣大、春谷千智、横田有紀、加勢宏明

第 61 回日本産科婦人科内視鏡学会(9/11-13/21) 横浜 → WEB
「経膣的内視鏡補助下子宮全摘術の初期経験」

6)高橋宏太郎、加勢宏明、菊池朗

第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会(11/20-21/21) 米子市・米子コンベンションセンターなど(Hybrid)

ワークショップ 11 妊娠女性の頸部細胞診

「妊娠初期に診断された HSIL/CIN3 症例の転帰についての検討」

7)加藤奈都美、横田有紀、古俣大、加勢宏明、五十嵐俊彦

第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会(11/20-21/21) 米子市・米子コンベンションセンターなど(Hybrid)

「当院における子宮頸部上皮内腺癌症例の検討」

(ほか県内発表 5 件)

2022 年度

1) Kazuaki Suda¹, Kosuke Yoshihara¹, Tatsuya Ishiguro¹, Manako Yamaguchi¹, Nozomi Yachida¹, Yuki Yokota², Hiroaki Kase² and Takayuki Enomoto (1.Niigata University, 2.Nagaoka Chuo General Hospital)

第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会(8/5-7/2022) 福岡市・福岡国際会議場

「Cancer-associated mutations in adenomyosis」

2) 春谷千智、古俣大、横田一樹、高橋佳奈、横田有紀、加勢宏明

第 62 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(9/8-10/2022)

横浜市・パシフィコ横浜

「当院での vaginally assisted NOTES hysterectomy の検討」

3) 高橋佳奈、横田有紀、加勢宏明、五十嵐俊彦

第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会(11/5-6/21) 仙台市・仙台サンプラザホテルなど(Hybrid)

「腹膜偽粘液腫の一例」

(ほか県内発表 10 件)

2023 年度

1)横田一樹、春谷千智、古俣大、加勢宏明

第 59 回日本周産期新生児学会 (7/9-11/23) 名古屋市・名古屋国際会議場

「性交直後にみられた常位胎盤早期剥離の 1 例」

2) 深津俊介、横田一樹、春谷千智、横田有紀、古俣大、加勢宏明

第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(7/14-16/23) 松江市・くにびきメッセ

「当院におけるプラチナ感受性再発卵巣癌に対するオラパリブの使用経験」

3) 加勢宏明、倉井伶、深津俊介、木谷洋平、横田有紀、古俣大

第 25 回日本女性骨盤底医学会(8/5-6/23) 東京・日本教育会館

「経膈メッシュへの仙棘靭帯固定法の併用」

4)深津俊介、古俣大、倉井伶、横田一樹、春谷千智、木谷洋平、横田有紀、加勢宏明

第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(9/14-16/23) 大津市・びわ湖大津プリンスホテル

「当科での VANH(vaginally assisted NOTES hysterectomy)における適応拡大に関する検討」

5)木谷洋平、古俣大、倉井伶、深津俊介、横田有紀、加勢宏明

第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(9/14-16/23)

大津市・びわ湖大津プリンスホテル

「マンチェスター手術既往のある子宮筋腫患者に対して、VANH(vaginally assisted NOTES hysterectomy)を行った 1 例」

6) 倉井伶、古俣大、深津俊介、木谷洋平、横田有紀、加勢宏明

第 70 回北日本産科婦人科学会学術講演会(9/23/23) 弘前市・アートホテル弘前シティ

「子宮筋層に貫入した LNG-IUS に対して子宮鏡下に摘出した 1 例」

(ほか県内発表 7 件)

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 岡部 隆一

2021 年度中越地区の頭頸部癌の治療を当院で集約して行っており、2022 年度からは科名が耳鼻咽喉科頭頸部外科となりました。また 2024 年度からは常勤耳鼻科医も 4 名体制で診療を行っています。

当院で行っている癌に対する手術治療は低侵襲手術から拡大切除に伴う再建手術まで行っており以前は中越地区では治療困難だった進行癌症例についても対応可能となっています。放射線治療は放射線治療科と連携し外来通院でも治療ができる体制を整えました。化学療法については術前化学療法や導入化学療法、放射線治療時の同時併用化学療法や動注化学療法の他に再発転移時の多種の化学療法も行っております。

また患者さんの急な体調不良などの対応含めた緊急対応など可能で、充実したがん治療を安定して行える体制も整っています。

頭頸部に発生する癌ですが、口腔癌、咽頭癌、喉頭癌、唾液腺癌、鼻副鼻腔癌、聴器癌、甲状腺癌と多岐にわたります。2021～2023 年度に受診された新規頭頸部がん患者さん（図 1 参照）は合計で 326 名でした。同期間の手術件数（表 1）はのべ 839 件でその中でも悪性腫瘍関連の手術は 650 件でした。

再建手術は 19 件あり血管吻合を必要とする遊離皮弁再建が 10 件、移動皮弁による有茎皮弁再建術 9 件ありました。近年内視鏡の発展に伴い咽頭や喉頭を中心に早期で頭頸部癌が発見されることがあり低侵襲治療である鏡視下手術（内視鏡を用いた経口切除）が行われるようになってきました。当院でも同術式を積極的に採用しています。放射線治療後で以前は根治治療のために咽頭喉頭全摘などの音声を失う拡大手術が必要だった症例に対しても病変の範囲が手術で対応できる場合には鏡視下手術を行っています。2021 年度～2023 年度の期間の鏡視下咽頭悪性手術数は新規、再発併せて 48 件でした。喉頭については以前放射線治療を行っていた早期症例も顕微鏡下に CO₂ レーザーを用いた局所切除で対応可能であり 3 泊 4 日の治療で根治することが可能です。再発時には喉頭全摘を余儀なくされた症例でも全例ではありませんが CO₂ レーザーで切除することで失声を回避できるようになりました。同期間は鏡視下喉頭悪性腫瘍手術数は 54 件でした。

甲状腺の手術は都道府県によっては手術を内分泌外科で行う地域と耳鼻咽喉科で行う地域があります。新潟県では 2019 年から内分泌外科が甲状腺手術から撤退したため全例耳鼻咽喉科頭頸部外科で行っています。

当院でも甲状腺手術を行っており新潟大学同様に全国的に標準の術式、治療を行っています。2021 年度から 2023 年度の期間は甲状腺手術が 189 件うち甲状腺癌の手術が 94 件でした。

甲状腺癌の遠隔転移には甲状腺全摘後の放射線ヨード内用療法が必要になります。当院では行えないため新潟大学または県立がんセンター新潟病院へ依頼していますが、内照射が無効となった場合には当院で分子標的薬の治療なども行っています。

また当院では行えない治療ではありますが再発転移時の新しい治療である BNCT（ホウ素中性子補足療法）、光免疫療法の適応について相談、治療施設への紹介も行っています。

緩和ケア科、ケアマネージャー、訪問看護ステーションと協力し終末期の対応も患者さんの希望、社会背景に合わせてできる限り苦痛なく希望に添えるように治療させていただいています。今後もできるだけ患者さんの負担を少なくし患者さんに寄り添った治療をしていきます。

新規悪性腫瘍患者数	2021 年度	2022 年度	2023 年度
口腔癌	16	13	11
上咽頭癌	4	1	1
中咽頭癌	20	18	20
下咽頭癌	26	27	27
喉頭癌	22	24	16
鼻副鼻腔癌	6	3	11
唾液腺癌	3	4	7
聴器癌	2	1	0
原発不明	2	2	4
甲状腺癌	19	24	27
合計	120	117	89

手術件数	2021 年度	2022 年度	2023 年度
総数	335	237	267
悪性腫瘍関連手術総数	285	167	198
再建手術	6	7	6
遊離皮弁再建	2	4	4
有茎皮弁再建	4	3	2
鏡視下悪性腫瘍手術	44	28	30
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術	15	20	13
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	29	8	17
甲状腺手術	43	71	75
甲状腺癌手術	23	28	44
甲状腺良性腫瘍手術	20	43	31
放射線治療	53	69	72

眼科

眼科部長 高田 律子

当科は眼科常勤医 1 名に日替わりの助勤医師 1 名の 2 診体制（火曜日午前のみ 1 診）で外来診療・手術を行っています。また外来は完全予約制となっております。進行した緑内障・眼内レンズ脱臼・網膜剥離等の難症例の対応を随時行っており、病床確保ができればお引き受けしています。ロービジョンケアについては院外研修を終了した視能訓練士 2 名を含めビジョンケアが必要な方に対して随時情報提供を行っています。なおコンタクトレンズの処方を行っておりません。

手術実績に関しましては令和 2 年度から 5 年度までコロナウイルス感染拡大によって入院白内障手術を制限し重症例の硝子体手術もしくは緑内障手術の入院手術加療に重点を置いていました。令和 6 年度以降は入院白内障手術の制限は撤廃されております。また外来白内障手術にも対応しております。

令和 2 年度末から手術顕微鏡が更新され、最新式のものとなりました。令和 7 年度は手術用システムの更新時期となっており、手術成績の向上に向けて期待ができると思われま

す。これからも最新の知見と人的資源・治療機器・医療環境を駆使し、患者様がよりよい日常生活を送れるように最大限の努力と研鑽を続けていきたいと考えております。

	外来患者数(人/日)	入院患者数(人/日)	入院手術件数(件/年)	手術内訳(件/年) (入院・外来合計)			
				水晶体再建術	硝子体茎頭微鏡下離断術	緑内障手術	その他(レーザー手術*を含む)
令和元年度	69.6	8.7	757	554	132	47	192
令和 2 年度	63.5	7.8	626	454	116	38	193
令和 3 年度	61.9	5.8	493	378	90	39	168
令和 4 年度	60.4	5.6	527	416	112	6	171
令和 5 年度	57.4	5.2	521	423	125	11	144

	*レーザー手術(件/年)(入院・外来合計)		
	網膜光凝 固術	虹彩光凝 固術	後発白内 障手術
令和元年度	84	2	66
令和2年度	86	4	61
令和3年度	75	10	50
令和4年度	64	12	61
令和5年度	56	3	61

整形外科

整形外科部長 浦川 貴朗

この2年間(2022年4月から2024年3月)の人事異動について報告いたします。脊椎外科に関しては、2022年4月鶴岡市立荘内病院より浦川貴朗が、8月柏崎総合医療センターより草部雄太が当院へ赴任となりました。2023年3月で久保田美緒が新潟大学医歯学総合病院へ、草部雄太が新潟中央病院へ異動となりました。2024年4月からは魚沼基幹病院より花房繁寿が赴任予定となっております。関節外科に関しては、2022年8月藤田裕が柏崎総合医療センターに異動となり、後任として高木祥有が済生会新潟病院より赴任となりました。2023年10月に高木祥有が新潟県立新発田病院へ異動となり、後任として坂爪佑輔が新潟県立新発田病院より赴任となりました。手外科に関しては、2022年10月山田政彦が新潟手の外科研究所病院へ異動となり、後任として石坂佳祐が新潟手の外科研究所病院より赴任となりました。2023年10月石坂佳祐が新潟市民病院へ異動となり、後任として今井真が新潟県立十日町病院より赴任となりました。一般整形外科としては、2022年10月に高橋駿が柏崎総合医療センターへ異動となったことに伴い、五十嵐哲也が鶴岡市立荘内病院より赴任となりました。2023年10月五十嵐哲也が新潟県立十日町病院へ異動となり、後任として長岡赤十字病院より風間光、新潟大学より伊東祥希が赴任となりました。2023年3月で風間光が新潟大学へ異動となりました。後任には、木村胤元と杉山瑳恵利が赴任予定となっております。

2023年3月においては高橋一雄、矢尻洋一、善財慶治、浦川貴朗、村山敬之、草部雄太、坂爪佑輔、今井真、風間光、伊東祥希の10名で診療を行っています。外来では新患は原則病診連携室経由の紹介状のみとしております。かかりつけ医からの紹介状と病診連携室経由での当院整形外科への予約をお願いいたします。再来は完全予約制をとっておりますが、現在受診中の疾患において具合が悪いなどございましたら適宜電話での再来予約の変更を受け付けております。入院については整形外科病棟の6東病棟50床を中心に診療しております。

診療内容としては、善財慶治、今井真が手の外科および上肢の外傷を、高橋一雄、矢尻洋一、浦川貴朗、草部雄太が脊椎外科を、村山敬之、坂爪佑輔が膝関節および肩関節の診療を担当しております。外傷は主に一般整形外科の風間光、伊東祥希が主治医となり、上級医とともに執刀にあたっております。それぞれが手術を中心に精力的に診療を行っています。リウマチ外来は、新潟大学の近藤直樹医師に月1回水曜日午後診療をお願いしております。股関節外科、腫瘍外科、小児整形外科の方は現在欠員となっており、変形性股関節症などは立川総合病院へ、悪性骨軟部腫瘍は新潟大学医歯学総合病院または新潟県立がんセンターまたは魚沼基幹病院、先天性股関節脱臼などは長岡赤十字病院へ紹介となっております。

<学会発表>

2023年4月1日～2024年3月31日（主な10編以内）

1. L5/S 片側椎間孔狭窄例と両側狭窄例の浅腓骨神経感覚神経活動電位検査での感度の比較，第52回日本脊椎脊髄病学会，2023年4月13-15日
2. 変液性膝関節症における CT Hounsfield Unit 値を用いた脛骨近位部海綿骨の評価，新潟整形外科学会，2024年3月2日
3. 変形性膝関節症における HU 値を用いた脛骨近位部内外側の評価，第1回日本膝関節学会，2023年12月8日
4. 当院における UKA の術後設置位置と臨床成績の関係性，新潟整形外科学会，2024年3月2日
5. 橈骨遠位端骨折患者における骨粗鬆症治療介入の現状，第15回日本手関節外科ワークショップ，2023年9月30日
6. 橈骨遠位端骨折患者における重症骨粗鬆症患者の割合，第254回新潟整形外科学会，2024年1月13日
7. COVID-19 感染に伴う制限により増加した腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法，第3回新潟県厚生連整形外科医会，2023年10月7日
8. 腰椎椎間板ヘルニアの治療-椎間板内酵素注入療法を中心に-，庄内整形外科医会，2023年11月11日

2022年4月1日～2023年3月31日（主な10編以内）

1. AI による骨折画像診断，第40回日本骨代謝学会学術集会，2022年7月22日
2. AI による単純X線上の骨折検出，第50回日本関節病学会，2022年10月22日
3. 私の整形外科学研究への関わり，第16回NASA，2022年8月27日
4. 当院におけるコンドリアーゼの治療成績，長岡ヘルニア病診連携の会，2023年1月26日
5. 各種慢性疼痛疾患の病態，第2回新潟県慢性疼痛診療研究会，2023年1月29日
6. 整形外科領域の画像研究—末梢神経障害を含む脊椎診療の抱負も含めて—，Pain Live Symposium，2022年6月9日
7. 両側 L5/S 腰椎椎間孔狭窄症を画像上に認める場合の浅腓骨神経感覚神経活動電位（SPN-SNAP）の検討，第240回新潟整形外科学会，2022年11月20日
8. 膝蓋骨脱臼に対する人工靭帯を用いた内側膝蓋大腿靭帯再建の治療経験，第251回新潟整形外科学会，2023年3月4日
9. Medial Pivot TKA において屈曲 gap の開大が術後臨床成績にもたらす影響第，14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会，2022年6月16-18日
10. 当院における medial pivot 型人工膝関節全置換術のコンポーネント設置状態と臨床成績の関連，第251回新潟整形外科学会，2023年3月4日

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
延べ外来患者数	31,111	30,268	30,130	28,994	30,813
延べ入院患者数	22,222	20,975	19,438	18,837	17,519
手術件数	1,663	1,777	1,724	1,919	1,858

形成外科

形成外科部長 渡辺 玲

当科は以前、3人体制で勤務していましたが、昨年から人員が徐々に減り、2024年10月より1人体制になりました。そのため、外来を完全予約制にさせて頂き、制限をしている状況です。ご迷惑をおかけしております。

乳癌術後の乳房再建は行っておりますが、マンパワー不足のため、自家組織での再建ご希望の方については他施設へのご紹介となります。エキスパンダー、インプラントの再建については引き続き行ってまいります。

当院では腫瘍の切除が多い傾向にありますが、大学から宮田先生が隔週で手術に来ていただいているため、口唇口蓋裂や小耳症などの先天異常の症例もあります。たくさんではありませんが、眼瞼下垂症、腋臭症の症例もあります。気になる方は受診をして頂ければと思います。

当院にはQスイッチルビーレーザーがあるため、太田母斑、異所性蒙古斑などのあざ治療は保険適応で可能です。また外傷等で皮膚に砂が入り込んで刺青の状態になってしまった場合も、保険の治療が可能です。(外傷性刺青) 自ら入れた刺青に関しては保険適応外となりますのでご注意ください。しみ治療については自費診療で行っていますが、保険診療で手いっぱいのため新規の方をみるのが難しくなっているのが現状です。赤あざなど、血管性病変については対応機種(パルス色素レーザー)がないため他施設へのご紹介をしています。以上、簡単ですが当科の紹介とさせていただきます。

疾患大分類手技数年間件数

2019年

疾患大分類手技数	入院・外来			計
	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	
外傷	15	1	6	22
先天異常	11	0	3	14
腫瘍	58	1	272	331
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	9	0	6	15
難治性潰瘍	8	1	10	19
炎症・変性疾患	4	0	5	9
美容(手術)	0	0	1	1
その他	10	1	18	29
レーザー治療	3	0	39	42

2020 年

疾患大分類手技数	入院・外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	12	2	11	25
先天異常	19	0	1	20
腫瘍	86	2	210	298
瘻瘻・瘻瘻拘縮・ケロイド	14	0	3	17
難治性潰瘍	10	13	17	40
炎症・変性疾患	1	0	6	7
美容（手術）	1	0	0	1
その他	6	0	15	21
レーザー治療	2	0	49	51

2021 年

疾患大分類手技数	入院・外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	10	4	7	21
先天異常	25	0	0	25
腫瘍	83	3	198	284
瘻瘻・瘻瘻拘縮・ケロイド	5	0	7	12
難治性潰瘍	9	6	10	25
炎症・変性疾患	4	0	4	8
美容（手術）	0	0	0	0
その他	3	0	10	13
レーザー治療	1	0	38	39

2022 年

疾患大分類手技数	入院・外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	18	0	7	25
先天異常	23	0	1	24
腫瘍	75	5	170	250
瘻瘻・瘻瘻拘縮・ケロイド	2	0	1	3
難治性潰瘍	9	8	2	19
炎症・変性疾患	5	0	12	17
美容（手術）	0	0	0	0
その他	10	1	10	21
レーザー治療	4	0	20	24

2023 年

疾患大分類手技数	入院・外来			計
	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	
外傷	29	0	7	36
先天異常	12	0	5	17
腫瘍	68	0	170	238
瘻瘻・瘻瘻拘縮・ケロイド	4	0	2	6
難治性潰瘍	13	4	8	25
炎症・変性疾患	3	0	3	6
美容（手術）	2	0	1	3
その他	2	0	14	16
レーザー治療	2	0	18	20

皮膚科

皮膚科部長 和泉 純子

●スタッフ

和泉純子、高橋利幸、坂本ふみ子（非常勤医）

●診療

常勤医師は週 4 回、非常勤医師は週 1 回、毎日 2 診体制で外来診療を行っている。特に新患者外来を設けていないため急患についてはその日の拘束医が 2 人の看護師と共に迅速に対応。また入院患者含め他の科からの診療依頼が 1 日平均 15 件程度である。

その他皮膚生検、パッチテスト・スクラッチテスト・プリックテスト・光線テストの検査（主に金属アレルギー・接触皮膚炎・蕁麻疹・薬疹・光線過敏症の原因物質の精査）等を随時行っている。外来手術は木曜日。全身麻酔の必要な症例は形成外科に依頼している。

外来延べ患者は令和元年度総数 18,290 人、令和 2 年度 16,486 人、令和 3 年度 15,409 人、令和 4 年度 13,305 人、令和 5 年度 1,276 人と減少傾向にある。1 日平均患者数は季節に変化はなく令和元年 76.2 人、令和 2 年度 67.6 人、令和 3 年度 63.4 人、令和 4 年度 54.5 人令和 5 年度 50.1 人。疾患別患者数は下記に示す。乾癬は新しい治療薬として生物学的製剤は 10 人に治療中。他には経口免疫調整薬や短時間で効果的な紫外線療法治療が可能である高輝度ターゲット型エキシマライト、全身型ナローバンドによる紫外線治療を症状に応じて選択し治療を行っている。アトピー性皮膚炎患者治療も生物学的製剤の治療が可能となり 38 人に治療中。時間をかけて一人一人に合わせた生活指導を行なったうえ、従来の軟膏治療を基本にした治療でコントロールが良好可能な症例が多くなった。また特発性難治性蕁麻疹に対しての抗 IgE 抗体製剤は 5 人に使用している。悪性腫瘍においては適宜、県立がんセンターや新潟大学などに依頼している。他には各科多種の抗癌剤治療による皮膚障害の治療や多業種連携によるフットケアの実戦も積極的に行っている。救急は蕁麻疹、蜂刺症、熱傷、アナフィラキシーショックが上位を占める。入院患者は汎発性帯状疱疹や蜂窩織炎、重症型薬疹（スティーブンス・ジョンソン症候群、薬剤性過敏症症候群）、水疱症で年々減少傾向にある。

多職種による褥瘡対策チーム医療は月 1 回を 1 週間に 1 回の回診へ強化した。対象患者も入院後発症患者のみに行っていたものを持ち込み褥瘡患者へ拡大して、発症原因、ケアプラン、退院後の支援等を検討し、実施している。平均 1 週間に 15 例程度である。他、栄養サポートチーム 訪問看護に関わっている。

年度 (人)	アトピー 性 皮膚炎	蕁麻疹	尋常性 乾癬	帯状疱 疹	薬疹	水疱性 類天疱 瘡	天疱瘡	菌状 息肉症	SJS	多形滲 出性紅 斑	TEN
R1	314	279	143	141	84	35	11	5	1	20	1
R2	311	280	161	129	66	42	14	5	1	15	2
R3	407	268	212	164	69	39	15	3	2	13	1
R4	491	281	281	276	61	36	15	4	3	16	2
R5	615	267	263	193	86	55	16	4	0	15	3

泌尿器科

泌尿器科部長 高橋英祐

1、スタッフ

照沼正博、高橋英祐、丸山亮、渡邊和博の4人体制で診療を行っています。

2、診療内容

泌尿器がんを中心に、尿路結石、前立腺肥大症、尿路感染症など幅広い疾患に対し、診療を行っています。

3、診療実績

この5年間ににおいても手術内容の大きな変化がありました。

令和4年度から腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍に対しては、それまでの開腹手術から腹腔鏡下手術がメインになっております。同様に令和5年度から浸潤性膀胱癌に対する腹腔鏡下膀胱全摘術が開始されております。

一方で他院でのロボット補助下手術開始を反映し、令和2年度を最後に前立腺全摘術は施行されなくなっています。

また、令和4年度から体外衝撃波結石碎石術は外来での施行が多くなっています。

4、手術件数

副腎	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
副腎悪性腫瘍手術		2			
腹腔鏡下副腎摘出術	2		4	3	4
腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術					1

腎、尿管	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
腎（尿管）悪性腫瘍手術	26	14	11	8	2
腎摘出術	1		1		
腎部分切除術		6	7		
腹腔鏡下腎部分切除術					5
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	5	5	2	27	40
腹腔鏡下腎摘出術		1		1	
経皮的腎嚢胞穿刺術		2		1	

経皮的腎（腎盂）瘻造設術	7	4	7	7	14
腎盂形成手術				1	2
経尿道的尿管ステント抜去術	2	2	5	1	11
経尿道的尿管ステント留置術	55	39	31	45	45
経尿道的腎盂尿管腫瘍摘出術		1			
経尿道的腎盂尿管凝固止血術	1				
経尿道的尿管狭窄拡張術					3
経尿道的尿管瘤切除術	1				
尿管皮膚瘻造設術	3				
尿管膀胱吻合術	1				
腎盂尿管鏡	11	3	7	7	11
逆行性腎盂造影	0	7	8	5	9

膀胱	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
膀胱悪性腫瘍手術 （経尿道的手術）	90	100	108	115	135
膀胱腫瘍摘出術				1	
膀胱悪性腫瘍手術（切除）		1	2	1	1
膀胱悪性腫瘍手術 （全摘・回腸導管）	5	1	4	4	2
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 （全摘）					6
（うち回腸導管）					2
（うち代用膀胱）					2
（うち腸管利用の尿路変更なし）					2
尿膜管摘出術	1		1		
膀胱水圧拡張術	3			1	2
ハンナ型間質性膀胱炎手術				1	
膀胱異物摘出術（経尿道的手術）				1	1
経尿道的電気凝固術	16	8	12	11	14
膀胱内凝血除去術	13	6	11	2	4
膀胱瘻造設術	2	1	1	1	2

前立腺、尿道	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
前立腺生検	166	125	153	151	129
前立腺悪性腫瘍手術	12	3			
経尿道的前立腺手術	25	21	9	17	15
尿道狭窄内視鏡手術	20	7	18	3	2
外尿道口切開術				1	
外尿道腫瘍切除術		1		2	
女子尿道脱手術	2				

陰茎、精巣、陰囊	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
陰茎悪性腫瘍手術（陰茎切除）	1		1		
包茎手術	10	6	2	2	4
陰囊水腫手術	11	9	3	10	4
外陰血腫除去術	1				
精巣悪性腫瘍手術	2	4	3	6	3
精巣摘出術	38	31	23	25	21
精索捻転手術	4	4	4	2	2
停留精巣固定術	2	2	2	4	4

尿路結石	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	83	52	59	55	56
（うち 外来施行）		1	1	13	49
経尿道的尿路結石除去術	24	11	16	42	35
経皮的尿路結石除去術		1	6	2	2
膀胱結石摘出術（経尿道の手術）	4	12	6	12	12
膀胱結石摘出術 （膀胱高位切開術）					1

麻酔科

麻酔科部長 石井 秀明

麻酔科医師

佐藤一範、津久井淳、小村昇、石井秀明、橋本武志、藤原貴、木村明日香

診療状況

令和元年から令和5年度における麻酔科管理症例数と麻酔法別内訳は、表に記したとおりである。直近の気道確保の割合は、気管挿管 42.3%、ラリンジアルマスク 57.7%であった。前回の病院年報と比較して特筆すべき点は、全身麻酔に神経ブロックを併用した麻酔管理症例の増加が挙げられる。超音波ガイド下神経ブロックは、従来のランドマーク法よりも安全で正確に実施できる利点があり、硬膜外麻酔が実施困難な症例に対する代替手段にもなっている。さらに、2020年の診療報酬改定において、全身麻酔下での神経ブロックに対し、要件を満たした場合には450点の増点が認められ、病院の増収にも貢献している。

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
麻酔科管理総数	3,355	3,267	3,175	3,261	3,284
全身麻酔（吸入）	1,127	1,083	1,161	1,000	983
全身麻酔（全静脈麻酔）	70	47	40	24	64
全身麻酔（吸入） + 硬膜外麻酔, 伝達麻酔	1,982	1,978	1,847	2,073	2,053
全身麻酔（全静脈麻酔） + 硬膜外麻酔, 伝達麻酔	63	48	20	71	110
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔	86	77	63	59	45
硬膜外麻酔	5	4	3	4	2
脊髄くも膜下麻酔	15	20	28	22	24
伝達麻酔	7	10	13	8	3

放射線治療科

放射線治療科 部長 阿部 英輔

[概要]

当科では「がん」に対する放射線治療を行っています。放射線治療は手術療法、薬物療法と並ぶ、がん治療の三本柱の一つです。治療成績の向上や有害事象(副作用)の少ない治療をめざし、放射線治療(単独)だけでなく、手術療法や薬物療法と組み合わせた「集学的治療」を行うことも増えています。また、「がん」による症状を緩和するための放射線治療も積極的に行っています。主科となる診療科と連携・協力しつつ、治療方針について検討を行い、集学的治療の一環として適切な放射線治療を行ってまいります。

[高精度放射線治療]

近年の放射線治療の進歩は目覚ましく、脳神経領域、頭頸部領域、胸部領域、泌尿器科領域などにおいて高精度放射線治療が積極的に行われるようになってまいりました。当院では放射線治療装置を更新し、汎用型の高精度放射線治療装置 varian 社製 Truebeam と強度変調放射線治療 (IMRT) の専用装置 Accuray 社製 Tomotherapy (Radixact) の 2 台を導入しました。これらの治療装置を使って、2019 年 9 月より定位放射線治療(ピンポイント照射)、強度変調放射線治療 (IMRT) などの高精度放射線治療を積極的に行っています。また、2024 年 5 月より、肺腫瘍、肝腫瘍に対する定位放射線治療において、呼吸性移動に対応した動体追尾照射が可能となりました。

[診療体制]

常勤の放射線腫瘍医 2 名、診療放射線技師 6 名、看護師 2 名、事務 2 名、医学物理士 2 名の体制で診療を行っております。また、週 1 回、新潟大学の放射線腫瘍医 1 名、医学物理士 1 名により、客観的に診療レベルの評価を受けています。

今後も中越医療圏における放射線治療に貢献できるよう努めてまいります。

[治療件数]

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
放射線治療全体	279	337	396	389	385
強度変調放射線治療	28	108	137	78	146
定位放射線治療	0	0	7	26	21

放射線診断科

【各種検査数】

CT実施件数

令和元年度	30,653
令和2年度	30,299
令和3年度	30,446
令和4年度	30,988
令和5年度	30,715

MRI実施件数

令和元年度	9,727
令和2年度	8,938
令和3年度	8,825
令和4年度	7,431
令和5年度	7,800

核医学検査実施件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
骨シンチ	524	451	425	438	371
脳血流	132	132	121	114	107
心筋シンチ	465	400	312	269	134
Gaシンチ	10	12	10	10	11
甲状腺・副甲状腺	10	7	15	5	13
肺血流・換気	4	8	8	9	3
腎臓	16	9	10	13	7
消化管	1				2
脳槽シンチ			1		
ラジウム			1	0	3
合計	1,162	1,019	903	858	651

血管外科

【患者数】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来患者数	2,227	1,989	1,957	1,735	1,811
入院患者数	1,623	1,290	1,051	1,075	980

【年度毎症例数】

・令和元年度

診断群分類	名称	件数
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術処置等2なし	72
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	55
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈血栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術処置等1ーなし、1あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	36
050170xx99000x	閉塞性動脈疾患 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	11
110280xx02x1xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術処置等2ー1あり	9

・令和2年度

診断群分類	名称	件数
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術処置等2なし	74
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈血栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術処置等1ーなし、1あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	36
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	18
050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈血栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術処置等1ーなし、1あり 手術処置等2なし 定義副傷病名あり	13
050170xx99000x	閉塞性動脈疾患 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	11

・令和3年度

診断群分類	名称	件数
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術処置等2なし	76
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈血栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術処置等1ーなし、1あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	38
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	16
050170xx99000x	閉塞性動脈疾患 手術なし 手術処置等1なし 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	11
03001xxx97x0xx	頭頸部悪性腫瘍 その他の手術あり 手術処置等2なし	10

・令和4年度

診断群分類	名称	件数
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術処置等2なし	36
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈血栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術処置等1ーなし、1あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	23
050170xx02000x	閉塞性動脈疾患 動脈形成術、吻合術 指（手、足）の動脈等 手術処置等1ーなし、1あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	11
050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈血栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術処置等1ーなし、1あり 手術処置等2なし 定義副傷病名あり	11
110280xx02x1xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術処置等2ー1あり	10

・令和5年度

診断群分類	名称	件数
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	48
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈血栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術処置等1ーなし、1あり 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	32
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術処置等2なし	27
050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈血栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術処置等1ーなし、1あり 手術処置等2なし 定義副傷病名あり	11
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術処置等2なし 定義副傷病名なし	7

【年度毎手術件数】

・令和1年度

手術コード	手技名称	件数
K61604	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	71
K61704	下肢静脈瘤血管内焼灼術	51
K61600	四肢の血管拡張術	46
K61100	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部・その他）	12
K61700	下肢静脈瘤手術（高位結紮術）	11

・令和2年度

手術コード	手技名称	件数
K61604	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	77
K61600	四肢の血管拡張術	59
K61704	下肢静脈瘤血管内焼灼術	15
K61100	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部・その他）	15
K61700	下肢静脈瘤手術（高位結紮術）	9

・令和3年度

手術コード	手技名称	件数
K61604	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	70
K61600	四肢の血管拡張術	54
K61100	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部・その他）	19
K61704	下肢静脈瘤血管内焼灼術	14
K61400	バイパス移植術（その他の動脈）	14

・令和4年度

手術コード	手技名称	件数
K61600	四肢の血管拡張術	44
K61604	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	29
K61400	バイパス移植術（その他の動脈）	12
K61607	ステントグラフト内挿術（シャント）	12
K61400	血管移植術（その他の動脈）	10

・令和5年度

手術コード	手技名称	件数
K61600	四肢の血管拡張術	48
K61704	下肢静脈瘤血管内焼灼術	35
K61604	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	27
K61700	下肢静脈瘤手術（高位結紮術）	16
K61702	大伏在静脈抜去術	15

歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 山賀 雅裕

当科は常勤歯科医師（筆者）1名と、木曜日の高田晋子歯科医師（栄養サポートチーム兼任）、火、水、金曜日の新潟大学からの非常勤歯科医師（新潟大学う蝕学分野）、歯科衛生士4名、受付事務1名の体制で、1日約35人の外来患者の診療を行っています。

地域の歯科医院からの紹介は、従来から、埋伏歯や智歯などの若年者の難抜歯と、抗凝固薬や抗血小板薬服用中の高齢者の抜歯がかなりの割合を占めていましたが、最近では、骨吸収抑制薬の長期服用例や、全身状態の把握が困難な超高齢者の抜歯依頼が増加しています。

院内他科からのコンサルトでは、外来、入院ともに、基礎疾患の治療中に歯の痛みや義歯の不具合などを訴えて歯科治療が必要となったケースと、がんの治療（手術、化学療法、放射線療法）に伴う合併症や有害事象の予防、軽減を目的とした口腔機能管理依頼が多数を占めています。

がん治療の長期化や実患者数の増加に伴い、当科の外来のみですべてのニーズに対応することが困難となっています。今後は、当院でがん治療を受けられる皆様が、地元の歯科医院で口腔機能管理を継続できるよう、連携を深めていきたいと考えています。

	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	合計
新規患者数	849	836	759	753	777	3,972
周術期等口腔機能管理 計画策定数	129	126	105	156	139	655
周術期口腔機能管理 のべ件数	590	803	871	874	1,013	4,056

研究実績

Saito T, Nishikawa A, Hara-Saito Y, Salazar ARE, Kurokawa A, Iida A, Yamaga M, Kano H, Kato Y, Takata Y, Nishiyama H, Kitamura N, Tanaka T, Takagi R: Risk factors of medication-related osteonecrosis of the jaw in preventive tooth extraction before bone resorption inhibitor administration: A multicenter nested case-control study. Oral Sci Int 19(2): 79-87, 2022.

呼吸器外科

【患者数】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来患者数	2,869	2,413	2,253	2,135	2,029
入院患者数	2,028	1,931	1,444	1,354	1,547

【年度毎症例数】

・令和元年度

診断群分類	名称	件数
040040xx97x0xx	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術処置等 2 なし	142
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	11
040200xx99x00x	気胸 手術なし 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	11
040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術処置等 1 あり 手術処置等 2 なし	9
040030xx01xxxx	呼吸器系の良性腫瘍 肺切除術 気管支形成を伴う肺切除等	7

・令和2年度

診断群分類	名称	件数
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	120
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	26
040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術処置等 1 あり 手術処置等 2 なし	12
040200xx99x00x	気胸 手術なし 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	4
040020xx97xxxx	縦隔の良性腫瘍 手術あり	3

・令和3年度

診断群分類	名称	件数
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	99
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	32
040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術処置等 1 あり 手術処置等 2 なし	8
040200xx99x00x	気胸 手術なし 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	7
160450xx99x10x	肺・胸部気管・気管支損傷 手術なし 手術処置等 2 あり 定義副傷病名なし	6

・令和4年度

診断群分類	名称	件数
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	87
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	24
160450xx97x1xx	肺・胸部気管・気管支損傷 その他の手術あり 手術処置等 2 あり	5
040040xx99200x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術処置等 1 - 2 あり 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	4
040150xx97x00x	肺・縦隔の感染、膿瘍形成 手術あり 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	4

・令和5年度

診断群分類	名称	件数
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	99
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術処置等 2 なし 定義副傷病名なし	22
040030xx01xxxxx	呼吸器系の良性腫瘍 肺切除術 気管支形成を伴う肺切除等	8
040010xx01x0xx	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍 縦隔悪性腫瘍手術等 手術処置等 2 なし	6
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術処置等 1 なし 手術処置等 2 なし	5

【年度毎手術件数】

・令和1年度

手術コード	手技名称	件数
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）	96
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	35
K51300	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの））	18
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	15
K51300	胸腔鏡下肺切除術（部分切除）	10

・令和2年度

手術コード	手技名称	件数
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）	74
K51300	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの））	33
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	28
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	17
K48804	胸腔鏡下試験切除術	5

・令和3年度

手術コード	手技名称	件数
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）	46
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	38
K51300	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの））	37
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	10
K48804	胸腔鏡下試験切除術	10

・令和4年度

手術コード	手技名称	件数
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）	49
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	31
K51300	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの））	27
K51300	胸腔鏡下肺切除術（部分切除）	7
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm未満）	6

・令和5年度

手術コード	手技名称	件数
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）	58
K51402	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	28
K51300	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの））	27
K00000	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの・長径5cm未満）	9
K48804	胸腔鏡下試験切除術	9

検査科

【年度別累計検査数】

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
検査内訳	尿・糞便検査	99,318	94,033	95,650	82,864	76,167
	血液学の検査	341,574	352,105	361,149	348,547	338,080
	生化学の検査（Ⅰ）	1,835,208	1,818,400	1,892,681	1,857,682	1,816,608
	生化学の検査（Ⅱ）	53,246	53,806	56,627	52,038	55,929
	免疫学の検査	172,410	173,352	176,816	178,887	179,264
	微生物学の検査	24,066	25,917	29,327	30,170	23,100
	病理学の検査	171	204	214	204	245
	生理学的検査	43,892	38,800	36,661	36,130	36,528
	負荷試験検査	492	351	423	382	494
	緊急時間外検査	4,290	3,195	3,423	3,597	4,393
	小 計	2,574,667	2,560,163	2,652,971	2,590,501	2,530,808
	外注委託検査（－）	47,265	55,840	60,316	52,469	51,416
	検診合計	89,800	83,250	85,030	72,572	71,931
	検査合計	2,617,202	2,587,573	2,677,685	2,610,604	2,551,323
判断料・加算	判断料合計	262,048	254,953	262,850	263,531	244,417
	迅速検体検査加算	287,217	281,986	286,341	285,040	267,790
	検体検査管理加算（Ⅰ）	79,503	74,974	75,112	74,544	70,953
	検体検査管理加算（Ⅳ）	10,355	9,602	9,600	9,717	9,651
	輸血管理料（Ⅰ）	1,154	1,322	1,375	1,296	1,355
	輸血適正使用加算（Ⅰ）	1,152	1,320	1,375	1,296	1,355
	生化学検査（Ⅰ）初回加算	7,148	7,025	7,216	6,956	7,114
合 計	3,265,779	3,218,755	3,321,554	3,252,984	3,153,958	

【年度別月別検査数】

令和元年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計件数
尿・糞便検査	6,858	8,292	7,799	9,261	8,019	8,629	8,763	8,104	8,411	7,816	7,062	8,504	99,318
血液学の検査	26,984	28,215	26,680	30,798	28,707	29,848	30,149	29,130	29,064	27,461	25,267	29,190	341,574
生化学的検査(I)	157,340	155,531	145,594	163,850	151,250	153,295	159,251	152,798	155,288	148,642	138,215	154,156	1,835,208
生化学的検査(II)	4,645	4,319	4,383	4,932	4,284	4,519	4,254	4,338	4,489	4,177	3,897	4,349	53,246
免疫学的検査	14,237	13,264	13,751	15,145	14,510	14,439	14,610	15,759	14,869	14,055	12,641	13,629	172,410
微生物学的検査	1,812	2,156	2,066	2,252	2,082	1,935	2,066	2,097	1,962	1,853	1,845	1,940	24,066
病理学的検査	6	21	2	26	9	25	11	12	23	19	2	15	171
生理学的検査	3,879	4,044	3,444	4,957	3,434	3,551	3,909	3,812	3,689	3,271	2,984	3,239	43,892
負荷試験検査	40	27	65	51	45	54	39	33	44	33	30	31	492
緊急時間外検査	348	376	311	345	468	307	334	351	469	397	345	239	4,290
小計	219,849	216,545	204,225	232,616	212,808	215,602	224,066	215,431	218,317	207,724	192,168	215,495	2,574,667
外注委託検査(-)	4,405	3,713	3,748	4,146	4,495	3,712	4,144	4,099	3,881	3,514	3,469	3,939	47,265
検査合計	5,568	9,952	11,954	12,790	9,700	8,010	8,918	7,018	5,801	4,356	3,866	2,467	99,900
検査合計	220,812	222,784	211,681	241,260	218,013	219,900	228,860	218,351	220,237	208,566	192,565	214,003	2,611,202
判断科合計	22,176	21,869	21,177	23,686	21,530	22,157	22,862	21,762	22,512	20,786	19,372	22,159	262,048
迅速検体検査加算	25,105	23,626	22,778	26,664	23,105	23,876	25,660	23,191	24,580	22,777	20,800	25,051	287,217
検体検査管理加算(I)	6,758	6,587	6,385	7,182	6,414	6,715	7,018	6,892	7,002	6,285	5,759	6,706	79,503
検体検査管理加算(M)	864	853	856	891	921	868	835	887	899	805	836	822	10,355
輸血管理科(I)	101	96	92	95	100	90	103	98	100	95	100	82	1,154
輸血適正使用加算(I)	101	95	92	94	100	90	103	98	100	95	100	82	1,152
生化学検査(I)初回加算	622	573	563	647	591	576	607	574	581	634	579	601	7,148
合計	276,589	276,483	263,774	300,519	270,774	274,272	288,048	271,651	276,011	260,063	240,117	269,526	3,265,779

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計件数
尿・糞便検査	7,540	6,972	8,343	7,968	7,805	8,205	8,659	7,494	8,385	7,006	6,788	8,837	94,083
血液学の検査	27,746	26,730	30,030	30,628	26,957	30,480	31,745	29,624	32,439	23,912	26,149	33,265	352,105
生化学的検査(I)	145,240	140,291	154,129	156,937	146,594	158,092	160,313	149,913	161,493	144,068	133,136	170,194	1,818,400
生化学的検査(II)	4,174	3,856	4,763	4,800	4,438	4,675	4,977	4,266	4,818	3,936	4,041	5,062	53,806
免疫学的検査	13,273	13,045	14,621	15,672	13,590	14,685	15,546	15,007	15,406	13,737	12,698	16,072	173,352
微生物学的検査	1,940	1,997	1,832	2,138	2,389	2,424	2,245	2,120	2,268	2,218	2,002	2,424	25,917
病理学的検査	21	21	10	15	7	9	35	18	25	11	17	15	204
生理学的検査	3,006	3,047	3,502	3,440	3,085	3,154	3,623	3,244	3,386	2,934	2,761	3,818	38,800
負荷試験検査	29	15	32	21	27	28	36	23	43	33	30	34	351
緊急時間外検査	238	297	228	266	283	304	248	278	274	309	237	233	3,195
小計	203,107	186,271	217,490	222,085	207,175	220,057	227,427	212,187	228,557	198,194	187,888	238,754	2,560,163
外注委託検査(-)	4,345	3,644	4,554	4,976	4,861	5,037	5,423	4,415	4,755	4,291	4,042	5,477	55,840
検査合計	4,518	3,247	7,454	10,342	8,717	10,208	10,068	8,555	7,457	4,312	4,168	4,186	83,250
検査合計	203,280	195,874	220,390	227,451	211,011	225,229	232,072	218,327	231,259	198,215	188,008	238,463	2,587,573
判断科合計	20,248	19,109	21,737	21,622	20,810	21,989	22,833	21,011	22,786	20,054	18,897	24,083	254,953
迅速検体検査加算	23,054	20,617	24,762	24,677	22,635	24,066	25,655	22,204	25,405	21,339	20,381	27,191	281,986
検体検査管理加算(I)	6,112	5,576	6,529	6,379	6,152	6,496	6,838	6,163	6,731	5,872	5,257	7,067	74,974
検体検査管理加算(M)	756	791	799	855	795	786	791	783	829	812	775	831	9,802
輸血管理科(I)	119	109	89	112	101	113	124	107	117	110	108	118	1,322
輸血適正使用加算(I)	119	109	89	111	101	113	123	107	117	110	108	118	1,320
生化学検査(I)初回加算	570	557	600	644	580	582	580	596	598	577	501	638	7,025
合計	254,253	242,741	274,995	281,851	262,185	279,275	289,016	267,300	287,901	246,889	233,820	268,509	3,218,755

令和3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計件数	
検査内訳	尿・糞便検査	7,985	7,069	8,499	8,152	8,805	9,451	8,149	8,357	8,749	7,098	6,461	7,955	95,650
	血液学の検査	29,933	28,141	31,157	30,435	31,640	31,289	31,075	30,042	31,671	28,052	25,423	32,091	361,149
	生化学の検査(I)	154,855	146,135	157,350	155,990	160,319	163,188	165,538	160,816	168,971	151,154	137,607	170,758	1,892,681
	生化学の検査(II)	4,607	4,197	5,160	4,854	4,956	5,398	5,036	4,712	5,010	4,110	3,826	4,261	56,827
	免疫学の検査	14,479	13,496	15,412	14,921	14,653	15,195	15,307	15,269	15,673	13,981	12,123	16,087	176,816
	微生物学の検査	2,207	2,046	2,312	2,250	2,897	2,751	2,867	2,206	2,317	2,818	2,233	2,583	29,327
	病理学の検査	17	20	9	29	18	8	20	8	13	20	25	27	214
	生理学的検査	3,111	2,697	3,496	3,066	3,044	3,161	3,272	3,008	3,259	2,640	2,419	3,293	36,661
	負荷試験検査	38	28	42	32	39	43	44	34	25	98	24	35	423
	緊急時間外検査	275	295	256	358	395	245	266	241	268	332	230	282	3,423
	小計	217,507	204,344	223,683	220,057	226,706	229,749	231,374	224,708	236,357	210,243	190,371	237,872	2,652,971
	外注委託検査(-)	5,444	4,432	4,982	4,881	5,000	6,012	5,779	4,728	5,059	4,778	3,985	5,238	60,316
	検査合計	4,336	6,308	11,301	9,419	8,889	10,108	10,003	8,728	6,434	3,636	3,594	2,275	85,030
検査合計	216,399	208,220	230,002	224,594	230,095	233,845	235,598	228,708	237,782	209,101	189,980	234,911	2,677,685	
判断料・加算	判断料合計	21,754	20,088	22,834	22,011	22,282	22,794	22,973	21,996	23,438	20,432	18,680	23,568	262,860
	迅速検体検査加算	24,339	21,551	24,946	23,929	24,026	24,794	24,980	23,242	26,015	21,836	20,579	26,772	288,341
	検体検査管理加算(I)	6,284	5,712	6,616	6,277	6,271	6,604	6,628	6,273	6,719	5,650	5,186	6,894	75,112
	検体検査管理加算(M)	901	745	764	813	824	768	824	893	851	821	759	797	9,600
	輸血管理料(I)	97	119	115	115	116	127	123	111	127	103	96	126	1,375
	輸血適正使用加算(I)	97	119	115	115	116	127	123	111	127	103	96	126	1,375
	生化学検査(I)初回加算	599	562	585	588	633	594	631	610	683	654	476	601	7,216
	合計	270,370	259,116	285,977	278,442	284,855	289,583	291,278	281,984	295,692	258,700	235,952	293,795	3,321,554

令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計件数	
検査内訳	尿・糞便検査	6,890	6,903	7,358	7,115	7,448	7,122	7,007	6,924	6,815	6,115	5,981	7,186	82,864
	血液学の検査	28,517	28,406	30,547	29,596	29,982	30,318	29,423	28,904	29,069	26,928	25,860	30,997	348,547
	生化学の検査(I)	151,545	152,726	161,437	157,501	158,909	161,188	158,586	153,852	154,741	144,298	139,085	164,024	1,857,682
	生化学の検査(II)	4,244	4,314	4,778	4,418	4,287	4,875	4,085	4,314	4,266	3,812	3,734	4,911	52,038
	免疫学の検査	14,264	14,767	15,599	15,668	14,334	14,994	16,895	15,039	14,597	13,485	13,296	15,929	178,887
	微生物学の検査	2,268	2,506	2,523	2,731	2,801	2,668	2,689	2,512	2,620	2,339	2,135	2,360	30,170
	病理学の検査	14	15	10	29	23	22	14	7	33	23	11	3	204
	生理学的検査	3,027	2,927	3,302	3,251	2,853	3,006	3,152	3,097	2,987	2,671	2,744	3,219	36,130
	負荷試験検査	37	25	33	33	38	35	41	23	25	29	28	35	382
	緊急時間外検査	246	346	254	372	273	292	340	293	300	323	255	303	3,597
	小計	211,070	212,345	225,841	220,714	220,988	224,500	222,232	214,765	215,351	200,029	193,129	228,961	2,580,501
	外注委託検査(-)	5,139	4,399	4,909	4,758	4,010	4,999	4,530	3,807	4,264	3,591	3,581	4,582	52,469
	検査合計	3,744	6,949	6,583	7,695	7,439	7,293	8,742	9,299	5,157	3,839	3,483	2,550	72,572
検査合計	209,675	215,495	227,315	223,651	224,397	226,894	226,444	220,256	216,246	200,271	193,031	226,928	2,610,604	
判断料・加算	判断料合計	21,447	21,718	22,790	22,543	22,365	22,830	22,461	22,104	21,913	20,328	19,611	23,429	263,531
	迅速検体検査加算	23,661	23,312	25,394	23,843	24,684	24,766	23,883	23,470	23,447	21,660	20,986	25,934	265,040
	検体検査管理加算(I)	6,160	6,078	6,522	6,217	6,223	6,526	6,397	6,206	6,093	5,710	5,551	6,861	74,544
	検体検査管理加算(M)	730	773	799	871	813	848	856	845	858	756	746	822	9,717
	輸血管理料(I)	114	117	109	103	107	107	111	99	109	93	107	120	1,295
	輸血適正使用加算(I)	114	117	109	103	107	107	111	99	109	93	107	120	1,295
	生化学検査(I)初回加算	543	565	592	614	601	583	613	585	593	582	526	579	6,958
	合計	262,444	268,170	283,630	277,945	279,297	282,641	280,876	273,664	269,368	249,490	240,665	264,794	3,252,984

令和5年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計件数	
検査内訳	尿・糞便検査	6,547	6,620	6,636	6,417	6,681	6,042	6,370	6,353	6,536	5,932	5,859	6,174	76,167
	血液学の検査	27,544	28,276	28,763	28,246	29,509	27,977	28,696	27,890	28,947	27,093	26,970	28,169	338,080
	生化学の検査(I)	147,819	153,375	155,624	151,101	157,046	151,151	154,130	148,934	155,270	144,272	145,753	152,133	1,816,606
	生化学の検査(II)	4,480	4,647	4,932	4,548	4,679	5,123	4,504	4,631	4,919	4,361	4,482	4,613	55,929
	免疫学の検査	14,503	14,679	14,986	15,765	15,840	15,412	15,481	15,078	15,007	14,546	14,058	13,909	179,264
	微生物学の検査	2,198	3,258	2,245	1,918	1,894	1,666	1,665	1,649	1,803	1,630	1,580	1,394	23,300
	病理学の検査	28	15	15	19	34	20	23	15	21	15	21	19	248
	生理学的検査	2,984	2,985	3,323	3,006	3,095	2,963	3,277	3,001	3,085	2,965	2,818	3,024	36,528
	負荷試験検査	35	48	58	33	33	41	34	41	48	43	45	37	494
	緊急時間外検査	349	367	311	408	480	332	303	240	433	395	354	343	4,393
	小計	206,497	214,268	216,883	211,461	219,271	210,227	214,488	208,132	216,089	201,252	201,940	209,815	2,430,806
	外注委託検査(-)	4,576	4,424	4,286	4,178	4,507	4,585	4,150	4,069	4,606	3,543	4,315	4,180	51,416
	検査合計	4,308	6,334	7,896	7,552	7,927	7,314	8,146	7,984	5,588	3,422	3,238	2,222	71,931
検査合計	206,229	216,178	220,503	214,638	222,691	213,456	218,479	212,047	217,054	201,131	200,863	207,857	2,551,323	
判断料・加算	判断料合計	21,191	20,981	21,170	20,293	20,722	20,473	20,480	20,104	20,527	19,183	18,846	20,447	244,417
	迅速検体検査加算	22,232	22,601	22,977	22,249	23,438	21,961	22,850	22,243	22,942	20,622	20,829	22,846	267,790
	検体検査管理加算(I)	6,062	6,149	6,327	5,904	5,995	5,883	5,956	5,808	5,933	5,435	5,284	6,051	70,953
	検体検査管理加算(M)	777	622	613	847	847	825	872	836	890	840	864	818	9,651
	輸血管理料(I)	108	124	103	105	108	112	121	118	114	125	111	105	1,355
	輸血適正使用加算(I)	108	124	103	108	108	112	121	118	114	125	111	105	1,355
	生化学検査(I)初回加算	564	576	590	627	609	576	593	597	613	614	591	584	7,114
	合計	257,291	267,351	272,386	264,967	274,518	268,496	269,472	261,921	268,187	248,075	247,499	256,793	3,153,958

編集後記

令和元年度から令和 5 年度にわたる病院業績集をお届けするにあたり、深く感謝の意を表します。

本書に収録されたデータと分析は、関係者の皆様のご尽力と協力の賜物です。職員の絶え間ない努力、そして患者の皆様の理解と協力があったからこそ、私たちはこの成果を収めることができました。

特に、この時期は新型コロナウイルス感染症のパンデミックという未曾有の危機に直面しました。この困難な時期を乗り越えたことは、今後の医療の発展においても大きな財産となるでしょう。

また、各年度における当院の取り組みや施策が、具体的な数値や成果として明確に示されていることは、今後の参考資料としても非常に価値のあるものとなっています。これは、患者中心の医療を目指す我々の使命を再確認し、次なるステップへの指針となるはずです。最後に、本書の編集に携わったすべての方々に感謝申し上げます。皆様のご協力がなければ、このような包括的な業績集の完成は成し得なかったことでしょう。今後も引き続き、良質で心温まる医療を提供し、努力を続けてまいります。

これからも当院が地域社会において信頼される存在であり続けることを心から願っています。

学術研修委員会委員長
高村 昌昭